

2016年度 自己点検・評価【関西学院大学全体】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等> 設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2017年2月23日

| | | | |
|------|-----|------|------|
| 主管部局 | 学長室 | 担当部局 | 学長室 |
| | | | 教務機構 |

A-1

| 関西学院の理念 | 変更の有無 |
|---|--|
| <p>【ミッションステートメント】 関西学院は、キリスト教主義に基づく「学びと探究の共同体」として、ここに集うすべての者が生涯をかけて取り組む人生の目標を見出せるよう導き、思いやりと高潔さをもって社会を変革することにより、スクール・モットー “Mastery for Service” を体現する、創造的かつ有能な世界市民を育むことを使命とする。</p> <p>【スクール・モットー】 関西学院のスクール・モットー“Mastery for Service”は、「奉仕のための練達」と訳され、隣人・社会・世界に仕えるために自らを鍛える個々の主体のありかたを示している。</p> <p>【めざす人間像】「“Mastery for Service”を体現する世界市民」 関西学院がめざす人間像は、世界を視野におさめ、他者(ひと)への思いやりと社会変革への気概を持ち、高い識見と倫理観を備えて自己を確立し、自らの大きな志をもって行動力を発揮する人である。</p> <p> << 他者への思いやり >></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自己を基点とした周囲への温かい配慮(自己愛から他者愛、人間関係と他者への思いの育成) ・ 自己の果たせる役割の自覚(持てる力・足らざる力の認識、他者への積極姿勢と行動) <p> << 大きな志 >></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生涯課題の設定(家庭、地域、先人からの学び、いかに生きるかの自問) ・ 目標の達成を支える強い意志(夢・望みと強い思いを基点とする学びの意欲と強い実行意欲) <p> << 高い識見と倫理観 >></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎知識と専門的学識(共通教養教育、学士力) ・ 学びと実践を結ぶ意欲(「生涯課題」の追究) ・ 知的基盤に立つ倫理観(専門教養教育、キリスト教主義に基づく教育、周囲(家族、友人、地域社会、世界)との交流) ・ 問題発見と解決への挑戦(問題発見・解決のための学習と実践) <p> << 確立した自己 >></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自己＝オンリーワンの認識(自尊心と謙虚さ、固有の信念、人生観) ・ 自己と社会を見る目の育成(人間力の育成と集団の中の自己位置付け、自主性と自立性) <p> << 行動力と存在感 >></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会参画への意識とそれを支える自己研鑽(コミュニケーション能力の涵養) ・ 他者から信頼される高潔さ(状況と役割の把握、責任をとらなれた行動力) <p> << 社会変革の気概 >></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会への視点と認識(教養、歴史認識、現状への批判と改革志向) ・ 自己の能力に対する信頼(専門的学識の深化と実践力の涵養) <p> << 世界への視野 >></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自文化に対する素養とそれに基づく世界観の醸成(教養、歴史認識、異文化への理解) ・ 人類に普遍共通する問題の認識と世界的視野(世界を視野におさめた普遍的価値(人権、自由、平和)への認識と問題解決への意欲:思考力、語学力) ・ 人権意識の涵養(自己認識と他者への波及) <p>【めざす大学像】「< 垣根なき学びと探究の共同体(ラーニングコミュニティ) >の実現」 関西学院大学は、キリスト教主義に基づく「垣根なき学びと探究の共同体」をめざし、全人的な教育と創造的な研究により、有能にして心温かい世界市民を社会に送り出すことを使命としている。</p> | <p><input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し</p> <p>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</p> |

A-2

| 関西学院大学の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(学則上) | 変更の有無 | 関西学院大学の目的(Webサイト上) | 変更の有無 |
|---|--|--|--|
| <p>【関西学院大学】(関西学院大学学則第1条) 学校教育法及び教育基本法の規定するところに従い、広く知識を授けるとともに深く専門の学芸を教授研究し、キリスト教主義に基づいて人格を陶冶することを目的とする。</p> <p>【関西学院大学大学院】(関西学院大学大学院学則第1条) 本大学院は学部における一般的及び専門的教養の基礎の上に、専門の学科を教授研究し、深広な学識と研究能力とさらに進んで研究指導能力を養い、又は高度の専門性が求められる 職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培うとともに、キリスト教主義に基づいて人格を陶冶し、もって文化の進展に寄与することを目的とする。</p> <p> << 修士課程 >></p> <p> 広い視野に立って、精深な学識を授け、専門分野における研究能力、または高度の専門性を要する職業等に必要の高度の効力を養うことを目的とする。</p> <p> << 博士課程(前期課程・後期課程) >></p> <p> 専門分野について研究者として自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。</p> <p> << 専門職大学院 >></p> <p> 専ら高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培うことを目的とする。</p> <p>【関西学院大学専門職大学院】(関西学院大学専門職大学院学則第2条) 学術の理論及び応用を教授研究し、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培うとともに、キリスト教主義に基づいて人格を陶冶し、文化の進展に寄与することを目的とする。</p> | <p><input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し</p> <p>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</p> | <p>「関西学院大学の理念・目的」 関西学院大学はその理念とするキリスト教主義に基づき、教育基本法および学校教育法の規定するところに従い、広く知識を授けるとともに深く専門の学芸を教授研究し、人格を陶冶することを目的とする。</p> <p> 本学初代学長(第4代院長)C. J. L. ベーツが提唱したスクールモットー“Mastery for Service (奉仕のための練達)”は、関西学院の建学の精神を簡潔に表現するものであり、「社会貢献のためにこそ実力を身につけよ」と解されている。本学は、知性を、そして自らが持つすべての豊かさを、隣人のために用いることを強調するとともに、創立当初から培われてきた国際性と社会貢献への使命感を身につけた世界市民の育成を重視する。</p> <p> 本学は、教育においては、全人的教養および専門的知識・技能を修得させるとともに、広く創造力、課題発見能力、課題解決能力そして実行力を培うことをめざす。また、研究においては、本学として特色ある基礎研究を強化しつつ、応用研究および先端的研究を発展充実させるとともに、研究成果を社会に還元して、社会貢献することをめざす。</p> | <p><input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し</p> <p>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</p> |

2016年度 自己点検・評価【関西学院大学全体】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2017年2月23日

| | | | |
|------|-----|------|------|
| 主管部局 | 学長室 | 担当部局 | 学長室 |
| | | | 教務機構 |

| 「Mastery for Service」を体現する世界市民」に向け、卒業時に学部、研究科の区別なく共通して身につけておくべき知識・能力と学生像 | 変更の有無 |
|--|--|
| <p>“Mastery for Service”を体現する世界市民をめざし、キリスト教主義教育をとおして、世界への視野、幅広い知識、深い専門性、豊かな人間性と自らを律する強さと主体性を身につけ、多様性への理解を深め、他者と協力してよりよい人間関係や社会を築くために、困難を乗り越えて持続的に貢献しつづける力を持った学生。</p> <p>【関西学院大学(学士課程)】≪卒業時に学部の区別なく共通して身につけておくべき知識・能力≫</p> <ol style="list-style-type: none"> [関心・意欲・態度] 自律的な態度と社会に貢献しようとする姿勢 <ul style="list-style-type: none"> 自らを律する強さと主体性を持ち、他者と協力してよりよい人間関係や社会を築くための基本的な態度を身につけている。 世界への視野をもって、社会への深い関心を抱き、生涯にわたって学び、考えていく意欲を持っている。 [知識・理解] 幅広い知識と深い専門性 <ul style="list-style-type: none"> 世界の社会、文化、人間、自然、社会についての幅広い知識と、多様性を理解する多角的な視点を身につけている。 専攻分野の知識を体系的・構造的に理解し、その分野に固有の視座や思考方法を身につけている。 [技能・表現] 実践的な学習技能とコミュニケーション力 <ul style="list-style-type: none"> 情報収集力、データ分析力、論理的思考力、表現力などの技能を身につけている。 日本語と特定の外国語をもちいて、他者と円滑にコミュニケーションできる力を身につけている。 [思考・判断] 課題解決のための総合的思考・判断力 <ul style="list-style-type: none"> 現代社会における課題に取り組むための課題発見力、創造的思考力および課題解決能力を身につけている。 <p>【関西学院大学大学院(博士課程前期課程)】≪修了時に研究科(博士課程前期課程)の区別なく共通して身につけておくべき知識・能力≫ 幅広い視野、精深な学識、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要能力 (大学院学則第2条より)</p> <p>【関西学院大学大学院(博士課程後期課程)】≪修了時に研究科(博士課程後期課程)の区別なく共通して身につけておくべき知識・能力≫ 専攻分野について研究者として自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識 (大学院学則第2条より)</p> <p>【関西学院大学大学院(専門職学位課程)】≪修了時に研究科(専門職学位課程)の区別なく共通して身につけておくべき知識・能力≫ 専ら高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力 (大学院学則第2条より)</p> | <p>変更の有無</p> <p><input type="checkbox"/>有り <input checked="" type="checkbox"/>無し</p> <p>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</p> |
| 学位授与方針(ディプロマ・ポリシー;DP) | 変更の有無 |
| <p>【関西学院大学(学士課程)】 関西学院大学は、キリスト教主義に基づく垣根なき学びと探求の共同体(ラーニングコミュニティ)として、全人的な教育と創造的な研究により、スクールモットー“Mastery for Service”を体現する世界市民の育成を使命としている。その実現に向けて、「学部の区別なく共通して卒業時に身につけておくべき知識・能力」を定めており、これを各学部の教育課程に通底するものとして位置付ける。加えて、学位授与にあたっては、各学部が定める期間在学し、必要な単位を修得し、卒業することを要件とする。</p> <p>【関西学院大学大学院(博士課程前期課程)】 各研究科が定める期間在学し、所定の授業科目及び単位数を修得し、必要な研究指導を受けた上で、各研究科の目的に応じ、幅広い視野、精深な学識、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要能力を修め、専門外国語学力の認定、修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格することを要件とする。 (大学院学則第2条及び第49条より)</p> <p>【関西学院大学大学院(博士課程後期課程)】 各研究科が定める期間在学し、所定の授業科目及び単位数を修得し、必要な研究指導を受けた上で、各研究科の目的に応じ、専攻分野について研究者として自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を修め、専門外国語学力の認定、博士論文の審査及び最終試験に合格することを要件とする。 (大学院学則第2条及び第49条より)</p> <p>【関西学院大学大学院(専門職学位課程)】 各研究科が定める期間在学し、所定の授業科目及び単位数を修得し、各研究科の目的に応じ、専ら高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を修めることを要件とする。なお、経営戦略研究科会計専門職専攻に所属する一部の学生については、必要な研究指導を受けた上で、学位論文の審査及び最終試験に合格することも要件とする。 (大学院学則第2条及び専門職大学院学則第20、22条より)</p> | <p>変更の有無</p> <p><input type="checkbox"/>有り <input checked="" type="checkbox"/>無し</p> <p>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</p> |

2016年度 自己点検・評価【関西学院大学全体】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等> 設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2017年2月23日

| | | | |
|------|-----|------|------|
| 主管部局 | 学長室 | 担当部局 | 学長室 |
| | | | 教務機構 |

| A-1.「理念」、A-2.「目的」「卒業時に学部・研究科の区別なく共通して身につけておくべき知識・能力と学生像」「学位授与方針」に関する、適切性および検証体制・検証プロセスの確認 | | | チェック欄 |
|---|---|----------|--|
| 【確認1】 | 「関西学院大学の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(学則上)」は、「A-1. 関西学院の理念」に沿い、本学がめざす方向性を適切に表現しているか。 | 学士課程 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| | | 博士課程前期課程 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| | | 博士課程後期課程 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| | | 専門職学位課程 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| 【確認2】 | 「関西学院大学の目的(Web サイト上)」は、A-2「関西学院大学の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(学則上)」に沿った内容であり、社会に対して分かりやすい表現になっているか。 | 学士課程 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| | | 博士課程前期課程 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| | | 博士課程後期課程 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| | | 専門職学位課程 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| 【確認3】 | 「学部・研究科の区別なく共通して身につけておくべき知識・能力と学生像」と「学位授与方針」は、A-2「関西学院大学の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(学則上)」、「関西学院大学の目的(Web サイト上)」と整合性が取れ、目的の実現に向けて相応しい内容となっているか。 | 学士課程 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| | | 博士課程前期課程 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| | | 博士課程後期課程 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| | | 専門職学位課程 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| 【確認4】 | 学位授与方針は、学位授与にあたり、学位授与基準および当該学位に相応しい学習成果を明確に示しているか。 | 学士課程 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| | | 博士課程前期課程 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| | | 博士課程後期課程 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| | | 専門職学位課程 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| 【確認5】 | 学位授与方針に基づく学習成果を測定するための評価指標を開発し、適切に成果を測るよう努めているか。 | 学士課程 | <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ |
| | | 博士課程前期課程 | <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ |
| | | 博士課程後期課程 | <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ |
| | | 専門職学位課程 | <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ |
| 【確認6】 | 目的、「学部・研究科の区別なく共通して身につけておくべき知識・能力と学生像」、「学位授与方針」は周知・公表されているか。 | 学士課程 | <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ(DP については2016年度中に公表) |
| | | 博士課程前期課程 | <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ(DP については2016年度中に公表) |
| | | 博士課程後期課程 | <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ(DP については2016年度中に公表) |
| | | 専門職学位課程 | <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ(DP については2016年度中に公表) |

2016年度 自己点検・評価【関西学院大学全体】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等> 設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2017年2月23日

| | | | |
|------|-----|------|-------------|
| 主管部局 | 学長室 | 担当部局 | 学長室 教務機構 |
|------|-----|------|-------------|

【A-1 および A-2(DP 以外)】 検証担当部局:学長室

| | | | |
|-----------------------|--|---|--|
| 適切性の検証体制を明確にしているか | 責任主体・組織(承認・決裁) | 学長室 | |
| | 検証手続き | 学長室会 | |
| | 決定・判断時期 | 毎年12月 | |
| | 検証エビデンス | 学長室会議事録 | |
| 前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。 | | <input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2017年2月) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。(予定:) | |
| 検証プロセス | 検証方法 | 学長室会において適切性を議論し検証する。 | |
| | 検証結果 | <input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。 | |
| | 判断根拠 | <input type="checkbox"/> 既に見直した(→A票の内容を書き換えた。) <input type="checkbox"/> 今後見直す予定である。(見直し計画:) <input type="checkbox"/> その他 () | |
| 周知・公表方法 | <input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット・リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他() | | |

【A-2(DP(学士課程))】 検証担当部局:学長室、教務機構

| | | | |
|-----------------------|--|--|--|
| 適切性の検証体制を明確にしているか | 責任主体・組織(承認・決裁) | 学長室 | |
| | 検証手続き | 教育課程基本方針策定委員会 | |
| | 決定・判断時期 | 毎年1月 | |
| | 検証エビデンス | 教育課程基本方針策定委員会議事録 | |
| 前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。 | | <input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2017年2月) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。(予定:) ※2016年度は都合により学部長会で検証 | |
| 検証プロセス | 検証方法 | 教育課程基本方針策定委員会において適切性を議論し検証する。 | |
| | 検証結果 | <input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。 | |
| | 判断根拠 | <input type="checkbox"/> 既に見直した(→A票の内容を書き換えた。) <input type="checkbox"/> 今後見直す予定である。(見直し計画:) <input type="checkbox"/> その他 () | |
| 周知・公表方法 | <input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット・リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他() | | |

2016年度 自己点検・評価【関西学院大学全体】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等> 設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2017年2月23日

| | | | |
|------|-----|------|------|
| 主管部局 | 学長室 | 担当部局 | 学長室 |
| | | | 教務機構 |

【A-2(DP(博士課程前期課程)) 検証担当部局:学長室、教務機構

| | | |
|-----------------------|----------------|---|
| 適切性の検証体制を明確にしているか | 責任主体・組織(承認・決裁) | 学長室 |
| | 検証手続き | 教育課程基本方針策定委員会 |
| | 決定・判断時期 | 毎年1月 |
| | 検証エビデンス | 教育課程基本方針策定委員会議事録 |
| 前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。 | | <input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2017年2月) <input type="checkbox"/>2. 検証を行っていない。→(予定:) ※2016年度は都合により学部長会で検証 |
| 検証プロセス | 検証方法 | 教育課程基本方針策定委員会において適切性を議論し検証する。 |
| | 検証結果 | <input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。 <div style="margin-left: 20px;"> <input type="checkbox"/>既に見直した(→A票の内容を書き換えた。) <input type="checkbox"/>今後見直す予定である。(見直し計画:) <input type="checkbox"/>その他 () </div> |
| | 判断根拠 | 「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)、「入学者受入の方針」(アドミッション・ポリシー)に関する「3つのポリシーの策定及び運用に関するガイドライン」(中央教育審議会大学分科会大学教育部会)、「2016年度 関西学院大学 聖和短期大学自己点検・評価 帳票作成の手引き」(関西学院評価情報分析室)等 |
| 周知・公表方法 | | <input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット・リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他() |

【A-2(DP(博士課程後期課程)) 検証担当部局:学長室、教務機構

| | | |
|-----------------------|----------------|---|
| 適切性の検証体制を明確にしているか | 責任主体・組織(承認・決裁) | 学長室 |
| | 検証手続き | 教育課程基本方針策定委員会 |
| | 決定・判断時期 | 毎年1月 |
| | 検証エビデンス | 教育課程基本方針策定委員会議事録 |
| 前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。 | | <input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2017年2月) <input type="checkbox"/>2. 検証を行っていない。→(予定:) ※2016年度は都合により学部長会で検証 |
| 検証プロセス | 検証方法 | 教育課程基本方針策定委員会において適切性を議論し検証する。 |
| | 検証結果 | <input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。 <div style="margin-left: 20px;"> <input type="checkbox"/>既に見直した(→A票の内容を書き換えた。) <input type="checkbox"/>今後見直す予定である。(見直し計画:) <input type="checkbox"/>その他 () </div> |
| | 判断根拠 | 「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)、「入学者受入の方針」(アドミッション・ポリシー)に関する「3つのポリシーの策定及び運用に関するガイドライン」(中央教育審議会大学分科会大学教育部会)、「2016年度 関西学院大学 聖和短期大学自己点検・評価 帳票作成の手引き」(関西学院評価情報分析室)等 |
| 周知・公表方法 | | <input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット・リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他() |

2016年度 自己点検・評価【関西学院大学全体】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等> 設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2017年2月23日

| | | | |
|------|-----|------|------|
| 主管部局 | 学長室 | 担当部局 | 学長室 |
| | | | 教務機構 |

【A-2(DP(専門職学位課程))】 検証担当部局:学長室、教務機構

| | | |
|-----------------------|--|---|
| 適切性の検証体制を明確にしているか | 責任主体・組織(承認・決裁) | 学長室 |
| | 検証手続き | 教育課程基本方針策定委員会 |
| | 決定・判断時期 | 毎年1月 |
| | 検証エビデンス | 教育課程基本方針策定委員会議事録 |
| 前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。 | | <input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2017年2月) <input type="checkbox"/>2. 検証を行っていない。→(予定:) ※2016年度は都合により学部長会で検証 |
| 検証プロセス | 検証方法 | 教育課程基本方針策定委員会において適切性を議論し検証する。 |
| | 検証結果 | <input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。 <div style="margin-left: 20px;"> <input type="checkbox"/>既に見直した(→A票の内容を書き換えた。) <input type="checkbox"/>今後見直す予定である。(見直し計画:) <input type="checkbox"/>その他 () </div> |
| | 判断根拠 | 「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)、「入学者受入の方針」(アドミッション・ポリシー)に関する「3つのポリシーの策定及び運用に関するガイドライン」(中央教育審議会大学分科会大学教育部会)、「2016年度 関西学院大学 聖和短期大学自己点検・評価 帳票作成の手引き」(関西学院評価情報分析室)等 |
| 周知・公表方法 | <input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット・リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他() | |

2016年度 自己点検・評価【関西学院大学全体】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等> 設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2017年2月23日

| | | | |
|------|-----|------|-----|
| 主管部局 | 学長室 | 担当部局 | 学長室 |
|------|-----|------|-----|

A-3

| 教育研究目標 | | 変更の有無 |
|--------|---|--|
| 目標1 | (タイトル) 全ての学生に対する質の保証 | <input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し ※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと |
| | (狙い・内容) 学生・教職員がともに学び合う気風を育て、キリスト教主義教育を通して関西学院大学の卒業生にふさわしい、「世界市民」として求められる高い資質・能力(関心・意欲・態度、知識・理解、技能・表現、思考・判断)をすべての学生に保証する。 | |
| 目標2 | (タイトル) 研究支援の充実と成果の社会還元及び社会連携の強化 | <input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し ※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと |
| | (狙い・内容) 特色ある基礎研究を強化し、応用研究及び先端的研究を発展充実させ、その研究成果を国内外に発信するとともに社会に還元し、地域社会、国際社会、産業界・官界等との連携を強化する。 | |
| 目標3 | (タイトル) キャンパスのグローバル化の推進 | <input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し ※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと |
| | (狙い・内容) 世界各国からの優秀な留学生と本学の学生・教職員がともに集う、多文化が共生する国際性豊かなキャンパスを実現する。 | |
| 目標4 | (タイトル) 総合的な学生支援の実現 | <input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し ※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと |
| | (狙い・内容) 一人ひとりの学生が誇れる何かを得ることができ、世界に通用する人材育成を実現すべく学生支援を強化する。 | |
| 目標5 | (タイトル) 高大接続の推進 | <input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し ※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと |
| | (狙い・内容) スーパーグローバル大学としての取組みの一環として、高等学校教育から大学教育への円滑な接続を行い、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」の学力3要素を的確に把握できる大学入試改革を推進する。 | |
| 目標6 | (タイトル) 大学院のあり方 | <input checked="" type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し ※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと |
| | (狙い・内容) 世界的な研究拠点のため、大学院の充実を図り、若手研究者の育成に努める。 | |

| | | 変更の有無 |
|--------|--|--|
| アシスト目標 | (位置づけ) | <input checked="" type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し ※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと |
| | 教育研究目標の達成のため、機構・センターがそれぞれの役割に基づいて策定した目標。 | |

2016 年度 自己点検・評価【関西学院大学全体】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等> 設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2017年2月23日

| | | | |
|------|-----|------|------|
| 主管部局 | 学長室 | 担当部局 | 学長室 |
| | | | 教務機構 |

A-4

| 教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー;CP) | 変更の有無 |
|---|--|
| <p>【関西学院大学(学士課程)】 全学的な教育課程の編成・実施方針は「ダブルチャレンジ制度」として公表されている。この制度は、“Mastery for Service”を体現する世界市民を育成するために、全学生が自身の所属学部や主専攻の学び(コースワークとリサーチワーク)に加えて、異なるものとの出会い(副専攻、社会での実践、留学等の国際交流)を体験することを通して、主体性、タフネス、多様性への理解を涵養するものである。 主専攻のカリキュラムには大きく総合教育科目(キリスト教科目、言語教育科目、教養教育科目等)と専門教育科目があり、順次的、体系的に履修できるよう配慮している。これらを、理論と実務との組み合わせを重視し、多様な授業形態によって実現する。</p> <p>【関西学院大学大学院(博士課程前期課程)】 本大学院の教育課程では、博士課程前期課程の教育目的を達成するために、学位授与の方針(DP)に基づいて、各研究科における専修科目(必修及び選択必修科目)、学位論文の作成等に対する指導及び大学院共通科目を、コースワークとリサーチワークが体系的に行えるよう編成する。 (大学院学則第12条及び第14条より)</p> <p>【関西学院大学大学院(博士課程後期課程)】 本大学院の教育課程では、博士課程後期課程の教育目的を達成するために、学位授与の方針(DP)に基づいて、各研究科における専修科目(必修及び選択必修科目)、学位論文の作成等に対する指導及び大学院共通科目を、コースワークとリサーチワークが体系的に行えるよう編成する。 (大学院学則第12条及び第14条より)</p> <p>【関西学院大学大学院(専門職学位課程)】 本大学院の教育課程では、専門職学位課程の教育目的を達成するために、学位授与の方針(DP)に基づいて、各研究科における授業科目及び大学院共通科目を、コースワークが体系的に行えるよう編成する。</p> | <p>□有り <input checked="" type="checkbox"/>無し <small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small></p> |

2016年度 自己点検・評価【関西学院大学全体】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等> 設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2017年2月23日

| | | | |
|------|-----|------|------|
| 主管部局 | 学長室 | 担当部局 | 学長室 |
| | | | 教務機構 |

| A-4. 教育課程の編成・実施方針に関する、適切性および検証体制・検証プロセスの確認 | | | チェック欄 |
|--|--|----------|--|
| 【確認1】 | 教育課程の編成・実施方針は、A-2「学生像」、「学位授与方針」、A-5「学生の受け入れ方針」と整合性が取れているか。 | 学士課程 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| | | 博士課程前期課程 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| | | 博士課程後期課程 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| | | 専門職学位課程 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| 【確認2】 | 教育課程の編成・実施方針は、A-3「教育研究目標」の達成に向けて相応しい内容となっているか、表現は適切か。 | 学士課程 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| | | 博士課程前期課程 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| | | 博士課程後期課程 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| | | 専門職学位課程 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| 【確認3】 | 教育課程の編成・実施方針は、教育課程の編成や、教育内容、教育方法等に関する考え方を明確に示しているか。 | 学士課程 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| | | 博士課程前期課程 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| | | 博士課程後期課程 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| | | 専門職学位課程 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| 【確認4】 | 学位授与方針の内容を実現するために、教育課程の編成・実施方針は適切な内容となっているか。 | 学士課程 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| | | 博士課程前期課程 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| | | 博士課程後期課程 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| | | 専門職学位課程 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| 【確認5】 | 教育課程の編成・実施方針は周知・公表されているか。 | 学士課程 | <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ(2016年度中に公表) |
| | | 博士課程前期課程 | <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ(2016年度中に公表) |
| | | 博士課程後期課程 | <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ(2016年度中に公表) |
| | | 専門職学位課程 | <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ(2016年度中に公表) |

2016年度 自己点検・評価【関西学院大学全体】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等> 設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2017年2月23日

| | | | |
|------|-----|------|------|
| 主管部局 | 学長室 | 担当部局 | 学長室 |
| | | | 教務機構 |

【学士課程】 検証担当部局:学長室、教務機構

| | | |
|---------------------------|--|--|
| 適切性の検証 体制を明確に しているか | 責任主体・組織(承認・決裁) | 学長室 |
| | 検証手続き | 教育課程基本方針策定委員会 |
| | 決定・判断時期 | 毎年1月 |
| | 検証エビデンス | 教育課程基本方針策定委員会議事録 |
| 前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。 | | <input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2017年2月) ※2016年度は都合により学部長会で検証 |
| | | <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。→(予定:) |
| 検証プロセス | 検証方法 | 教育課程基本方針策定委員会において適切性を議論し検証する。 |
| | 検証結果 | <input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。 |
| | 判断根拠 | 「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)、「入学者受入の方針」(アドミッション・ポリシー)に関する「3つのポリシーの策定及び運用に関するガイドライン」(中央教育審議会大学分科会大学教育部会)、「2016年度 関西学院大学 聖和短期大学自己点検・評価 帳票作成の手引き」(関西学院評価情報分析室)等 |
| 周知・公表方法 | <input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット・リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他() | |

【博士課程前期課程】 検証担当部局:学長室、教務機構

| | | |
|---------------------------|--|--|
| 適切性の検証 体制を明確に しているか | 責任主体・組織(承認・決裁) | 学長室 |
| | 検証手続き | 教育課程基本方針策定委員会 |
| | 決定・判断時期 | 毎年1月 |
| | 検証エビデンス | 教育課程基本方針策定委員会議事録 |
| 前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。 | | <input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2017年2月) ※2016年度は都合により学部長会で検証 |
| | | <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。→(予定:) |
| 検証プロセス | 検証方法 | 教育課程基本方針策定委員会において適切性を議論し検証する。 |
| | 検証結果 | <input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。 |
| | 判断根拠 | 「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)、「入学者受入の方針」(アドミッション・ポリシー)に関する「3つのポリシーの策定及び運用に関するガイドライン」(中央教育審議会大学分科会大学教育部会)、「2016年度 関西学院大学 聖和短期大学自己点検・評価 帳票作成の手引き」(関西学院評価情報分析室)等 |
| 周知・公表方法 | <input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット・リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他() | |

2016年度 自己点検・評価【関西学院大学全体】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等> 設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2017年2月23日

| | | | |
|------|-----|------|------|
| 主管部局 | 学長室 | 担当部局 | 学長室 |
| | | | 教務機構 |

【博士課程後期課程】 検証担当部局:学長室、教務機構

| | | |
|---------------------------|----------------|--|
| 適切性の検証 体制を明確に しているか | 責任主体・組織(承認・決裁) | 学長室 |
| | 検証手続き | 教育課程基本方針策定委員会 |
| | 決定・判断時期 | 毎年1月 |
| | 検証エビデンス | 教育課程基本方針策定委員会議事録 |
| 前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。 | | <input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2017年2月) <input type="checkbox"/>2. 検証を行っていない。→(予定:) ※2016年度は都合により学部長会で検証 |
| 検証プロセス | 検証方法 | 教育課程基本方針策定委員会において適切性を議論し検証する。 |
| | 検証結果 | <input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。 <div style="margin-left: 20px;"> <input type="checkbox"/>既に見直した(→A票の内容を書き換えた。) <input type="checkbox"/>今後見直す予定である。 (見直し計画:) <input type="checkbox"/>その他 () </div> |
| | 判断根拠 | 「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)、「入学者受入の方針」(アドミッション・ポリシー)に関する「3つのポリシーの策定及び運用に関するガイドライン」(中央教育審議会大学分科会大学教育部会)、「2016年度 関西学院大学 聖和短期大学自己点検・評価 帳票作成の手引き」(関西学院評価情報分析室)等 |
| 周知・公表方法 | | <input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット・リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他() |

【専門職学位課程】 検証担当部局:学長室、教務機構

| | | |
|---------------------------|----------------|--|
| 適切性の検証 体制を明確に しているか | 責任主体・組織(承認・決裁) | 学長室 |
| | 検証手続き | 教育課程基本方針策定委員会 |
| | 決定・判断時期 | 毎年1月 |
| | 検証エビデンス | 教育課程基本方針策定委員会議事録 |
| 前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。 | | <input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2017年2月) <input type="checkbox"/>2. 検証を行っていない。→(予定:) ※2016年度は都合により学部長会で検証 |
| 検証プロセス | 検証方法 | 教育課程基本方針策定委員会において適切性を議論し検証する。 |
| | 検証結果 | <input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。 <div style="margin-left: 20px;"> <input type="checkbox"/>既に見直した(→A票の内容を書き換えた。) <input type="checkbox"/>今後見直す予定である。 (見直し計画:) <input type="checkbox"/>その他 () </div> |
| | 判断根拠 | 「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)、「入学者受入の方針」(アドミッション・ポリシー)に関する「3つのポリシーの策定及び運用に関するガイドライン」(中央教育審議会大学分科会大学教育部会)、「2016年度 関西学院大学 聖和短期大学自己点検・評価 帳票作成の手引き」(関西学院評価情報分析室)等 |
| 周知・公表方法 | | <input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット・リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他() |

＜理念、目的、教育研究目標、方針等＞設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2017年2月23日

| | | | |
|------|-----|------|----------|
| 主管部局 | 学長室 | 担当部局 | 学長室 |
| | | | 教務機構 |
| | | | 高大接続センター |

A-5

| 学生の受け入れ方針(アドミッション・ポリシー; AP) | 変更の有無 |
|--|--|
| <p>【関西学院大学(学士課程)】</p> <p>I. 関西学院大学アドミッション・ポリシー</p> <p>世界を視野におさめ、他者(ひと)への思いやりと社会変革への気概を持ち、高い識見と倫理観を備えて自己を確立し、自らの大きな志を持って行動力を発揮する“Mastery for Service”を体現する世界市民を育成することが関西学院のミッションです。</p> <p>関西学院大学は、このミッションに共感し、大学での学びや諸活動の中で、自分への挑戦をし続ける意欲にあふれ、さまざまな適性を有する多様な背景をもった学生・生徒を世界のあらゆる地域から受け入れます。</p> <p>そのために、これまで培われた確かな基礎学力、活動や経験を通じて身に付けた資質、能力、学ぶ意欲や人間性などを、多様な入試制度により多角的に評価することを基本的な方針としています。</p> <p>II. 各学部のアドミッション・ポリシー</p> <p>神学部アドミッション・ポリシー</p> <p>神学部では、キリスト教が人類の歴史の中で生み出してきた思想や文化的財などについて専門領域ならびに学際的領域での学びを深め、その精神に基づいて社会に奉仕できる人材を育成することを目標としています。</p> <p>くわえて高等学校までの基礎的な学習を土台にして、ボランティアや課外活動、あるいは社会人としての経験などから培った多様な能力をもつ者を幅広く受け入れています。</p> <p>そのため、以下の項目を募集方針の要素として、筆記を中心とする一般選抜入学試験と、面接等を探り入れた各種入学試験によって高等学校における基礎学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を、それぞれの入学試験において重み付けを行い評価しています。</p> <p>神学部に入학을望む者に期待することは、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. キリスト教の生み出した思想、文化的財などの学際的な領域に興味をもっている 2. キリスト教について幅広く関心をもっている 3. 世界の歴史や日本の歴史について知識がある 4. 日本語、英語について一定水準の能力がある 5. 「倫理」あるいは「数学」あるいは「地理」について知識がある <p>キリスト教伝道者コースに入학을許可される者は、</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. 将来クリスチャンワーカーを含めた伝道者となる意志をもっている 7. バプテスマ(洗礼)を受けた者である 8. 聖書、キリスト教について一定量の知識がある 9. 聖書、キリスト教について調べることができる <p>文学部アドミッション・ポリシー</p> <p>文学部は、建学の精神に則ったキリスト教主義教育を土台とする人文学の修得を通じて、全人的陶冶を行うことを教育理念としています。多様な領域にまたがる人文学の教育・研究のために、文学部は文化歴史学科、総合心理科学科、文学言語学科の3学科で構成され、さらに11の専修に区分されていますが、どの専修に所属しても学生それぞれの関心に従って基礎的な科目群から専門的な科目群まで幅広く履修できるよう柔軟なカリキュラムを組んでいます。また最終的な到達目標として卒業論文の作成が必修とされています。4年間の勉学を通して、主体的に学び、自ら問題を見出し追究していく姿勢が重要です。高等学校の学習においても、基本的な科目全般にわたって基礎学力を充実させるとともに、幅広く客観的な視野と、先入観や画一的なもの見方に囚われない柔軟な思考力、さらには自らが興味関心を持ったテーマに対して粘り強く取り組んでいく姿勢を培っておくことが求められます。このような総合的な知的基盤を備え、かつ自らの見出した研究課題に積極的に取り組んでいける資質に富んだ者を、一般入学試験・各種入学試験それぞれの特徴を生かして、本学部の学生として受け入れることを基本方針としています。</p> <p>社会学部アドミッション・ポリシー</p> <p>社会学部は、学士課程教育で培っていかうとする能力に応じて、以下の条件を満たしている者に広く門戸を開いている。</p> <p>[態度・関心]</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 関西学院大学および社会学部の教育理念・教育内容を理解し、それに基づいて人間的に成長しようとする意志をもっていること。 ② 社会・文化・人間について、そして現代社会のさまざまな現象や問題について基本的な関心を持ち、社会学を学ぶ意欲と見通しをもっていること。 <p>[知識・思考]</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 高等学校で学ぶ基本的な科目について、優れた学力水準にあること。社会学を学ぶうえで、その基礎となる、歴史(日本史・世界史)、地理、政治・経済、現代社会に関する基本的な知識を身につけていること。 ② 論理的かつ実証的な思考や判断の基礎となる、日本語(国語)、数学についても、十分な能力を身につけていること。 <p>[技能・表現]</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 自分で情報を集め、自分で考え、それを表現するという経験をもっていること。 ② 相手の考えを理解するとともに、自分の考えを表現するために必要な、日本語および英語(あるいは他の外国語)の基礎的な運用能力を身につけていること。 <p>入学試験は、教科・科目に関する筆記試験を行う一般選抜入試と、面接等を探り入れた各種入学試験を行います。アドミッション・ポリシーが求める各要素(「態度・関心」「知識・思考」「技能・表現」)は、それぞれの入学試験において、重み付けを行い評価します。</p> | <p><input checked="" type="checkbox"/>有り</p> <p><input type="checkbox"/>無し</p> <p>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</p> |

＜理念、目的、教育研究目標、方針等＞設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2017年2月23日

| | | | |
|------|-----|------|----------|
| 主管部局 | 学長室 | 担当部局 | 学長室 |
| | | | 教務機構 |
| | | | 高大接続センター |

法学部アドミッション・ポリシー

法学部は、ソーシャル・アプローチの理念に基づき、広く深い社会的視野と教養に根ざした法学・政治学の研究と教育を通じ、法と政治の基礎にある自由と人権、正義を重んじ、社会に奉仕する精神に富んだ有能にして心温かい市民を育成することを目的としています。この目的を達成するために、(1)科学的な思考方法の習得、(2)広範な知識と社会的視野の獲得、(3)正しい価値観と豊かな人間性の形成、(4)人権感覚の陶冶、(5)国際的・地球的な視野の確保という教育目標を定め、①学生の多様な進路希望の実現に資する、高い社会的評価の得られる力の習得、②少人数教育による学生間・教員学生間での刺激に満ちた人格形成という実施目標を置いています。法学部は、こうした目的と目標に十分に応えることのできる学生として、基本とされる教科を着実に学習しているだけでなく、時代や場所を問わず、様々に生起する社会問題や社会現象に幅広く関心の持てる学生を受け入れることを方針としています。

入学試験ではこうした方針に基づいて、教科・科目を設定して筆記試験を中心とする一般選抜入学試験と、面接等を探り入れた各種入学試験を実施しています。高等学校における基礎学力の「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を、それぞれの入学試験において重み付けを行い評価しています。

経済学部アドミッション・ポリシー

本学経済学部では、このような考えから、外国語の能力、社会や世界に対する知識、論理的な思考能力や判断能力が、これからのビジネスの世界や公的機関で働くために必要不可欠な基礎学力であると考えます。世界的な視点から社会のさまざまな出来事に関心を持ち、自分で考える人材を育てていきたいと考えております。その意味で、経済・社会の問題に関心があり、主体的に考えていく能力を身につけたいと思っている学生を求めます。

以上の項目を募集方針の要素として、教科・科目を設定して筆記試験を中心とする一般選抜入学試験と、面接等を探り入れた各種入学試験を実施しています。高等学校における基礎学力の「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を、それぞれの入学試験において重み付けを行い評価しています。

商学部アドミッション・ポリシー

～真に創造的な能力を有するビジネスパーソンを育成する(Fostering Creative Minds for Business)～

本学部の教育理念・目的は、“Mastery for Service(奉仕のための練達)”というスクールモットーに基づいて、「真に創造的な能力を有するビジネスパーソン」を育成することにあります。すなわち、幅広い関心と鋭い問題意識を有し、さまざまな領域でその能力を十分に発揮できる人材を、社会に送り出すことにあります。本学部は、この教育理念・目的に基づき、人間性を向上させる意欲に満ちあふれた、多様な適性と能力を有する学生を受け入れたいと考えています。

以上の項目を募集方針の要素として、教科・科目を設定して筆記試験を中心とする一般選抜入学試験と、面接等を取り入れた各種入学試験を実施しています。高等学校における基礎学力の「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」をそれぞれの入学試験において重み付けを行い評価しています。

人間福祉学部アドミッション・ポリシー

人間福祉学部では、人間とその生活環境としての社会、そして両者の交互作用を全体的に捉えながら、「質の高い生活と社会」の実現に向けて貢献できる人材の育成を目指します。そのための基本理念として「3つのC」、すなわち「人への思いやり(Compassion)」、「幅広い視野(Comprehensiveness)」、「高度な問題解決能力(Competence)」をすべての学科に共通するキー・コンセプトとして位置づけています。

一般選抜入試ではこの理念や教育プログラムにふさわしい生徒を確保するために、「高校において基本とするような科目全体について一定の学力を持っているか、特に言語的能力があり理解力や論述力に優れているか、あるいは特に数理的な能力に優れているか」との観点から試験を実施します。

なお、本学部の入学にあたって、社会福祉学科は、「社会福祉にかかわる分野での職業選択を希望しているかその分野に理解がある」ことが、社会起業学科は、「社会起業に関心があり、国内外での社会貢献活動をめざしているかそのような分野に理解がある」ことが、人間科学科は、「死生学・生命倫理学・悲嘆学などのこころ(スピリチュアリティ)に関する学問に関心があるか、身体(スポーツ・健康)に関連する分野に関心があるか、それぞれの分野での職業選択を希望しているかそれらの分野に理解がある」ことが求められます。

以上の項目を募集方針の要素として、教科・科目を設定して筆記試験を中心とする一般選抜入学試験と、面接等を探り入れた各種入学試験を実施しています。高等学校における基礎学力の「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を、それぞれの入学試験において重み付けを行い評価しています。

国際学部アドミッション・ポリシー

国際学部では、「国際性の涵養」という教育・研究上の理念を達成するために、「国際事情に関する課題の理解と分析」を教育・研究上の目的とする。その目的の達成を通じて、「国際性」(世界理解、国際理解のための能力)と「人間性」を備えた世界市民として、国際的なビジネス・市民社会で活躍できる人材を養成する。その教育・研究上の目的は、学生が高い外国語能力を習得し、世界の各地域を様々な角度(特に人文・社会科学の観点)から理解し、分析できるようになることである。

このような教育・研究上の理念・目的を持った本学部では、以下のようなアドミッション・ポリシーを示して学生を迎え入れる。

1. 人文・社会科学の多岐にわたる領域について幅広い関心と、一定の学力と論理的思考力を持ち、総合的な観点からそれらの課題に取り組もうとする意欲を持つ者
2. 主体的な関心に応じて、みずからの問題を発見し、その問題解決に実践的に取り組もうとする意欲を持つ者
3. グローバル化する社会の中で他者の想いや異文化に関する感性や、自己のありかたに相対的・反省的視点を持つことが期待される者
4. 関西学院に対して強い帰属意識を持ち、スクール・モットーである「Mastery for Service(奉仕のための練達)」という精神を体現しようとする意欲を持つ者
5. 海外生活経験を持つ生徒、留学生等、多様なバックグラウンドを有する者
6. 優れた外国語能力や、特定の分野において優れた学力・能力を持ち、入学後にそれを活かした教育成果が期待できる者

以上の項目を募集方針の要素として、教科・科目を設定して筆記試験を中心とする一般選抜入学試験と、面接等を探り入れた各種入学試験を実施しています。高等学校における基礎学力の「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を、それぞれの入学試験において重み付けを行い評価しています。

教育学部アドミッション・ポリシー

教育学部は、「子ども理解」を基本的な教育理念として、学校教育及び保育の現場で活躍する「教育者」、広く社会で子どもを育てる活動にかかわり、またそうした活動を支援できる「教育者」を養成することを目的としています。そのため、「実践力」、「教育力」、「人間力」など「教育者」に求められる資質をさらに伸ばそうとする意志を持つ者を受け入れることを基本方針としています。

より具体的には、教育学部は、教育という営みに幅広い関心を持ち、かつ学校、幼稚園、保育所など教育・保育現場や広く社会における教育の諸活動にかかわり、問題解決ができる実践家を目指す者を受け入れたいと考えています。

教育は人間の心に深く関係する営みであるとともに、教員・保育者は子どもとのかかわりや保護者とのかかわりも密です。それら他者とのかかわりを維持し、発展させるために必要な能力の基礎となる読解力と論理的思考を含んだ基礎的な学力を有する者を受け入れます。また、「教育者」となる資質として、基本となる教科を幅広く学習している者、特定の分野における優れた学力や能力を持ち、さらに入学後に学力の伸長が期待できる者を受け入れます。

以上を募集方針の要素として、教科・科目を設定して筆記試験を中心とする一般選抜入学試験と、面接等を探り入れた各種入学試験を実施しています。高等学校段階までに身につけた「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」をそれぞれの入学試験において評価しています。

＜理念、目的、教育研究目標、方針等＞設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2017年2月23日

| | | | |
|------|-----|------|----------|
| 主管部局 | 学長室 | 担当部局 | 学長室 |
| | | | 教務機構 |
| | | | 高大接続センター |

総合政策学部アドミッション・ポリシー

本学部が教育研究の目的としている、現代社会の諸問題に的確に対応できる人材を養成するため、必要となる基礎的学力を有することを前提としつつ、資質の異なる多様な学生を受け入れることにより、相互に刺激あひ学びあう教育研究環境の場を整えます。入学に必要な基礎的学力としては、文理の幅広い学びとともに、入学後の教育に対応できる一定の外国語運用能力を有していることが望まれます。また学生の資質としては、特に社会への幅広い関心と考える力、主体性をもって多様な人々と協働し学ぶことができることが求められます。学生は入学後、入学前の基礎的知識のうえに本学部の理念である共生への理解を深め、各自が関心をもつ専門領域において必要となる能力を身に着けるとともに、異なる専門領域についても幅広い学びを探究することが期待されます。

以上の項目を募集方針の要素として、教科・科目を設定して筆記試験を中心とする一般選抜入学試験と、面接等を探り入れた各種入学試験を実施しています。高等学校における基礎学力の「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を、それぞれの入学試験において重み付けを行い評価しています。

理工学部アドミッション・ポリシー

自然科学の基本原則とその応用について教育と研究を行い、自然科学・科学技術と建学の精神であるキリスト教主義教育を基盤において人類の進歩に貢献する理工学部の理念の下、次のような学生を求めます。

＜理工学部が求める学生像＞

- ・自然科学・科学技術の発展を通じて、自立的な態度をもって人類の進歩に貢献しようとする学生
- ・理数系科目の十分な学力を有し、自然科学・科学技術分野の体系的な知識・技能を高い意欲をもって修得しようとする学生
- ・人文・社会系科目の基礎学力を有し、多角的な視点を意欲的に身につけようとする学生
- ・日本語および英語の基礎学力を有し、その学力を基に文章読解・作成、コミュニケーション能力の向上に努める学生

以上の求める学生像に基づいて、教科・科目を設定して筆記試験を中心とする一般選抜入学試験と、面接等を探り入れた各種入学試験を実施します。高等学校における学力の3要素である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を、それぞれの入学試験において重み付けを行い評価します。

Ⅲ. 入学試験毎のアドミッション・ポリシー

1. 一般選抜入学試験

一般選抜入学試験は、各学部での教育に必要な「総合的な学力を持つ受験生を選抜する」ものです。

一般入学試験では各学部の教育理念・目標に基づき試験教科・科目、配点を設定し、筆記試験により関西学院大学で学ぶために必要な学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を判定するための問題を独自に作成しています。

全学日程の文系入学試験では本学で学ぶために必要な「英語」「国語」を必須とし、「日本史」「世界史」「地理」「数学(記述式)」を選択科目とし筆記試験を実施します。全学日程の国際学部については、高い英語能力を有する生徒を評価するため、「英語」に特化した「英語」「英語論述型」による入学試験も実施しています。

学部個別日程の文系入学試験では本学で学ぶために必要な「英語」「国語」に記述式を探り入れ必須とし、「日本史」「世界史」「数学(記述式)」を選択科目とし筆記試験を実施します。なお文学部では「日本史」「世界史」「数学(記述式)」に加えて「地理」を選択科目に加えています。人間福祉学部については学部個別日程において「英語」「国語」の2科目による筆記試験を行っています。

理系入学試験においては全学日程・学部個別日程ともに、本学で学ぶために必要な「英語」「数学(記述式)」を必須とし、理科(記述式)「物理」「化学」「生物」のいずれかを選択する筆記試験を実施しています。

一般入学試験関連独自方式日程は、英語・数車型、関学英語併用型、関学数学併用型の3方式を実施しています。英語・数車型は、関西学院大学独自の「英語」と「数学(記述式)」による筆記試験を実施し、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を判定しています。関学英語併用型・関学数学併用型は、関西学院大学独自の「英語」または「数学」に、大学入試センター試験の教科・科目の得点を加味し、各学部で学ぶための学力と総合的な基礎学力を有する生徒を選抜するために実施しています。

大学入試センター試験を利用する入学試験は、「一般入試とは異なるタイプの受験生を受け入れるための入試制度」と位置づけています。大学入試センター試験で実施している教科・科目の筆記試験をもとに、本学で学ぶために必要な総合的な基礎学力を「知識・技能」を中心に判定を行い、大学入試センター試験の得点のみで合否判定を行います。1月出願においては、文系学部が「英語」「国語」を必須として、「数学」「理科」「地理歴史」「公民」から高得点を採用する方式を3科目型、5科目型の方式で実施しています。理工学部は「英語」「数学」を必須として各学科の学びに必要な科目について必須科目もしくは選択科目として加え科目数を設定し、高等学校における各教科の基礎学力のうち「知識・技能」を評価します。3月出願においては、文系学部が「英語」を必須とし、「国語」「数学」「理科」「地理歴史」「公民」から高得点科目を採用する方式を実施しています。理系学部「英語」「数学」を必須として各学科の学びに必要な科目について必須科目もしくは選択科目として加え、高等学校における各教科の基礎学力のうち「知識・技能」を評価します。

また、大学入試センター試験を利用する入学試験(1月出願 英語検定試験活用型)は、「読む」「書く」「聞く」「話す」の英語の4技能を身に付けた生徒を選抜するために、提出された書類のうち英語検定試験のスコアを出願資格として高く評価し、大学入試センター試験の教科・科目の得点を活用して実施する入学試験であり、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を得点として評価し、検定試験に取り組んだ「主体性」を高く評価します。

2. グローバル入学試験

グローバル入学試験は、入学後、本学のスーパーグローバル大学創成事業におけるインターナショナル・プログラムに積極的に取り組むことを希望する生徒や、将来、国際的な活躍を目指す生徒を対象に5つのカテゴリで実施する入学試験です。

国際貢献活動を志す者のための入学試験

国際貢献活動を志す入学試験は、関西学院大学が先駆として実施している学生の国際社会貢献活動プログラムに参加することを志す者で、秀でた英語コミュニケーション能力を有し、国際的課題に関し興味を持ち課題解決のための提案を行い、実践しようとする意欲を持つ者を対象とした入学試験です。英語検定試験においてCEFR B2以上を有する生徒、課題研究や模擬国連等に取り組む知識・技能、思考力・判断力・表現力を有し主体性・多様性・協働性を高めた課題解決能力を有する生徒を対象に出願資格を設定し評価を行っています。一次審査においてはこれらの実績や成果と、提出された志望理由書等の書類と合わせた書類審査と口頭試問・適性面接審査により評価を行います。口頭試問では英語によるプレゼンテーションと面接により、国際的な知識や英語コミュニケーション能力を評価します。適性面接審査においては、発展途上国でのプログラムに参加するために必要なチャレンジ精神、価値観や粘り強さを面接を通じて評価しています。二次審査では志望する学部の面接により学ぶ意欲や人間性などを評価し選抜を行います。

＜理念、目的、教育研究目標、方針等＞設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2017年2月23日

| | | | |
|------|-----|------|----------|
| 主管部局 | 学長室 | 担当部局 | 学長室 |
| | | | 教務機構 |
| | | | 高大接続センター |

英語能力・国際交流経験を有する者を対象とした入学試験

英語能力、国際経験を有する者を対象とした入学試験は、関西学院大学のインターナショナル・プログラム(国際教育プログラム)において国際社会で活躍する能力を身に付けることを志し、秀でた英語コミュニケーション能力を有する者、もしくは国際交流体験による異文化社会における経験を有する者で、国際的課題に関し興味をもち課題解決のための提案に意欲を有する者を対象とした入学試験です。出願資格として、英語検定試験において(CEFR B1程度以上)を有する生徒、海外における留学経験を有する生徒、模擬国連等に取り組み問題解決能力を育んだ生徒、英語弁論大会、英語エッセイコンテスト等において入賞した経験を持つ英語コミュニケーション能力を有する生徒を対象に設定し、調査書など提出された書類とあわせて、「主体性」を中心とした書類審査を行っています。また、英語を題材とした論述筆記試験、日本語小論文試験を実施し「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を評価し、書類審査の結果と合わせた総合評価による一次審査を行います。二次審査では志望する学部の面接により学ぶ意欲や人間性などを評価し選抜を行います。

インターナショナル・バカロレア入学試験

インターナショナル・バカロレア入学試験は、関西学院大学のインターナショナル・プログラム(国際教育プログラム)において、国際社会で活躍する能力を身につけることを志す者で、国際的に認められた大学入学資格であるインターナショナル・バカロレアDP(ディプロマ・プログラム)の課程を修了後、統一試験に合格し、インターナショナル・バカロレア資格を有する者を受け入れるための入学試験です。出願時においてフルディプロマを取得済みの方でスコアが32ポイント以上の者、もしくは取得見込でIB PREDICTED SCORE が出願時に32ポイント以上であるものは英語論述審査が免除となります。また日本の一条校において上記のスコアを有する者は日本語小論文が免除となります。これに満たない者については、英語を題材とした論述試験・日本語小論文試験を実施し「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を評価する一次審査を行います。二次審査においては学部の面接により学ぶ意欲や人間性などを評価し選抜を行います。

グローバルキャリアを志す者のための入学試験(英語エッセイ方式)

グローバルキャリアを志す者のための入学試験は関西学院大学のインターナショナル・プログラム(国際教育プログラム)もしくは総合政策学部独自のカリキュラムである(グローバルキャリア・プログラム)において、国際社会で活躍することを志し、英語コミュニケーション能力をもつ者を対象とした入学試験です。国際社会で活躍する能力を身につけることをめざし、現代社会で話題となっている様々なニュース、トピックに対して、自身の知識や考えを英語で伝えることのできる生徒を対象に実施します。一次審査においては筆記審査を行い、現代社会で話題となっているトピック4題のうち、2題を選択し、それぞれ英語300語程度のエッセイを書いてもらいます。また自分の書いたエッセイに適切な英語のタイトルをつけてもらいます。トピックはいずれも英語で書かれており、それらに関する情報や資料は掲載されていません。そのトピックについての知識、考え方も評価の対象とします。新聞などで社会の動きを知っていることも問われます。二次審査においては、個人面接を行い学ぶ意欲や人間性を評価し書類審査と合わせて総合的に評価し選抜を行います。

グローバルサイエンティスト・エンジニア入学試験

グローバルサイエンティスト・エンジニア入学試験は国際的に活躍する科学者や技術者となることを志し、自然科学に関する科目について一定の学力を有し、秀でた英語コミュニケーション能力を有する者、インターナショナル・バカロレア資格を有する者、高等学校在籍時に海外において自然科学に関する教育を受けた経験を有する者もしくは自然科学分野における特記すべき国際交流経験を有する者、国際科学技術コンテストに出場した経験を有する者を出願資格として設定し調査書等提出された書類とあわせて「主体性」を中心に書類審査を行います。筆記審査は英語、数学、理科(物理・化学・生物のうち1科目選択)により行います。これらの教科・科目における基本的な学力を「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を中心に評価し、書類審査の結果とあわせて第一次審査を行います。面接審査では志望する学科の学びに関する口頭試問や、学ぶ意欲、人間性を評価し、一次審査の結果と合わせて総合的に評価し選抜を行います。

3. 推薦入学

推薦入学は高等学校長の責任ある推薦により本学で学ぶために必要な学力を有する生徒を受け入れるものです。審査においては調査書、推薦書、志望理由書等の提出書類による書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

院内推薦入学

1) 関西学院高等部

関西学院高等部推薦入学は関西学院の一貫教育の大きな柱として位置づけられています。高等部でキリスト教主義教育による関西学院の建学の精神をもとに学んだ生徒を受け入れることにより、大学進学後もそれぞれの学部において、正課、課外活動、学内諸活動の面で学生の核となり、他の入学者に対しても良い影響を与え関西学院の学風を担うことを期待し実施するものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

2) 関西学院千里国際高等部

関西学院千里国際高等部推薦入学は、千里国際高等部の特色である国際教育と、キリスト教主義教育による関西学院の建学の精神をもとに学んだ生徒を受け入れることにより、大学進学後もそれぞれの学部において、正課、課外活動、学内諸活動の面で学生の核となり、関西学院大学の活性化に寄与することを期待し実施するものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

継続校推薦入学

啓明学院継続校推薦入学は、キリスト教主義教育により学んだ啓明学院高等部の生徒を受け入れることにより、大学進学後もそれぞれの学部において、正課、課外活動、学内諸活動の面で学生の核となり、関西学院大学の活性化に寄与することを期待し実施するものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

提携校推薦入学

関西学院大学提携校推薦入学は、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるために実施しています。関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、各校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

2016年度 自己点検・評価【関西学院大学全体】

A票

＜理念、目的、教育研究目標、方針等＞設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日：2017年2月23日

| | | | |
|------|-----|------|----------|
| 主管部局 | 学長室 | 担当部局 | 学長室 |
| | | | 教務機構 |
| | | | 高大接続センター |

協定校推薦入学

1)キリスト教学校枠

関西学院大学協定校推薦入学は、高等学校のキリスト教主義教育により学び、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるために実施しています。関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

2)グローバル枠

関西学院大学協定校推薦入学は、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるために実施しています。21世紀的な教育目標であるグローバルな観点に立って国際社会に貢献できる人材として、関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

3)グローバル+キリスト教学校枠

関西学院大学協定校推薦入学は、高等学校のキリスト教主義教育により学び、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるためだけでなく、21世紀的な教育目標であるグローバルな観点に立って国際社会に貢献できる人材として、関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒をも受け入れるために実施するものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

指定校推薦入学

指定校推薦入学は一定の学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を有する生徒を高等学校長の責任に基づく推薦を受け、書類審査・面接によって各学部において学ぶ意欲等を総合的に評価し受け入れるための制度です。

神学部

関西学院大学神学部において勉学することに強い意欲をもつ、成績優秀な生徒を推薦によって求め、総合大学の特色を生かし、豊かな人格を培い、幅広い一般諸学の教養と深い神学的素養とを身に付けさせ、社会に仕える者を育成することを目的とします。審査に際しては、志願提出書類と面接を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

文学部

関西学院大学文学部において勉学することに強い意欲をもつ個性ゆたかな生徒を、推薦によって入学を許可することによって入学後の修学への準備期間を確保し、入学後に文学部においてその才能をさらに伸ばすとともに、本学部独自の学風を振興し、広く社会に寄与し得る人材を育成することを目的とします。審査では志願提出書類、面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

社会学部

関西学院大学社会学部において勉学することに強い意欲をもつ成績優秀な生徒を、広く国内外から推薦によって求め、建学の精神に基づく将来性ある人材を育成することを目的とします。審査では、志願提出書類、面接における口頭試問を通じて、「態度・関心」「知識・思考」「技能・表現」を多面的・多角的に評価します。

法学部

関西学院大学法学部で法律学・政治学を学ぶことに強い意欲をもち、かつそれにふさわしい能力を有する生徒を推薦に基づき入学させることによって、関西学院建学の精神を基盤として社会に対して深い洞察力を備えた人材を育成することを目的とします。審査では志願提出書類、面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

経済学部

関西学院大学経済学部において勉学することに強い意欲をもち、成績優秀で個性ゆたかな活力ある生徒を推薦入学させることによって、学生の多様化をはかり、学部諸活動の一層の活性化を推進して、本学建学の精神に基づく有能な人材を育成することを目的とします。審査では志願提出書類、面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

商学部

関西学院大学商学部において勉学することに強い意欲をもつ学力優秀で個性ゆたかな生徒を推薦によって求め、本学建学の精神を基盤として社会に対して深い洞察力を備え、真に創造的な能力を有し、かつ国際感覚に優れた人材を育成することを目的とします。審査では志願提出書類、面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

人間福祉学部

関西学院大学人間福祉学部において勉学することに強い意欲をもち、成績優秀で個性豊かな生徒を求め、本学の建学の精神に基づき、将来性ある人物を育成することを目的とします。審査では志願提出書類、面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

国際学部

関西学院大学国際学部において勉学することに強い意欲をもち、成績優秀で個性ゆたかな生徒を推薦入学させることによって、本学建学の精神および本学部の教育・研究上の理念である「国際性の涵養」に基づく世界市民と呼ぶにふさわしい国際性と人間性を備えた人材を育成することを目的とします。審査では志願提出書類、面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

＜理念、目的、教育研究目標、方針等＞設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2017年2月23日

| | | | |
|------|-----|------|----------|
| 主管部局 | 学長室 | 担当部局 | 学長室 |
| | | | 教務機構 |
| | | | 高大接続センター |

教育学部

教育学部は、「子ども理解」を基本的な教育理念として、学校教育及び保育の現場で活躍する「教育者」、広く社会で子どもを育てる活動にかかわり、またそうした活動を支援できる「教育者」を養成することを目的としています。そのため、「実践力」、「教育力」、「人間力」など「教育者」に求められる資質をさらに伸ばそうとする意志を持つ者を受け入れることを基本方針としています。

教育は人間の心に深く関係する営みであるとともに、教員・保育者は子どもとのかかわりや保護者とのかかわりも密です。それら他者とのかかわりを維持し、発展させるために必要な能力の基礎となる読解力と論理的思考を含んだ基礎的な学力を有する者を受け入れます。また、「教育者」となる資質として、基本となる教科を幅広く学習している者、特定の分野における優れた学力や能力を持ち、さらに入学後に学力の伸長が期待できる者を受け入れます。

以上を募集方針の要素として、入学者を選考します。高等学校段階までに身につけた「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を提出された書類および面接によって選考します。

総合政策学部

関西学院大学総合政策学部で学ぶことに強い意欲を持ち、かつそれにふさわしい能力を有する生徒を推薦に基づき入学させることによって、キリスト教主義に基づく教育という関西学院建学の精神を基盤として、社会に対する深い洞察力を備え、かつ国際感覚に優れた人材を育成することを目的とする。審査では志願提出書類、面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

理工学部

関西学院大学理工学部への入学を強く希望する優秀な生徒で、自然科学・科学技術の基礎知識と能力の修得に情熱を有する者を総合的学力評価に基づく推薦制度により迎え入れ、将来性ある人材に育成することを目的としています。

審査では出願時提出書類、面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

4. 公募制推薦入学試験

1) スーパーグローバルハイスクール・教育連携校対象公募推薦入学試験

関西学院は、キリスト教主義に基づく「学びと探究の共同体」として、ここに集うすべての者が生涯をかけて取り組む人生の目標を見出せるよう導き、思いやりと高潔さをもって社会を変革することにより、スクールモットー“Mastery for Service”を体現する、創造的かつ有能な世界市民を育むことを使命としています。

2014年度よりスタートした文部科学省スーパーグローバルハイスクール事業は、急速にグローバル化が加速する現状を踏まえ、社会課題に対する関心と深い教養に加え、コミュニケーション能力、問題解決力等の国際的素養を身に付けることを重視し、課題研究と高大連携を二本の柱として教育プログラムの開発を目指しています。

このスーパーグローバルハイスクールや本学が教育連携を行う高等学校において、課題研究を通じて能力を高めた生徒を、多面的・総合的に評価を行い、積極的に受け入れ、本学が採択されたスーパーグローバル大学事業への接続を促進するための公募推薦入学試験を実施します。

一次審査においては書類審査を行います。さらに二次審査において学部毎に面接・集団討論・プレゼンテーションを行います。課題研究を通じて培った「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的、多角的に評価を行います。高等学校までの学びを通じて培ったありのままの力を評価しますので、入学試験のために特段の準備を必要とするものではありません。

2) スーパーサイエンスハイスクール対象公募推薦入学試験

(スーパーサイエンスハイスクール対象公募推薦入学試験)

関西学院は、キリスト教主義に基づく「学びと探究の共同体」として、ここに集うすべての者が生涯をかけて取り組む人生の目標を見出せるよう導き、思いやりと高潔さをもって社会を変革することにより、スクールモットー“Mastery for Service”を体現する、創造的かつ有能な世界市民を育むことを使命としています。また関西学院大学理工学部は、自然科学の基礎知識・技能と柔軟な思考力を有しその能力を高い倫理観のもとで発揮しうる、課題発見・解決能力に優れ創造性と未知に挑戦する気概に溢れた人材の育成を目指しています。

文部科学省スーパーサイエンスハイスクール事業の趣旨は、高等学校及び中高一貫教育校における先進的な理数教育を通じ、生徒の科学知識・技能と科学的思考力・判断力を高めることにより将来の国際的な科学技術系人材の育成を図ることとなっています。

スーパーサイエンスハイスクール課題研究等を通じて高められた科学的な能力と強い勉学意欲を有する生徒を本推薦入学試験によって求め、その能力を関西学院大学理工学部の教育によりさらに向上させ、将来国際的に活躍しうる科学技術系人材に育成することを目的としスーパーサイエンスハイスクール対象公募推薦入学試験を実施します。

一次審査においては書類審査を行います。さらに二次審査において面接を中心にしながら工夫をこらした審査を行い、課題研究を通じて培った「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的、多角的に評価します。高等学校までの学びを通じて培ったありのままの力を評価しますので、入学試験のために特段の準備を必要とするものではありません。

3) 理工学部 公募制推薦入学試験

生命科学科・生命医化学科

生命科学の知識及び技術の習得に情熱を有し、関西学院大学理工学部へ入学を希望する優秀な者を推薦制度によって迎え入れることにより、生命科学の発展に資することのできる創造性豊かな人材の育成に努めることを目的としています。

審査においては、生命科学に関する小論文審査を行い、本学生命科学科・生命医化学科の講義・演習を理解するために必要な学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の有無を判定します。また面接審査を行い、生命科学科・生命医化学科で学ぶ意欲や「主体性・多様性・協働性」について評価を行い、出願時提出書類・小論文審査の結果と合わせて総合的に判断します。

＜理念、目的、教育研究目標、方針等＞設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2017年2月23日

| | | | |
|------|-----|------|----------|
| 主管部局 | 学長室 | 担当部局 | 学長室 |
| | | | 教務機構 |
| | | | 高大接続センター |

人間システム工学科

人間システム工学科では、感性豊かな映像や音楽を実現するメディア技術、あるいは人間と実空間・環境との関わりを考えるユビキタス・ロボティクス技術に必要な学問を指向します。またデザインやインタラクションといった先端学際領域(様々な技術分野を統合して解決する学問分野)の観点から人間をトータルシステムとしてとらえた教育と研究を行います。人間の特性や感性をよりよく理解し、社会のニーズに対応できる実力を蓄えるだけでなく、新しい人と人工物のインタラクション、および人工物を介した人と人のインタラクションを創造できるような人材を育てます。

このような趣旨のもとに本公募制推薦入試では従来の学力試験ではとらえきれない能力を持ち、可能性を秘めた学生を募ります。コンテンツ制作(映像・音楽作品、ゲーム、携帯アプリ、フリーウェアやインタラクティブアート等を幅広く対象とする)やロボット等のハードウェアを伴うシステムの制作経験のある創造性豊かな学生を求めます。

審査においては、作品審査を行い、本学人間システム工学科の講義・演習を理解するために必要な学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の有無を判定します。また面接審査を行い、人間システム工学科で学ぶ意欲や「主体性・多様性・協働性」について評価を行い、出願時提出書類・作品審査の結果と合わせて総合的に判断します。

5. AO入学試験

関西学院大学のスクールモットーは“Mastery for Service(奉仕のための練達)”。これは、第4代院長 C.J.L.ベーツ宣教師が学生たちに与えた言葉で、「奉仕のための練達」と訳されています。わかりやすく言えば、「人々に奉仕できる、社会に役立つ知識と人間性を、自らの主体性を持って磨き上げよ」ということです。

本学が目指す全人教育は、専門知識の修得だけでなく、その専門知識を社会の善として活用し人類の幸福に資する知識とするための教育です。そのためには、知育教育だけでなく、スポーツや芸術などの情操教育や社会貢献活動などが大きな役割を果たします。関西学院大学では、その教育目的を具現化できる、意欲に満ちた受験生を求めています。

AO入学試験は、従来の教科科目の筆記試験だけでは測ることができない多様な能力や、様々な経験や活動を通じて身につけた豊かな人間性、あるいは将来性・可能性などを、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」の観点から多面的かつ積極的に評価する制度です。本学のAO入学試験は、各学部が独自のアドミッション・ポリシーを掲げてそれぞれの審査方法で選考する方式であり、大学教育を受けるために必要な基礎学力があり、各学部が定める受験資格を満たしていれば、自分の意志で出願できる自己推薦型です。

神学部

関西学院大学神学部は、1889年の関西学院創立と同時に設置された、最も古い伝統ある学部です。神学部はその設立時からキリスト教の伝道者育成を主要な目的として掲げています。1952年に新制大学の一学部として開設されてからも、学術的な質を高めつつ、高度な専門性を持つ伝道者・クリスチャンワーカーの育成に力を注いで来ました。

世界の動向を視野に入れ、21世紀における日本と世界のキリスト教宣教を担うためには、将来の伝道者・クリスチャンワーカーがしっかりとキリスト教に関する専門的な知識を身につけるとともに、社会の諸現象への深い洞察力を持ち、他の諸分野と学問的な対話をする力を養う必要があります。

本学部では、このような趣旨に基づき、従来の学力審査では十分に表現できなかった多彩な能力を評価するためAO入試を行います。このAO入試では、自分自身の考えを表現し、対話する能力を評価するとともに、キリスト教信仰に根ざして伝道者・クリスチャンワーカーとなろうとする志、社会での経験や異文化との出会い、自分らしい思考や資格を重んじています。高校生、社会人や帰国生徒などの枠を越えて、広く志願者を募っています。

入学者選抜に際しては上述の趣旨ののち総合的に判断しますが、提出された書類・調査書によっておもにキリスト教理解を中心とした「知識・技能」と志望動機とを評価し、面接審査によっておもに「思考力・判断力・表現力」と「主体性・多様性・協働性」を評価します。

文学部

関西学院大学文学部は、本学のスクールモットーであるMastery for Service(奉仕のための練達)の精神を踏まえ、人間の本質を追究するために深い学識と広い視野を養う学びの場です。文化や歴史、心理、文学や言語の教育研究を通じて、人間存在の営みの本質や現代的・普遍的な課題を追究します。

本学部では、このような考えに基づいて、AO入試を実施します。この入学試験は、従来の一般学力試験では判断することができない多様な能力を積極的に評価し、文化・芸術活動や語学能力で顕著な実績を持つ人で、意欲あふれる人を求めます。また、グローバルな視野を持った帰国生徒や豊かな社会経験を勉学・研究に活かそうとする人を求めます。

審査は書類審査・筆記審査・面接審査を通じて、学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。書類審査においては提出された書類や調査書に基づき、高等学校での学びや活動の成果から「主体性・多様性・協働性」などを中心に評価を行います。筆記審査においては日本語資料による読解・論述審査、英語資料による読解・論述審査を行い「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を中心とした学力を評価します。さらに面接審査においては上述の本学部で学ぶ意欲を中心に総合的に評価を行います。

社会学部

関西学院大学社会学部は、知的な好奇心と探究心にあふれ、幅広い視野・知識と柔軟な思考力を持ち、さらにそれに基づいた強い意志と行動力をもつ人材の育成をめざしています。問題意識を持ち、幅広く学び、自分の頭で考え、自分の体で調べ、自信をもって行動することのできる人間こそ、現代社会のそれぞれの現場で、さまざまな問題を発見し、そして解決していくことのできる人間だと考えるからです。また、そうした一つ一つの積み重ねによってこそ、よりよい社会が実現できると考えるからです。

本学部では、このような趣旨に基づいて、従来の一般学力試験では十分に発揮できなかった多様な能力を積極的に評価するために、AO入試を実施します。この入学試験は、大学教育を受けるにふさわしい基礎学力を前提としたうえで、スポーツ活動、文化・芸術活動、社会貢献活動(ボランティア活動など)などの分野において、優れた活動を経験し、しかもその経験から得たものを大学での勉学と自己陶冶に活かして、本学部がめざす柔軟な思考力と積極的な行動力をもった人間に成長する可能性のある者を、積極的に迎え入れようとするものです。

したがってAO入試に応募する皆さんに問うのは、単なる活動の実績ではありません。皆さんがそれぞれの活動の経験から何を心得、どれだけ成長したのか、そしてそれらの成果を本学部での勉学と自己陶冶の基礎としつつ、さらに大きく飛躍する意欲をどれだけ持っているか、まさしくこの点を問うのです。

審査は、書類審査・筆記審査・面接審査を通じて、「態度・関心」「知識・思考」「技能・表現」を多面的・多角的に評価します。書類審査においては、提出された書類や調査書に基づき、高等学校での学びや活動の成果から、「態度・関心」「技能・表現」を中心に評価します。筆記審査においては、日本語資料および英語資料による読解・論述審査を行い、「知識・思考」「技能・表現」を中心に評価します。さらに面接審査においては、「態度・関心」「技能・表現」を中心に、総合的に評価します。

＜理念、目的、教育研究目標、方針等＞設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2017年2月23日

| | | | |
|------|-----|------|----------|
| 主管部局 | 学長室 | 担当部局 | 学長室 |
| | | | 教務機構 |
| | | | 高大接続センター |

法学部

関西学院大学法学部は、本学のスクールモットーである Mastery for Service の理念のもと、ソーシャル・アプローチという教育方針にもとづき、法学・政治学を多面的に考察することによって、幅広い社会現象を深く洞察できる力を養うとともに、明確な目的意識を持って社会に奉仕する精神を持った人材の育成をめざしています。また、国際化、高度化する現代社会においては、様々な分野において、豊かな人間性や高いコミュニケーション能力を持ち、リーダーシップを発揮して社会に貢献できる人材が求められており、このような素養を有する者を受け入れたいと考えています。

したがって、法学部では、大学での教育に必要な基礎的学力を有していることを前提に、一般入学試験では判断することが難しい様々な能力や社会奉仕精神を含む豊かな人間性、優れたコミュニケーション能力、またはリーダーシップを持ち、目的意識の高い学生を募集します。

審査は書類審査・筆記審査・面接審査を通じて、学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。書類審査においては提出された書類や調査書に基づき、高等学校での学びや活動の成果から「主体性・多様性・協働性」などを中心に評価を行います。筆記審査においては日本語資料による読解・論述審査、英語資料による読解・論述審査を行い「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を中心とした学力を評価します。さらに面接審査においては上述の本学部で学ぶ意欲を中心に総合的に評価を行います。

経済学部

関西学院大学経済学部は、経済学の専門的知識や現実経済の背景にあるさまざまな文化や伝達手段を身につけることを通じて、社会に貢献し、その社会への貢献を通じて自分自身をも磨ける人間を育てることを目的としています。

大学教育の場を活気と創造性に満ちたものにするためには、個性ゆたかで活力ある学生を受け入れることで、学生たちの間に生き生きとした状況を作り出し、さらには大学教育そのものを活性化すると考えています。経済学部が求めるのは、学問を通じて発揮される活力です。このような活力は、単に勉学においてだけではなく、生活全般にわたる人間としての働きのなかで培われるものです。そこで、高校時代の勉学のほか、学校内外での様々な活動に積極的に取り組んだ経験を通じて培われた能力や人間性、社会人としての経験などを出願資格とし、AO入試を実施します。

審査は書類審査・筆記審査・面接審査を通じて、学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。書類審査においては提出された書類や調査書に基づき、高等学校での学びや活動の成果から「主体性・多様性・協働性」などを中心に評価を行います。筆記審査においては日本語資料による読解・論述審査、英語資料による読解・論述審査を行い「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を中心とした学力を評価します。また、二次審査の面接審査では二つの方式を設けています。自己推薦型ではプレゼンテーションにより表現力・主体性などを評価しながら、上述の本学部で学ぶ能力や人間性などを中心に評価を行います。数学能力重視型では、数学に関する口頭試問を行い数理的な能力について評価しながら、上述の本学部で学ぶ能力や人間性などを中心に評価を行います。

商学部

関西学院大学商学部の教育は、本学のスクールモットーである“Mastery for Service(奉仕のための練達)”の精神を踏まえ、真に創造的な能力を有するビジネスパーソンの育成(Fostering Creative Minds for Business)を目的としています。このような教育理念と目的を具現化するために、現代社会の中で企業などの果たす役割、その行動原理と仕組み、そこで用いられる政策や管理技法、これら政策や管理技法の与える影響、企業などの社会的責任・倫理の重要性などを体系的に教育してきました。

激動の現代社会において、このような教育理念を実現し、本学の教育目的をより一層効果的に達成するためには、様々な経験や活動を通して豊かな人間性を身につけ、本学の建学の精神を理解し、商学部で学びたいという強い意志を持っている者を日本全国から商学部へ迎え入れることが必要です。そこで、従来の学力審査では十分にとらえることができなかった多彩な能力を認識し、当該能力を多面的に評価するために、AO入試を実施します。

審査は書類審査・筆記審査・面接審査を通じて、学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。書類審査においては提出された書類や調査書に基づき、高等学校での学びや活動の成果から「主体性・多様性・協働性」などを中心に評価を行います。筆記審査においては日本語資料による読解・論述審査、英語資料による読解・論述審査を行い「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を中心とした学力を評価します。さらに面接審査においては上述の本学部で学ぶ意欲を中心に総合的に評価を行います。

人間福祉学部

人間福祉学部は、関西学院大学のなかで伝統のある「福祉」の分野をさらに進化させ、「人間そのもの」そして「その生活環境としての社会」について理解を深め、よりよい社会の実現をめざして学ぶ学際的分野をテーマとする実学志向の学部です。

社会福祉学科では、社会的支援の必要な人の自立や自己実現の援助、福祉に関する政策や現実を学び、未来の福祉を担うソーシャルワーカーとしてリーダーシップを発揮できる人材、社会起業学科では、国際的な視点とコミュニケーション能力を養い、地域社会や国際社会に貢献できる行動力と知識を身につけ、社会起業とともに企業、自治体、NPO・NGO、国際機関などで社会のあり方を提案できる人材、人間科学科では、人間を「こころ(スピリチュアリティ)」と「身体」の両面からとらえ、「こころ」や「身体」を病む人や悲しみの中にある人に寄り添い、人々のQOL(いのちの質・生活の質)を支える人材を育成します。

AO入試では、基礎的な学力に加えて、社会貢献活動、文化・芸術活動の実績、体験・経験、創造力、能力・資格、リーダーシップなどで特色を持つ者、豊かな人間性と学ぶ意欲を持つ者を積極的に受け入れます。

審査は書類審査・筆記審査・面接審査を通じて、学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。書類審査においては提出された書類や調査書に基づき、高等学校での学びや活動の成果から「主体性・多様性・協働性」などを中心に評価を行います。筆記審査においては日本語資料による読解・論述審査、英語資料による読解・論述審査を行い「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を中心とした学力を評価します。さらに面接審査においては上述の本学部で学ぶ意欲を中心に総合的に評価を行います。

国際学部

関西学院大学国際学部では、「国際性の涵養」という教育・研究上の理念を達成するため、「国際事情に関する課題の理解と分析」を教育・研究上の目的としています。その目的の達成を通じて、「国際性」(世界理解、国際理解のための能力)と「人間性」を備えた世界市民として、国際的なビジネス・市民社会で活躍できる人材の養成をめざしています。その教育・研究上の目的は、学生が高い外国語能力を習得し、世界の各地域を様々な角度(特に人文・社会科学の観点)から理解し、分析できるようになることです。

本学部では、このような教育・研究上の理念・目的に基づいて、AO入学試験を実施します。この入学試験では、本学部に強い関心と学習意欲を持ち、文化・芸術活動に関して秀でた体験や経験を有する人、社会人を対象として、従来の一般学力試験では判断することができない多様な経験、活動を通じて身につけた豊かな人間性、将来性、可能性、能力を多面的に、積極的に評価します。

審査は書類審査・筆記審査・面接審査を通じて、学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。書類審査においては提出された書類や調査書に基づき、高等学校での学びや活動の成果から「主体性・多様性・協働性」などを中心に評価を行います。筆記審査においては日本語資料による読解・論述審査、英語資料による読解・論述審査を行い「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を中心とした学力を評価します。さらに面接審査においては上述の本学部で学ぶ意欲を中心に総合的に評価を行います。

2016年度 自己点検・評価【関西学院大学全体】

A票

＜理念、目的、教育研究目標、方針等＞設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2017年2月23日

| | | | |
|------|-----|------|----------|
| 主管部局 | 学長室 | 担当部局 | 学長室 |
| | | | 教務機構 |
| | | | 高大接続センター |

教育学部

教育学部は、「子ども理解」を基本的な教育理念として、学校教育及び保育の現場で活躍する「教育者」、広く社会で子どもを育てる活動にかかわり、またそうした活動を支援できる「教育者」を養成することを目的としています。そのため、「実践力」、「教育力」、「人間力」など「教育者」に求められる資質をさらに伸ばそうとする意志を持つ者を受け入れることを基本方針としています。

教育は人間の心に深く関係する営みであるとともに、教員・保育者は子どもとのかかわりや保護者とのかかわりも密です。それら他者とのかかわりを維持し、発展させるために必要な能力の基礎となる読解力と論理的思考を含んだ基礎的な学力を有する者を受け入れます。また、「教育者」となる資質として、基本となる教科を幅広く学習している者、特定分野における優れた学力や能力を持ち、さらに入学後に学力の伸長が期待できる者を受け入れます。

以上を募集方針の要素として、多様な能力を評価するAO入試を実施します。高等学校段階までに身につけた「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を書類審査、筆記試験(英語論述審査・課題小論文審査)、グループディスカッション等および、個人面接を行い、総合的に評価します。

総合政策学部

現代社会は、環境破壊や資源・人口問題、国際紛争など多くの深刻な問題をかかえており、各国政府や国際機関、非政府組織、民間団体などさまざまな組織や団体が、問題の解決をめざしています。関西学院大学総合政策学部では、“Think globally. Act locally.”(地球規模で考え、足元から行動せよ)をモットーに、こうした地球規模の問題に対して、いかにして適切な政策を打ち出せるかを幅広い学問領域を結集させ、総合的に追求しています。

総合政策学部が求めている学生像は、現実世界の問題に対してしっかりと問題意識をもち、解決に向けて情熱を持って取り組むことで、人々がより幸福に暮らすことのできる社会の実現に貢献しようとする学生です。総合政策学部では、このような学生は少なくとも次のような能力を備えていなければならないと考えています。1つ目は、現実世界の問題を解決したいという志と情熱を持っていることです。2つ目は、複雑に入り組んだ現実世界の問題を解きほぐし、その中から具体的な課題を発見・抽出するための想像力と論理的な思考力です。3つ目は、自らの考えや意見、政策提案を的確に表現し、伝達するための発信型のコミュニケーション能力です。

総合政策学部では、第1次審査として読解・論述審査を行います。第1次審査では、記憶力や単なる知識だけでは測れない読解力、思考力、論理力、表現力などを多面的に評価します。第2次審査では面接試験によって皆さんの情熱や想像力、論理的な思考力を審査し、提出された書類と合わせて、「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」について評価を行います。

理工学部

関西学院大学理工学部は、自然科学の基礎をしっかりと学び、それらを応用に生かしていく能力を養いたいと考えている若者たち、本学の建学の精神を背景にして、人格形成、自己の確立に努め、自然科学の知識や能力に優れているだけでなく、人間として深みのある科学者や技術者になりたいと考えている若者たち、そのような人々を対象にAO入試を実施します。豊かな自然の中にある神戸三田キャンパスに、最新鋭の研究装置・設備を備えた理工学部で、自然科学の真理の探究に挑戦してみませんか。そんな意欲のある若者たちが多数受験してくれることを願っています。

＜数理科学科＞

数学は人間の持つ論証能力を用いて、数や図形の性質の探求、自然現象と社会現象の記述などを対象とする学問です。従来は、具体的事例から抽象されたモデルやその性質を調べる抽象的側面が強調されたこともありますが、現在では、高度に発達した数学を自然現象と社会現象に適用して理解を深め、科学技術の発展や人間活動に貢献するという方向が顕著になってきています。

2009年度より新設された数理科学科は物理学科数学専攻を発展拡充したもので、従来の数学と応用にも範囲を広げた応用数理の2つのコースがあります。ただし、コース分けは4年生からで、それまでは大学数学の基礎知識の修得とその応用能力の向上に努めます。数学の応用に当って必須のコンピュータ運用能力の向上を計ることもその一環です。

数理科学科では、AO入試において、高校生、社会人や帰国生徒などの枠を超えて広く、「自由な発想」ができて「確かな思考力」を備えた、優秀な学生を求めます。

審査においては、数学に関する小論文審査を行い、本学数理科学科の講義・演習を理解するために必要な学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の有無を判定します。また面接審査を行い、数理科学科で学ぶ意欲や「主体性・多様性・協働性」について評価を行い、出願時提出書類・小論文審査の結果と合わせて総合的に判断します。

＜物理学科＞

電子機器をはじめ、私達の身の回りで物理学の知見を利用しないものは少ないでしょう。この事実は、物理学の特徴をよく表しています。

物理学は、様々な現象に共通する少数の機構や原理を見出し、それらによって多くの現象を理解しようとしています。こうして得られた重要な原理は、理解しなかった現象のみならず、より広い現象にも適用できることがあります。この、個々の対象にとらわれない物理学の考え方・方法が、単なる技術改良に留まらない、今までに存在しなかった新しい技術の創生を導いてきました。

物理学をしっかりと学ぶことで、その知識と応用力が得られますが、何よりも、その学びの過程で、現状を論理的に分析して課題を発見し、対応を考える能力が鍛えられます。よって、物理学を学ぼうとする者には、まず、データに基づきながら物事を幅広くとらえ、粘り強く考えようとする強い意欲が必要です。そして、現代社会は、このような能力・意欲をもつ人材を求めています。

物理学科では、AO入試により、基礎学力をもとに暗記にたよらない自由な発想と幅広い思考のできる／意欲をもつ者を求めます。そして、物理学科で進められている、宇宙物理、物性実験、理論物理などの研究活動を通じて、社会に貢献できる人材を育成したいと考えています。

審査においては、物理学に関する小論文審査を行い、本学物理学科の講義・演習を理解するために必要な学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の有無を判定します。また面接審査を行い、物理学科で学ぶ意欲や「主体性・多様性・協働性」について評価を行い、出願時提出書類・小論文審査の結果と合わせて総合的に判断します。

＜理念、目的、教育研究目標、方針等＞設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2017年2月23日

| | | | |
|------|-----|------|----------|
| 主管部局 | 学長室 | 担当部局 | 学長室 |
| | | | 教務機構 |
| | | | 高大接続センター |

＜先進エネルギーナノ工学科＞

地球温暖化を防止し、持続可能な社会を実現するためには、新たなエネルギー技術の開発が不可欠であります。そのためには、従来の技術の枠組みに捉われない、学際的な新たな取り組みが必要です。

先進エネルギーナノ工学科は、ナノテクノロジーをベースとした新しいエネルギー科学・工学の教育研究を通して、上記課題の解決にチャレンジします。本学科では、「エネルギーを創る」、「蓄える」、「運ぶ」、「有効に使う」の4つの分野において、「ものづくり」をキーワードに、基礎から応用までの体系的な教育研究を行うことにより、今度のグリーンイノベーションの核となる技術と人材の創出を目指しています。

本学科の卒業生は、電子・電気、素材、通信、自動車、重化学工業、エネルギーなどの産業や、エネルギー政策に携わる行政などの分野での活躍が期待されます。本学科で培った基礎力・応用力・柔軟な思考力を駆使して、我が国が抱えるエネルギー問題に新たな視点から取り組むことができる人材として活躍します。

このような趣旨のもと、先進エネルギーナノ工学科ではAO入試によって、持続可能な社会を実現するための新しいエネルギー科学・工学に強い興味をもち、主体的な学びを通して成長しようとする意欲的な学生を募ります。

審査においては、数学に関する小論文審査を行い、本学先進エネルギーナノ工学科の講義・演習を理解するために必要な学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の有無を判定します。また面接審査を行い、先進エネルギーナノ工学科で学ぶ意欲や「主体性・多様性・協働性」について評価を行い、出願時提出書類・小論文審査の結果と合わせて総合的に判断します。

＜情報科学科＞

情報技術は社会のニーズの多様化に応えながら、日進月歩の発展を遂げるとともに、インターネットやスマートフォンなどの通信技術と連動することで、われわれの社会に深く浸透しています。

情報科学科では、次世代の情報通信を支える先進的な技術を開発できる人材を育成するため、情報システムとネットワークシステムに関する教育と研究に取り組んでいます。さらに、情報通信技術を基盤とした新しい産業や生活スタイルの創造を目指しています。このため、基礎的な理論を十分に学んだ上で、実践的なプログラミングや応用技術を駆使できる潜在力を秘めた、意欲と知的好奇心に富んだ学生に是非入学して欲しいと考えています。

このような趣旨のもと、情報科学科ではAO入試によって、学力試験のみではとらえきれない能力を持ち、情報通信技術およびそれを活かした分野で活躍する可能性を秘めた学生を広く募ります。プログラム制作(C や Java などによるプログラム、スマートフォン用アプリ、ホームページ、ゲーム等)や、情報処理やインターネットに関連したプロジェクト(文化祭などでの情報機器を使った展示、クラブのホームページ作成、情報機器を使ったボランティア活動等)の経験のある創造力豊かな学生を求めます。

審査においては、提出された「作品資料」について審査を行い、本学情報科学科の目指す学問についての関心の深さ、意欲やセンスを評価するとともに、講義・演習を理解するために必要な学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の有無を判定します。また面接審査を行い、情報科学科で学ぶ意欲や「主体性・多様性・協働性」について評価を行い、出願時提出書類・作品資料の評価と合わせて総合的に判断します。

＜人間システム工学科＞

ユーザの好みや感性に合わせた製品の開発など、人間を中心としたものづくりが産業における主要な課題となっており、改めて人とコンピュータシステムとの関わりが注目されています。

人間システム工学科では、感性豊かな映像や音楽を実現するメディア技術、あるいは人間と実空間・環境との関わりを考えるロボティクス技術やユビキタス技術の研究分野を強化します。またデザインやインタラクションといった先端学際領域(様々な技術分野を統合して解決する学問分野)の観点から人間をトータルシステムとしてとらえた教育と研究を行います。人間の特性や感性をよりよく理解し、社会のニーズに対応できる実力を蓄えるだけでなく、新しいヒューマンシステムインタラクションを創造できるような人材を育てます。

このような趣旨のもと、本学科ではAO入試によって、従来の学力試験ではとらえきれない能力を持ち、可能性を秘めた学生を広く募ります。コンテンツ制作(映像作品、音楽作品、ゲーム、携帯アプリ、アート等幅広く対象とする)やロボットの制作、またはこれらに関連したプロジェクト(文化祭や卒業式での映像を用いたイベントなど)の経験のある創造力豊かな学生を求めます。理系に限定せず、人間の心理的な特性や感性に興味を持つ意欲のある学生を求めます。

審査においては、提出された「作品資料」について審査を行い、本学人間システム工学科の目指す学問についての関心の深さ、意欲やセンスを評価するとともに、講義・演習を理解するために必要な学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の有無を判定します。また面接審査を行い、人間システム工学科で学ぶ意欲や「主体性・多様性・協働性」について評価を行い、出願時提出書類・作品資料の評価と合わせて総合的に判断します。

6. 帰国生徒入学試験

国際化時代に伴い、海外において勤務する日本人の数は多数にのぼっています。また、外国文化摂取のために長期留学する者も増加しています。この現象に伴う帰国生徒の教育問題は高い関心事となっています。しかし、海外での教育条件や生活環境などの違いによって大学に進学できる能力を有しながらも、日本の大学入試制度に対応できないために、正当に評価されていないという問題が指摘されてきました。これに対して、本学では、全国の大学に先駆けて1964年に帰国生徒の受け入れについての規程を制定し、その先進性で評価されています。

この入学試験は、帰国生徒の海外での経験を評価して受け入れるためであると同時に、多様な学生を受け入れることによってキャンパスの活性化を図る教育的効果も期待し、いわゆる「多元的入試」の一環として行っています。諸外国で勉強してきた帰国生徒が海外での貴重な経験と知識を生かし、学内での相互交流を通して学識や人間性をより一層高め、将来の日本および世界を支えていく真の国際人として成長していくことを期待しています。

筆記試験を実施する学部については、英語、日本語に関する知識・技能、思考力・判断力・表現力の評価を行い、面接試験において海外での体験において培った主体性・多様性・協働性や、本学で学ぶ意欲について評価を行います。

7. 国連難民高等弁務官駐日事務所との協定による難民を対象とする推薦入学試験

「難民を対象とする推薦入学制度」は、関西学院大学と国連難民高等弁務官(UNHCR)駐日事務所との協定に基づき実施する入学制度です。これは本学の建学の精神に基づく「人類の幸福と平和に資する世界市民の育成」を現代に即したかたちで実現するためのものです。

日本で生活する難民の方々は、厳しい環境下におかれています。特に教育面では、本人や家族の経済的事情や、母国での出身校の卒業証明が得られないなどの理由で、高等教育を受ける機会を失っている場合が少なくありません。それが就労条件の悪化、さらには、経済的事情の悪化につながっています。

こうした状況を少しでも改善することを目的とするこの推薦入学制度で入学した生徒が、高い教養と専門性を身につけ、将来、日本、母国あるいは国際社会において平和の構築や社会の発展を支える人材へと成長することが期待されています。また関西学院大学で共に学ぶ他の学生にとっても、迫害や戦争といった国際社会が抱える問題を身近に捉えるとともに、日本国内の国際化を意識する機会となります。

国連難民高等弁務官(UNHCR)駐日事務所の推薦に基づき、面接を行い本学で学ぶ意欲を中心にしながら「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」について評価を行います。

＜理念、目的、教育研究目標、方針等＞設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日：2017年2月23日

| | | | |
|------|-----|------|----------|
| 主管部局 | 学長室 | 担当部局 | 学長室 |
| | | | 教務機構 |
| | | | 高大接続センター |

8. スポーツ能力に優れた者を対象とした入学試験

関西学院大学スポーツ能力に優れた者を対象とした入学試験

この選抜入学試験制度は、スポーツ活動において優れた能力と競技実績を有し、入学後は学業と課外活動を両立させる強い意欲をもつ者を積極的に受け入れ、本学における教育の活性化と課外活動の一層の振興に寄与することを目指すものです。提出された書類に基づきスポーツ実績を評価するとともに、本学で学ぶにあたっての基礎学力、知識、表現力、論理的思考力を筆記試験により評価を行います。一次合格者に対する二次審査は面接審査を実施し志願する学部で学ぶ意欲を中心に評価を行います。

文学部特別選抜入学試験(スポーツ活動)

さまざまな優れた能力をもつ者に文学部で学ぶ機会を与えるという観点から、高等学校においてスポーツ活動で優れた能力と競技実績をもち、大学教育を受けるに必要な基礎学力を有する者を選抜し、本学において、スポーツによって培われた個性を伸ばし、広く社会に寄与しうる人間を育成することを目的とします。提出された書類に基づきスポーツ実績を評価するとともに、本学部で学ぶにあたっての基礎的・基本的な「知識・技能」と、「思考力・判断力・表現力」を小論文によって評価します。また面接審査において「主体性・多様性・協働性」を評価します。

【関西学院大学大学院(博士課程前期課程)】

関西学院大学大学院(博士課程前期課程)は、関西学院のミッション及び各研究科が定める「人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的」に共感し、専攻分野における研究能力または高度な専門性を修得するとともに、キリスト教主義に基づいて人格を陶冶し、文化の進展に寄与することについて適性を有した学生を世界のあらゆる地域から受け入れる。

そのために、多様な入試制度を実施する中で、これまでに培われた一般的及び専門的教養、資質、能力、意欲、人間性、研究指向性などを多角的に評価することを基本的な方針としている。

(大学院学則第1条、第2条より)

【関西学院大学大学院(博士課程後期課程)】

関西学院大学大学院(博士課程後期課程)は、関西学院のミッション及び各研究科が定める「人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的」に共感し、専攻分野における研究能力または高度な専門性を修得するとともに、キリスト教主義に基づいて人格を陶冶し、文化の進展に寄与することについて適性を有した学生を世界のあらゆる地域から受け入れる。

そのために、多様な入試制度を実施する中で、これまでに培われた専門性、資質、能力、意欲、人間性、研究指向性などを多角的に評価することを基本的な方針としている。

(大学院学則第1条、第2条より)

【関西学院大学大学院(専門職学位課程)】

関西学院大学大学院(専門職学位課程)は、関西学院のミッション及び各研究科が定める「人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的」に共感し、専攻分野における学術の理論及び応用、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を修得するとともに、キリスト教主義に基づいて人格を陶冶し、文化の進展に寄与することについて適性を有した学生を世界のあらゆる地域から受け入れる。

そのために、多様な入試制度を実施する中で、これまでに培われた専門性、資質、能力、意欲、人間性、研究指向性などを多角的に評価することを基本的な方針としている。

(専門職大学院学則第2条より)

2016 年度 自己点検・評価【関西学院大学全体】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等> 設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2017年2月23日

| | | | |
|------|-----|------|----------|
| 主管部局 | 学長室 | 担当部局 | 学長室 |
| | | | 教務機構 |
| | | | 高大接続センター |

| A-5. 学生の受け入れ方針に関する、適切性および検証体制・検証プロセスの確認 | | | チェック欄 |
|---|---|----------|--|
| 【確認1】 | 学生の受け入れ方針は、A-2「学位授与方針」、A-4「教育課程の編成・実施方針」と整合性が取れているか。 | 学士課程 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| | | 博士課程前期課程 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| | | 博士課程後期課程 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| | | 専門職学位課程 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| 【確認2】 | 学生の受け入れ方針は、理念・目的、教育研究目標を踏まえ、入学時に求める学生像や、修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにしているか。 | 学士課程 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| | | 博士課程前期課程 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| | | 博士課程後期課程 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| | | 専門職学位課程 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| 【確認3】 | 学生の受け入れ方針と、実際の学生募集方法、入学者選抜の実施方法は整合性が取れているか。 | 学士課程 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| | | 博士課程前期課程 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| | | 博士課程後期課程 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| | | 専門職学位課程 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| 【確認4】 | 学生の受け入れ方針は、周知・公表されているか。 | 学士課程 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| | | 博士課程前期課程 | <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ(学士課程の AP 以外は2016年度中に公表) |
| | | 博士課程後期課程 | <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ(学士課程の AP 以外は2016年度中に公表) |
| | | 専門職学位課程 | <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ(学士課程の AP 以外は2016年度中に公表) |

2016年度 自己点検・評価【関西学院大学全体】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2017年2月23日

| | | | |
|------|-----|------|-------------------------|
| 主管部局 | 学長室 | 担当部局 | 学長室 教務機構 高大接続センター |
|------|-----|------|-------------------------|

【学士課程】検証担当部局:高大接続センター

| | | |
|-----------------------|--|---|
| 適切性の検証体制を明確にしているか | 責任主体・組織(承認・決裁) | 入試委員会 |
| | 検証手続き | 各学部での議論を経て、入試委員会で承認する |
| | 決定・判断時期 | 随時 |
| | 検証エビデンス | 入試委員会議事録 |
| 前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。 | <input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2016年10月) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。→(予定: 年 月) | |
| 検証プロセス | 検証方法 | 各学部での議論を経て入試委員会で適切性を議論し検証した。 |
| | 検証結果 | <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。 |
| | | <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="margin-right: 10px;"> <input checked="" type="checkbox"/> 既に見直した(→A票の内容を書き換えた。) </div> <div style="margin-right: 10px;"> <input type="checkbox"/> 今後見直す予定である。 (見直し計画:) </div> <div style="margin-right: 10px;"> <input type="checkbox"/> その他 () </div> </div> |
| 判断根拠 | 「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)、「入学者受入の方針」(アドミッション・ポリシー)に関する「3つのポリシーの策定及び運用に関するガイドライン」(中央教育審議会大学分科会大学教育部会)、「2016年度 関西学院大学 聖和短期大学自己点検・評価 帳票作成の手引き」(関西学院評価情報分析室)等 | |
| 周知・公表方法 | <input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット・リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他() | |

【博士課程前期課程】検証担当部局:学長室、教務機構

| | | |
|-----------------------|--|--|
| 適切性の検証体制を明確にしているか | 責任主体・組織(承認・決裁) | 学長室 |
| | 検証手続き | 教育課程基本方針策定委員会 |
| | 決定・判断時期 | 毎年1月 |
| | 検証エビデンス | 教育課程基本方針策定委員会議事録 |
| 前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。 | <input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2017年2月) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。→(予定:) | |
| 検証プロセス | 検証方法 | 教育課程基本方針策定委員会において適切性を議論し検証する。 |
| | 検証結果 | <input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。 |
| | | <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="margin-right: 10px;"> <input type="checkbox"/> 既に見直した(→A票の内容を書き換えた。) </div> <div style="margin-right: 10px;"> <input type="checkbox"/> 今後見直す予定である。 (見直し計画:) </div> <div style="margin-right: 10px;"> <input type="checkbox"/> その他 () </div> </div> |
| 判断根拠 | 「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)、「入学者受入の方針」(アドミッション・ポリシー)に関する「3つのポリシーの策定及び運用に関するガイドライン」(中央教育審議会大学分科会大学教育部会)、「2016年度 関西学院大学 聖和短期大学自己点検・評価 帳票作成の手引き」(関西学院評価情報分析室)等 | |
| 周知・公表方法 | <input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット・リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他() | |

2016年度 自己点検・評価【関西学院大学全体】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等> 設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2017年2月23日

| | | | |
|------|-----|------|----------|
| 主管部局 | 学長室 | 担当部局 | 学長室 |
| | | | 教務機構 |
| | | | 高大接続センター |

【博士課程後期課程】 検証担当部局:学長室、教務機構

| | | | | |
|-----------------------|--|---|--|--|
| 適切性の検証体制を明確にしているか | 責任主体・組織(承認・決裁) | 学長室 | | |
| | 検証手続き | 教育課程基本方針策定委員会 | | |
| | 決定・判断時期 | 毎年1月 | | |
| | 検証エビデンス | 教育課程基本方針策定委員会議事録 | | |
| 前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。 | <input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2017年2月) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。(予定:) ※2016年度は都合により学部長会で検証 | | | |
| 検証プロセス | 検証方法 | 教育課程基本方針策定委員会において適切性を議論し検証する。 | | |
| | 検証結果 | <input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。 | | |
| | 判断根拠 | <input type="checkbox"/> 既に見直した(→A票の内容を書き換えた。) <input type="checkbox"/> 今後見直す予定である。(見直し計画:) <input type="checkbox"/> その他 () | | |
| 周知・公表方法 | <input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット・リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他() | | | |

【専門職学位課程】 検証担当部局:学長室、教務機構

| | | | | |
|-----------------------|--|---|--|--|
| 適切性の検証体制を明確にしているか | 責任主体・組織(承認・決裁) | 学長室 | | |
| | 検証手続き | 教育課程基本方針策定委員会 | | |
| | 決定・判断時期 | 毎年1月 | | |
| | 検証エビデンス | 教育課程基本方針策定委員会議事録 | | |
| 前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。 | <input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2017年2月) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。(予定:) ※2016年度は都合により学部長会で検証 | | | |
| 検証プロセス | 検証方法 | 教育課程基本方針策定委員会において適切性を議論し検証する。 | | |
| | 検証結果 | <input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。 | | |
| | 判断根拠 | <input type="checkbox"/> 既に見直した(→A票の内容を書き換えた。) <input type="checkbox"/> 今後見直す予定である。(見直し計画:) <input type="checkbox"/> その他 () | | |
| 周知・公表方法 | <input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット・リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他() | | | |

2016年度 自己点検・評価【関西学院大学全体】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等> 設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2017年2月23日

| | | | |
|------|-----|------|----------|
| 主管部局 | 学長室 | 担当部局 | 学長室 |
| | | | 教務機構 |
| | | | 学生活動支援機構 |

| | | |
|-----|--|--|
| A-6 | 正課外教育の支援方針 | 変更の有無 |
| | <p>関西学院大学は、めざす学生像の実現に向けて、正課教育に加えて、本学の学生が、さまざまなチャレンジを通して多様な価値観に触れることにより、異なる視点を身につけ、視野を広げ、視座を高めて自らの価値観を形成することを積極的に支援し、自ら考え行動し得る主体性を身につけた学生を育成する。</p> <p>具体的には、「正課外教育プログラム」、「課外活動」、「ボランティア活動」を正課外教育とし、これらを教職員の関与・支援の下で提供・運用していく。</p> <p>上記の取組みにおいては、諸活動を社会的規範意識や倫理観等を醸成する場としても捉え、本学での人格形成・陶冶に更に努める。</p> | <input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し <small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small> |

| A-6. 正課外教育の支援方針に関する、適切性および検証体制・検証プロセスの確認 | | チェック欄 |
|--|--|---|
| 【確認1】 | 正課外教育の支援方針は、A-2「学部・研究科の区別なく身につけておくべき知識・能力と学生像」やA-3「教育研究目標」等に沿い、本学のめざす方向性に合致した内容であるか。 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| 【確認2】 | 正課外教育の支援方針は、本学構成員にわかりやすい表現となっているか。 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| 【確認3】 | 正課外教育の支援方針は、周知・公表されているか。 | <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ(2016年度内に公表) |
| 適切性の検証体制を明確にしているか | 責任主体・組織(承認・決裁) | 学長室 |
| | 検証手続き | 学長室会、教務機構長室会、学生活動支援機構長室会 |
| | 決定・判断時期 | 毎年10月(教務機構長室会、学生活動支援機構長室会)、毎年12月(学長室会) |
| | 検証エビデンス | 学長室会議事録、教務機構長室会議事録、学生活動支援機構長室会議事録 |
| 前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。 | <input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(教務機構長室会・学生活動支援機構長室会:2016年10月、学長室会:2017年2月) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。(予定:) | |
| 検証プロセス | 検証方法 | 学長室会が教務機構、学生活動支援機構と連絡、調整し、各部局内の会議体で適切性を議論し検証する。 |
| | 検証結果 | <input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。 <div style="margin-left: 20px;"> <input type="checkbox"/>既に見直した(→A票の内容を書き換えた。) <input type="checkbox"/>今後見直す予定である。(見直し計画:) <input type="checkbox"/>その他 () </div> |
| | 判断根拠 | 大学基準協会の大学基準、2016年度大学集中審議資料等 |
| 周知・公表方法 | <input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット・リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他() | |

＜理念、目的、教育研究目標、方針等＞設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2017年2月23日

| | | | | |
|------|-----|------|----------|----------------|
| 主管部局 | 学長室 | 担当部局 | 学長室 | キャリアセンター |
| | | | 教務機構 | ハラスメント相談センター |
| | | | 学生活動支援機構 | ボランティア活動支援センター |
| | | | 国際連携機構 | |

A-7

| | 学生支援に関する方針 | 変更の有無 |
|------|---|--|
| | <p>【関西学院大学(学士課程)】 「一人ひとりの学生が誇れる何かを得ることができ、学生の個性を生かし、世界に通用する人材育成を実現すべく学生支援を強化する」</p> <p>学生生活を通して豊かな人間性を涵養し、学生の資質・能力を十分に発揮させると共に、多様な尺度で一人ひとりの学生が誇れる何かを得ることができ、教育環境や学生生活環境を提供し、総合的な学生支援を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 学生のやる気を引き出し、学生の能力を伸ばすために、正課や正課外教育への支援をさらに強化するとともに、施設の再整備をはかる。 ② 勉学とスポーツ・文化活動の両立をめざす施策を進める。 ③ 日本と海外の学生が頻繁に行き来し、力を合わせた協働を通じて学生が多様性を学ぶ場を整備・構築する。 ④ 各部課が独立して提供している学生支援サービスを、連携するだけでなく、学生の視点から総合化する。 ⑤ 学生の入学前から卒業後までの基礎データや、アンケート調査によって収集した情報を集積し、統計的に分析することで学生の要望や悩み、課題などを把握して、より効果的な総合的な学生支援策を立案する組織体制や仕組みを構築する。 <p>【関西学院大学大学院(修士課程)】 各研究科においてそれぞれ任意に定めることとする。</p> <p>【関西学院大学大学院(博士課程)】 各研究科においてそれぞれ任意に定めることとする。</p> <p>【関西学院大学大学院(専門職学位課程)】 各研究科においてそれぞれ任意に定めることとする。</p> | <input checked="" type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し <small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small> |
| 修学支援 | <p>【留年者および休・退学者への支援】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 休・退学の申請は、各学部事務室で受け付け、原則として各学部の学生担当副学部長主任(学部生)もしくは大学院担当副学部長が面談をして許可している。その際に休・退学者の理由確認、今後の進路の相談を行う。 ② 各学部は成績不振に伴う学修意欲の低下を防ぐため、また長期欠席者の早期対応のために指導対象学生の抽出を行い、基礎演習・演習(ゼミ)担当者やアカデミックアドバイザーの教員と事務職員がペアとなって、個別相談および学修指導を実施する。都度、面談記録(学生毎)を作成し学部にて保存のうえ、学部内で情報共有を行う。なお、呼び出しに応じない学生についても、呼び出しの履歴等を記録に残す。アカデミックアドバイザー制度については、年2回程度、FD部会において本制度の運用状況に関する情報共有を行い、改善等に取り組む。 <p>※アカデミック・アドバイザー制度…各学部が成績不振学生の状況を把握した上で、履修や学修に関する個別指導による支援を当該学生に対して行うことを目的としている。</p> <p>【学生の能力に応じた補習・補充教育に関する支援】 ＜大学として一体的に行っている取り組み＞</p> <ol style="list-style-type: none"> ① ティーチング・アシスタント(Teaching Assistant, T. A.)、授業補佐(Student Assistant, S. A.)、ラーニング・アシスタント(Learning Assistant, L. A.)制度を活用した学部学生を対象とした修学支援 <ul style="list-style-type: none"> ・単に教員の授業運営を補助することのみが目的とされているわけではなく、提供する授業の円滑な運営を補助するとともに、履修者の学修理解の促進等に配慮することを主眼とする。 S. A. …情報処理の基礎教育充実に向けた教育支援体制充実の要請を受けて配置とする。 L. A. …学部および全学科目の導入科目等を主な対象として、授業内および授業外を問わず、履修者の指導や相談対応をとおして学修の支援を行うとともに授業運営を補佐する学部上級生の学生を配置することにより、学部等での教育の活性化と高度化に寄与することを目的としている。 ② 学習管理システム(Learning Management System, LMS)による修学支援 <ul style="list-style-type: none"> ・教員にとっては、授業の運営の補助を、学生にとっては、予習・復習など主体的な学習を補助するために導入している。 ・LMSの最大の目的は、学生の授業時間外での主体的な学習を促すことであり、コミュニティ機能を活用した教員—学生、学生—学生間の双方向性機能(グループ学習含む)を有効に活用した学習の活性化および高度化を図る。 ③ e-Learningコンテンツの全学提供 <ul style="list-style-type: none"> ・「英語力の飛躍的向上の推進」を実現するため、e-Learningによる授業時間外での自主学修用の英語教材としてならびに授業と連動させた学修課題への取り組みの確認を含む授業の補完教材としての活用をする。 ・情報科学科目「コンピュータ基礎」の履修者を対象に、「情報倫理」のコンテンツを授業外の時間に自主学修させる。 ④ スポーツ能力に優れたものを対象とした入学試験合格者対象の入学前準備教育の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・初秋に合格が決定する当該入学試験合格者を対象に、概ね「英語」および「国語」(理工学部のみ「数学」)の通信講座を受講させることで、大学教育に不可欠な主体的な学修姿勢の獲得を目指す。 <p>＜各学部での個別取組＞ 各学部においても、各学部固有の課題に対応するための修学支援に取り組む。</p> | <input checked="" type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し <small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small> |

＜理念、目的、教育研究目標、方針等＞設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2017年2月23日

| | | | | |
|------|-----|------|----------|----------------|
| 主管部局 | 学長室 | 担当部局 | 学長室 | キャリアセンター |
| | | | 教務機構 | ハラスメント相談センター |
| | | | 学生活動支援機構 | ボランティア活動支援センター |
| | | | 国際連携機構 | |

| | | |
|------|--|---|
| 修学支援 | <p>【障がいのある学生に対する修学支援】 関西学院大学の障がいのある学生に対する修学支援の基本的な考え方は、国連で決議された「障がい者権利条約」と2011年に改正された「障がい者基本法」に基づく考え方に準拠している。「めざす大学像」として「垣根なき学びと探求の共同体」の実現を掲げているように、障がいのある学生に対する修学支援は早くからその理念・目的を定めており、障がいのある学生が他の学生と同じようにキャンパスで学ぶことができるよう具体的な支援を進めていく。</p> <p>※「関西学院大学の障がい者支援基本理念」</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 人は全て教育を受ける権利を有し、その能力に応ずる教育を受ける機会を等しく与えられなければならない。 ② 関西学院大学はキリスト教主義をもって建学の精神としている。これを身体障がい者問題という具体的現実の中で問い直し、具体化していかなければならない。 ③ 学生は自ら学習する権利とともに正当な教育サービスを受ける権利を有する。身体上の障がいの故にこの学生としての権利を享受することが損なわれることがあってはならない。 <p>【奨学金による修学支援】 関西学院大学では、学力、人物ともに優秀で学資の援助を必要とする者(学部学生)や学業成績が特に優秀で学問研究に熱意を有し、学費の援助を必要とする者(大学院生)及びグローバルリーダー育成や海外留学などの修学支援のための奨学金を提供する。</p> <p>【異文化交流・留学生支援】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 学内交流スペースや混住型国際教育寮などによって、さまざまな学生が交流することにより異文化理解を深めることを促進する。 ② 日本人学生とのピアエデュケーションを重視した日本語教育の強化のほか、日本人学生との融合に焦点を合わせた留学生支援体制の強化を図る。 <p>【ピアエデュケーション・ピアサポート】 学生の自主的な学修の場(コモンズ)等の整備、ラーニングアシスタント制度の推進により、学生の相互啓発や主体的な学びを促進する。</p> <p>【大学院学生の修学支援】 奨学金制度以外に在学生の研究を奨励するものとして次のような制度を設け、大学院生の修学支援を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 大学院博士課程後期課程研究奨励金制度 若手研究者である博士課程後期課程の在学者のうち、研究能力が特に優れており、研究成果が期待できる者に対して研究奨励金を支給し、研究者としての成長を支援し、大学院における研究活動の活性化を図る。 ② リサーチ・アシスタント(RA)制度 博士課程後期課程在学者を特定の研究課題または共同研究プロジェクト等に研究補助者として参画させることにより、プロジェクトの推進と共に、若手研究者の研究遂行能力の育成を図る。 ③ 教学補佐(Teaching Assistant)制度 授業の補佐、研究室・図書室等の運営などの教育支援業務、または教務事務の補助を行いながら研究できるよう支援する。 ④ 大学院海外研究助成金制度 若手研究者である博士課程後期課程在学者および大学院研究員の海外における研究活動の支援し、研究者育成を図る。 ⑤ 英語プレゼンテーション・スキル講座 海外等における国際学会発表で求められる、基礎的な英語運用能力や発表のためのスキルについて専門領域に特化せず、基礎から効果的に学び、スキル向上を支援する。 | |
| 生活支援 | <p>【学生相談】 総合支援センターでは、心理・生活・修学領域の学生相談はじめ学内事情に詳しいスタッフによる「なんでも相談」および関西学院大学卒業の弁護士による「なんでも法律相談」を含む学生支援を行い、学内外の諸機関と連携・協働の充実強化を推進している。また相談者のなかで、外国語(英語)によるカウンセリングを希望する場合にはそれを紹介をする学生支援体制を確立している。</p> <p>【ハラスメント防止】 本学の学生等に関わるセクシュアル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント、パワー・ハラスメント、及びその他の差別的な言動や取り扱いについて、「関西学院大学ハラスメント防止規程」を定め、「関西学院大学は、学生と教職員によって、教育と研究を目的として構成されている協同社会であり、キリスト教主義を基礎とした教育によりすべての構成員の尊厳と人権を尊重しあう姿勢を大切にしている。関西学院大学は、すべての構成員の生活上の安全を脅かすいかなる人権侵害をも容認するものでなく、ハラスメントに対しても同様である。よって本学では学生と教職員が協力しつつ、ハラスメントのない大学を目指すものである。」「(「関西学院大学ハラスメント防止規程」第1条)」の基本方針に基づき、学長の下に大学ハラスメント防止委員会や関西学院大学ハラスメント相談センターを通して、組織的にハラスメント等の防止に取り組む。</p> <p>【課外活動・ボランティア活動等の支援】 学生生活を通じて社会性や協調性を身につけ、自ら考え行動し得る主体性を身に付けた学生を育成するため、課外活動やボランティア活動を支援する。</p> | <p><input checked="" type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し</p> <p><small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small></p> |

2016 年度 自己点検・評価【関西学院大学全体】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等> 設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2017年2月23日

| | | | | |
|------|-----|------|----------|----------------|
| 主管部局 | 学長室 | 担当部局 | 学長室 | キャリアセンター |
| | | | 教務機構 | ハラスメント相談センター |
| | | | 学生活動支援機構 | ボランティア活動支援センター |
| | | | 国際連携機構 | |

| | | |
|------|--|---|
| | <p>【奨学金による経済的支援】 関西学院大学では、学部学生及び大学院生を対象に、家計急変者などの経済的支援を行う奨学金を提供する。</p> | |
| 進路支援 | <p>本学は、学士課程および博士課程前期課程の学生を対象に、教職員を置いたキャリアセンターを設置し、「キャリア教育の充実発展及び就職支援諸施策を推進」し、「キャリア教育の確立に有用な施策の企画・立案・遂行」、「キャリアガイダンスをはじめとする就職支援に関する諸施策の企画・立案・遂行」などを行う。</p> <p>また、博士課程後期課程を修了または標準年限以上在学し退学した者や、専門職学位課程を修了後、資格試験合格をめざす者に対し、引き続き研究活動や勉学を継続してサポートするために、大学院奨励研究員制度、博士研究員制度、大学院研究員制度、研究科研究員制度、専門職大学院研修員制度を設けて進路支援を行う。</p> | <p><input checked="" type="checkbox"/>有り <input type="checkbox"/>無し</p> <p><small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small></p> |

2016年度 自己点検・評価【関西学院大学全体】

A票

＜理念、目的、教育研究目標、方針等＞設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2017年2月23日

| | | | | |
|------|-----|------|----------|----------------|
| 主管部局 | 学長室 | 担当部局 | 学長室 | キャリアセンター |
| | | | 教務機構 | ハラスメント相談センター |
| | | | 学生活動支援機構 | ボランティア活動支援センター |
| | | | 国際連携機構 | |

| A-7. 学生支援に関する方針について、適切性および検証体制・検証プロセスの確認 | | | チェック欄 |
|--|---|---|--|
| 【確認1】 | 学生支援の方針(修学支援、生活支援、進路支援)は、理念・目的、入学者の傾向等の特性を踏まえた内容になっているか。 | 学位課程 博士課程前期課程 博士課程後期課程 専門職学位課程 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| 【確認2】 | 方針に沿って、修学支援、生活支援、進路支援のための仕組みや体制を整備し、適切に運用しているか。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> (下記のことが明らかであることに留意する。) <修学支援> ・留年者及び休・退学者の状況把握と対処 ・学生の能力に応じた補習・補充教育の実施 ・障がい学生に対する修学支援の実施 ・奨学金等の経済的支援の実施 <生活支援> ・学生相談室等、学生の相談に応じる体制の整備、学生への案内 ・各種ハラスメント防止に向けた取り組み </div> | | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| 【確認3】 | 学生の進路支援は、入学者の傾向等の特性を踏まえながら、進路選択に関わる指導・ガイダンスの実施の点から取り組んでいるか。 | | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| 【確認4】 | 学生支援に関する方針(修学支援、生活支援、進路支援)は、教職員で共有されているか。 | | <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ(2016年度内に対応) |

【学生支援に関する方針(学士課程)】 検証担当部局:学長室

| | |
|-----------------------|--|
| 適切性の検証体制を明確にしているか | 責任主体・組織(承認・決裁) 学長室 検証手続き 学長室会 決定・判断時期 毎年12月 検証エビデンス 学長室会議事録 |
| 前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。 | <input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2017年2月) <input type="checkbox"/>2. 検証を行っていない。→(予定:) |
| 検証プロセス | 検証方法 学長室会において適切性を議論し検証する。 検証結果 <input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。 <div style="margin-left: 100px;"> <input type="checkbox"/>既に見直した(→A票の内容を書き換えた。) <input type="checkbox"/>今後見直す予定である。(見直し計画:) <input checked="" type="checkbox"/>その他 (現在、全学的な教学に関する方針の適切性の検証体制について見直しているところである。) </div> |
| 判断根拠 | 大学基準協会の大学基準、「2016年度 関西学院大学 聖和短期大学自己点検・評価 帳票作成の手引き」(関西学院評価情報分析室)等 |
| 周知・公表方法 | <input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット・リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他() |

2016年度 自己点検・評価【関西学院大学全体】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等> 設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2017年2月23日

| | | | | |
|------|-----|------|----------|----------------|
| 主管部局 | 学長室 | 担当部局 | 学長室 | キャリアセンター |
| | | | 教務機構 | ハラスメント相談センター |
| | | | 学生活動支援機構 | ボランティア活動支援センター |
| | | | 国際連携機構 | |

【学生支援に関する方針(博士課程前期課程)】 検証担当部局:学長室

| | | | | |
|---------------------------|--|--|--|--|
| 適切性の検証 体制を明確に しているか | 責任主体・組織(承認・決裁) | 学長室 | | |
| | 検証手続き | 学長室会 | | |
| | 決定・判断時期 | 毎年12月 | | |
| | 検証エビデンス | 学長室会議事録 | | |
| 前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。 | | <input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2017年2月) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。→(予定:) | | |
| 検証プロセス | 検証方法 | 学長室会において適切性を議論し検証する。 | | |
| | 検証結果 | <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。 | | |
| | 判断根拠 | 大学基準協会の大学基準、「2016年度 関西学院大学 聖和短期大学自己点検・評価 帳票作成の手引き」(関西学院評価情報分析室)等 | | |
| 周知・公表方法 | <input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット・リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他() | | | |

【学生支援に関する方針(博士課程後期課程)】 検証担当部局:学長室

| | | | | |
|---------------------------|--|--|--|--|
| 適切性の検証 体制を明確に しているか | 責任主体・組織(承認・決裁) | 学長室 | | |
| | 検証手続き | 学長室会 | | |
| | 決定・判断時期 | 毎年12月 | | |
| | 検証エビデンス | 学長室会議事録 | | |
| 前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。 | | <input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2017年2月) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。→(予定:) | | |
| 検証プロセス | 検証方法 | 学長室会において適切性を議論し検証する。 | | |
| | 検証結果 | <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。 | | |
| | 判断根拠 | 大学基準協会の大学基準、「2016年度 関西学院大学 聖和短期大学自己点検・評価 帳票作成の手引き」(関西学院評価情報分析室)等 | | |
| 周知・公表方法 | <input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット・リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他() | | | |

2016年度 自己点検・評価【関西学院大学全体】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等> 設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2017年2月23日

| | | | | |
|------|-----|------|----------|----------------|
| 主管部局 | 学長室 | 担当部局 | 学長室 | キャリアセンター |
| | | | 教務機構 | ハラスメント相談センター |
| | | | 学生活動支援機構 | ボランティア活動支援センター |
| | | | 国際連携機構 | |

【学生支援に関する方針(専門職学位課程)】 検証担当部局:学長室

| | | |
|-----------------------|----------------|---|
| 適切性の検証体制を明確にしているか | 責任主体・組織(承認・決裁) | 学長室 |
| | 検証手続き | 学長室会 |
| | 決定・判断時期 | 毎年12月 |
| | 検証エビデンス | 学長室会議事録 |
| 前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。 | | <input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2017年2月) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。(予定:) |
| 検証プロセス | 検証方法 | 学長室会において適切性を議論し検証する。 |
| | 検証結果 | <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。 <div style="margin-left: 20px;"> <input checked="" type="checkbox"/>既に見直した(→A票の内容を書き換えた。):記述内容変更 <input type="checkbox"/>今後見直す予定である。(見直し計画:) <input type="checkbox"/>その他 () </div> |
| | 判断根拠 | 大学基準協会の大学基準、「2016年度 関西学院大学 聖和短期大学自己点検・評価 帳票作成の手引き」(関西学院評価情報分析室)等 |
| 周知・公表方法 | | <input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット・リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他() |

【学生支援に関する方針(修学支援)】 検証担当部局:学長室、教務機構、学生活動支援機構、国際連携機構

| | | |
|-----------------------|----------------|--|
| 適切性の検証体制を明確にしているか | 責任主体・組織(承認・決裁) | 学長室、教務機構、学生支援機構、国際連携機構 |
| | 検証手続き | 学長室会、教務機構長室会、学生支援機構長室会、国際連携機構長室会 |
| | 決定・判断時期 | 毎年10月(教務機構長室会、学生支援機構長室会、国際連携機構長室会)、毎年12月(学長室会) |
| | 検証エビデンス | 学長室会、教務機構長室会、学生支援機構長室会、国際連携機構長室会議事録 |
| 前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。 | | <input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(教務機構長室会、学生支援機構長室会、国際連携機構長室会:2016年10月、学長室会: 2017年2月) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。(予定:) |
| 検証プロセス | 検証方法 | 学長室が、教務機構、学生活動支援機構、国際連携機構と連絡・調整し、各部局の会議体において適切性を議論し検証する。 |
| | 検証結果 | <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。 <div style="margin-left: 20px;"> <input checked="" type="checkbox"/>既に見直した(→A票の内容を書き換えた。) <input type="checkbox"/>今後見直す予定である。(見直し計画:) <input type="checkbox"/>その他 () </div> |
| | 判断根拠 | 大学基準協会の大学基準、「2016年度 関西学院大学 聖和短期大学自己点検・評価 帳票作成の手引き」(関西学院評価情報分析室)等 |
| 周知・公表方法 | | <input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット・リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他() |

2016年度 自己点検・評価【関西学院大学全体】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等> 設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2017年2月23日

| | | | | |
|------|-----|------|----------|----------------|
| 主管部局 | 学長室 | 担当部局 | 学長室 | キャリアセンター |
| | | | 教務機構 | ハラスメント相談センター |
| | | | 学生活動支援機構 | ボランティア活動支援センター |
| | | | 国際連携機構 | |

【学生支援に関する方針(生活支援)】 検証担当部局:学生活動支援機構、ハラスメント相談センター、ボランティア活動支援センター

| | | | | |
|---------------------------|--|--|--|--|
| 適切性の検証 体制を明確に しているか | 責任主体・組織(承認・決裁) | 学生活動支援機構、ハラスメント相談センター、ボランティア活動支援センター、学長室 | | |
| | 検証手続き | 学生活動支援機構長室会、ハラスメント相談センター運営委員会、ボランティア活動支援センター会議、学長室会、 | | |
| | 決定・判断時期 | 毎年10月(学生活動支援機構長室会、ハラスメント相談センター運営委員会、ボランティア活動支援センター会議)、毎年12月(学長室会) | | |
| | 検証エビデンス | 学生活動支援機構長室会、ハラスメント相談センター運営委員会議事録、ボランティア活動支援センター会議議事録、学長室会議事録 | | |
| 前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。 | <input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(教務機構長室会、ハラスメント相談センター運営委員会、ボランティア活動支援センター会議: 2016年10月、学長室会:2017年2月) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。→(予定:) | | | |
| 検証プロセス | 検証方法 | 学生支援機構、ハラスメント相談センター、ボランティア活動支援センター、学長室で連絡・調整を行い、学生支援機構長室会、ハラスメント相談センター運営委員会、ボランティア活動支援センター会議、学長室会において適切性を議論し検証する。 | | |
| | 検証結果 | <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。 | | |
| | 判断根拠 | <input checked="" type="checkbox"/> 既に見直した(→A票の内容を書き換えた。) <input type="checkbox"/> 今後見直す予定である。(見直し計画:) <input type="checkbox"/> その他 () | | |
| 周知・公表方法 | <input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット・リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他() | | | |

【学生支援に関する方針(進路支援)】 検証担当部局:キャリアセンター、教務機構

| | | | | |
|---------------------------|--|--|--|--|
| 適切性の検証 体制を明確に しているか | 責任主体・組織(承認・決裁) | キャリアセンター、教務機構(大学院担当) | | |
| | 検証手続き | キャリアセンター:「管理監督職ミーティング」「キャリアセンター連絡会」「キャリアセンター委員会」、教務機構長室会 | | |
| | 決定・判断時期 | 毎年11月 | | |
| | 検証エビデンス | キャリアセンター:管理監督職ミーティング記録、キャリアセンター委員会記録、教務機構長室会議事録 | | |
| 前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。 | <input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2016年11月) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。→(予定: 年 月) | | | |
| 検証プロセス | 検証方法 | 学長室がキャリアセンター、教務機構と連絡・調整を行い、キャリアセンターでは「管理監督職ミーティング」「キャリアセンター連絡会」「キャリアセンター委員会」において、教務機構では教務機構長室会において適切性を議論し検証した。 | | |
| | 検証結果 | <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。 | | |
| | 判断根拠 | <input checked="" type="checkbox"/> 既に見直した(→A票の内容を書き換えた。) <input type="checkbox"/> 今後見直す予定である。(見直し計画:) <input type="checkbox"/> その他 () | | |
| 周知・公表方法 | <input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット・リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他() | | | |

2016年度 自己点検・評価【関西学院大学全体】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等> 設定・確認シート

～検証状況の確認

提出日:2017年2月23日

| | | | |
|------|-----|------|-----|
| 主管部局 | 学長室 | 担当部局 | 学長室 |
|------|-----|------|-----|

A-8

| | |
|---|--|
| 教員像 | 変更の有無 |
| <p>関西学院はキリスト教主義に基づく教育を「建学の精神」とし、スクールモットー“Mastery for Service”を体現する、創造的かつ有能な世界市民を育むことを使命としている。</p> <p>この関西学院のミッションステートメントを実現するために求められる教員像を、次の通り定めている。</p> <p>(教育者として) 学生の志や夢の実現に向けて真摯に向き合い、よりよい教育・研究に努め、学生の成長を喜びとして誇りと情熱をもって取り組む教員</p> <p>(研究者として) 専門分野においては、学界や社会から高い評価を受け、社会に貢献し、かつ社会から尊敬される教員</p> <p>(組織の構成員として) 上下の隔たりがなく、組織の発展、継続のために、自らの優れた知識・能力だけでなく、多くの教職員の意見やアイデアを引き出し、尊敬、信頼を得る教員</p> <p>(人として) 学識、識見はもちろん、人望、人徳、誠実さを備えた人として魅力のある教員</p> | <input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し <small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small> |
| 教員組織の編制方針 | 変更の有無 |
| <p>教員組織の編制方針については、学部・研究科がそれぞれ定めることとし、大学全体での方針は定めない。</p> | <input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し <small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small> |

| A-8. 教員像、教員組織の編制方針に関する、適切性および検証体制・検証プロセスの確認 | | チェック欄 |
|---|--|---|
| 【確認1】 | 教員像は、教員に求める能力・資質、教育に対する姿勢等を明確にしているか。 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| 【確認2】 | 教員組織の編制方針は、組織的な教育を実施する上において、必要な役割分担や規模(人数)、教員の専門分野やスキル構成、責任体制、を明確にしているか。 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| 【確認3】 | 教員像・教員組織の編制方針は教職員で共有されているか。 | <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ(2016年度内に対応) |
| 適切性の検証体制を明確にしているか | 責任主体・組織(承認・決裁) | 学長室 |
| | 検証手続き | 学長室会 |
| | 決定・判断時期 | 毎年12月 |
| | 検証エビデンス | 学長室会議事録 |
| 前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。 | <input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2017年2月) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。→(予定:) | |
| 検証プロセス | 検証方法 | 学長室会において適切性を議論し検証した。 |
| | 検証結果 | <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。 |
| | 判断根拠 | 大学基準協会の大学基準、「2016年度 関西学院大学 聖和短期大学自己点検・評価 帳票作成の手引き」(関西学院評価情報分析室)等 <div style="display: flex; align-items: center; margin-top: 10px;"> <div style="margin-right: 10px;"> <input type="checkbox"/> 既に見直した(→A票の内容を書き換えた。) </div> <div style="margin-right: 10px;"> <input checked="" type="checkbox"/> 今後見直す予定である。 (見直し計画: 「教員組織の編制方針」について、大学全体としての編制方針を2017年度の取り組みにおいて、他大学の設定状況等を参考に再設定する。) </div> <div> <input type="checkbox"/> その他 () </div> </div> |
| 周知・公表方法 | <input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット・リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他() | |

<理念、目的、教育研究目標、方針等> 設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2017年2月23日

| | | | |
|------|------------|------|------------|
| 主管部局 | 研究推進社会連携機構 | 担当部局 | 研究推進社会連携機構 |
|------|------------|------|------------|

A-9

| 社会連携・社会貢献に関する方針 | 変更の有無 |
|--|---|
| <p>大学の使命は、教育、研究、社会貢献であるが、関西学院大学の「社会貢献に関する基本的方針」、あるいは「社会との連携・協力に関する方針」の制定は、1995年10月の大学評議会において、「学外交流倫理基準」を制定したことに端を発する。この「学外交流倫理基準」は、「産官学連携ポリシー」と言い換えることもできるが、「社会におけるさまざまな要請を積極的に受け止め、学外機関と交流を行い、その成果を通して人類の福祉と社会の進歩に貢献する」をその内容としている。</p> <p>この「産官学連携ポリシー」を実現するため、2002年4月に研究推進機構を設置し、2003年8月には「関西学院大学で創造される研究成果を知的財産として確保し、人類の幸福に貢献するため有効に活用する」を内容とする「知的財産ポリシー」を定め、2005年4月には社会との連携事業を通じた教育プログラムの推進、社会貢献事業等に寄与することを目的として、社会連携センターを設置した。これらを通して地域・産業界・国際社会との連携を深め、人類の福祉と社会の進歩に貢献を行う。</p> <p>※【知的財産支援】 「本学で創造される研究成果を知的財産として確保し、人類の幸福に貢献するため有効に活用する」 スクール・モットー“Mastery for Service”を実践するため、本学の「知的財産」を核に産官学連携を推進し、新産業創出の実現を目指す。「知的財産の創造・確保・活用＝知的創造サイクル」の活性化により本学の経営基盤の強化をはかり、大学の使命である学術研究を推進していく。同時に、知的財産感覚に優れた人材の育成に取り組み、研究・教育両面からの社会貢献を進めることにより本学の価値をさらに高めていく。(2003年8月29日制定:知的財産ポリシー)</p> <p>※【社会連携センター】 本学における研究成果や人材等の知的資源を、地方自治体や NPO・NGO その他の団体に提供することで地域社会に貢献するとともに、大学間連携事業において中心的役割を果たし、産業界や地方自治体等との連携による教育プログラムの提供等を行う。大学の第三の使命である「社会貢献」を果たすべく地域社会と密接に連携し、ひいては本学や近隣大学の学生に学びの場を提供する。</p> | <p><input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し</p> <p>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</p> |

A-9. 社会連携・社会貢献に関する方針について、適切性および検証体制・検証プロセスの確認

チェック欄

| | | |
|-----------------------|--|---|
| 【確認1】 | 社会連携・社会貢献の方針は、A-1「関西学院の理念」を踏まえた内容になっているか。 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| 【確認2】 | 社会連携・社会貢献の方針は、教職員に周知・公表されているか。 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| 適切性の検証体制を明確にしているか | 責任主体・組織(承認・決裁) | 研究推進委員会(議長:機構長) |
| | 検証手続き | 研究推進委員会において審議、決裁・承認している。 |
| | 決定・判断時期 | 毎年3月 |
| | 検証エビデンス | 研究推進委員会議事録 |
| 前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。 | <input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2016年4月) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。(予定: 年 月) | |
| 検証プロセス | 検証方法 | 研究推進委員会における決裁・承認を得る。 |
| | 検証結果 | <input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。 <div style="margin-left: 20px;"> <input type="checkbox"/>既に見直した(→A票の内容を書き換えた。) <input type="checkbox"/>今後見直す予定である。(見直し計画:) <input type="checkbox"/>その他 () </div> |
| | 判断根拠 | 研究推進委員会議事録 |
| 周知・公表方法 | <input checked="" type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット、リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他 () | |

2016 年度 自己点検・評価【関西学院大学全体】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等> 設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2017年2月23日

| | | | |
|------|-----|------|----------|
| 主管部局 | 学長室 | 担当部局 | 学長室 |
| | | | 総務・施設管理課 |
| | | | 情報環境機構 |
| | | | 大学図書館 |

| | | |
|------|--|--|
| A-10 | 教育研究等環境の整備に関する方針 | 変更の有無 |
| | 関西学院大学の教育研究活動を振興・活性化する教育研究環境整備を行い、もって教育研究の一層の充実と社会の発展の寄与に努めることを基本に、学修環境、キャンパス環境、研究環境、情報環境等について、「中期総合経営計画(基盤計画)」に織り込み、全体の構想整備充実を行う。 | <input checked="" type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し <small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small> |

| A-10. 教育研究等環境の整備に関する方針について、適切性および検証体制・検証プロセスの確認 | | チェック欄 |
|---|--|--|
| 【確認1】 | 教育研究等環境の整備の方針は、大学の理念・目的を踏まえた内容になっているか。 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| 【確認2】 | 教育研究等環境の整備の方針は、教職員間で共有化されているか。 | <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ(2016年度内に対応) |
| 適切性の検証体制を明確にしているか | 責任主体・組織(承認・決裁) | 学長室 |
| | 検証手続き | 学長室会 |
| | 決定・判断時期 | 毎年12月 |
| | 検証エビデンス | 学長室会議事録 |
| 前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。 | <input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2017年2月) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。(予定:) | |
| 検証プロセス | 検証方法 | 担当部局の検討を経て、学長室会において適切性を議論し検証する。 |
| | 検証結果 | <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。 |
| | 判断根拠 | 「KG VISION 150(仮称)及び「中期総合経営計画の策定について」(2016年7月21日)、大学基準協会の大学基準等 <input checked="" type="checkbox"/> 既に見直した(→A票の内容を書き換えた。) <input checked="" type="checkbox"/> 今後見直す予定である。 (見直し計画:2018年度から始動する予定の「中期総合経営計画」が現在策定中のため、その策定後に方針の内容を見直すこととした。) <input type="checkbox"/> その他 () |
| 周知・公表方法 | <input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット・リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他() | |

<理念、目的、教育研究目標、方針等> 設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2017年2月23日

| | | | |
|------|-----|------|-----|
| 主管部局 | 学長室 | 担当部局 | 人事部 |
| | | | 学長室 |

| | | |
|------|---|---|
| A-11 | <p>管理運営方針</p> <p>関西学院のミッション・ステートメントのもと、教育・研究機関としての使命と役割を果たし、新基本構想、スーパーグローバル大学創成支援事業構想、中期計画の実現をめざすことを管理運営の基本とする。</p> <p>【ガバナンス・マネジメント】 関西学院の新たなガバナンス改革の一環として、2013年度から「経営」と「教学」の共同体制を目指した法人本部と大学執行部との一体的運営の仕組みを構築した。具体的には、執行体制として「学長の副理事長への就任」「常任理事と副学長との兼任(いわゆる「たすきがけ」)」を行い、意思形成機関として「総合企画会議」「常任執行会議」を設置した。今後は、この仕組みを活用し、「経営」と「教学」の共同体制による意思決定過程の集約・簡素化を実現し、全体最適をめざしたマネジメントを実現する。 また、大学の教育研究にかかる事項については、学長は教授会、大学評議会等の議決その他を参酌しつつ最終決定する。</p> <p>【大学の組織】 2013年度から類似した役割を持つ組織を「機構」の下にまとめて、意思形成を集約するために、従来からの研究推進社会連携機構に加え、教務機構、学生活動支援機構、情報環境機構、国際連携機構を設置し、この機能整備をさらに進め、大学全体に関する政策立案、推進、サービス支援の充実強化を図っていく。</p> <p>【事務組織】 組織を明確にするため、職制(教職員の職種および職種の内容)および職務分掌規程(業務範囲)を定めて必要な事務組織、適切な人員配置を行っている。業務が多様化、複雑化する中では、常に事務組織の在り方を検討するために、常務委員会のもと事務組織検討委員会を設置し、全体最適をめざしながら、部署の新設、統廃合を実施している。大学の事務組織としては、大学の5つの機構にそれぞれ機構事務部を設けることにより統合的な事務組織を設置し、各事務部長が機構内の事務を統轄し、効率的、効果的な組織運営(企画、管理)、予算執行等をめざす。その上で、大学事務統轄が大学全般を統轄する。 一方、事務職員が果たすべき役割も多様化、複雑化する中で、優秀な人材確保そして職員の能力開発、人材育成が喫緊の課題となっている。関西学院が期待する職員像・7つの能力に向け、更に少子高齢化や国際性の高まりなど、教育研究を取り巻く環境変化を踏まえたこれからの大学運営に、より高度な専門能力やスキルが求められてくる。そのような能力を有する事務職員の積極的な育成を図っていく。</p> <p>※「期待する職員像」(関西学院研修ガイド(事務職掌用))</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 学生の成長に真摯に向き合い、教学、学生支援に情熱と誇りをもって行動できる職員 ② 自らの向上のために自己研鑽と職員同士の相互研鑽を進め、共働の中で自己の役割、責任を果たす職員 ③ 国際的な感覚と地域との共生の視点を持ち、さらなる専門性を強化・向上している職員。そして、常に広い視野を持ち改善・改革に目的意識をもって、積極的に取り組み迅速に行動する職員 ④ 人間として人望、人徳を積み上げ、他人(ひと)や社会から信頼され、尊敬される職員 <p>※「職員に求められる人材(7つの能力)」(関西学院研修ガイド(事務職掌用))</p> <p>政策形成能力に優れた人材、行政経営能力に優れた人材、人材育成能力に優れた人材、コミュニケーション能力に優れた人材、広い視野と先見性をもった人材、</p> <p>情報収集・調査・分析能力に優れた人材、高度な専門性をもった人材</p> | <p>変更の有無</p> <p><input type="checkbox"/>有り <input checked="" type="checkbox"/>無し</p> <p>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</p> |
|------|---|---|

2016年度 自己点検・評価【関西学院大学全体】

A票

＜理念、目的、教育研究目標、方針等＞設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2017年2月23日

| | | | |
|------|-----|------|-----|
| 主管部局 | 学長室 | 担当部局 | 人事部 |
| | | | 学長室 |

| A-11. 管理運営方針に関する、適切性および検証体制・検証プロセスの確認 | | チェック欄 |
|---------------------------------------|--|--|
| 【確認1】 | 管理運営方針は、意思決定プロセスや、権限・責任(教学組織と法人組織との関係性含む)、中長期の大学運営のあり方を明確にしているか。 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| 【確認2】 | 管理運営方針は、教職員に周知・公表されているか。 | <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ(2016年度内に公表) |

【ガバナンス・マネジメント】 検証担当部局:学長室

| | | |
|-----------------------|----------------|--|
| 適切性の検証体制を明確にしているか | 責任主体・組織(承認・決裁) | 学長室 |
| | 検証手続き | 学長室会 |
| | 決定・判断時期 | 毎年12月 |
| | 検証エビデンス | 学長室会議事録 |
| 前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。 | | <input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2017年2月) <input type="checkbox"/>2. 検証を行っていない。→(予定:) |
| 検証プロセス | 検証方法 | 学長室会において適切性を議論し検証する。 |
| | 検証結果 | <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。 |
| | 判断根拠 | <input type="checkbox"/> 既に見直した(→A票の内容を書き換えた。) <input checked="" type="checkbox"/> 今後見直す予定である。(見直し計画:「中期総合経営計画」が現在策定中のため、その策定に合わせて方針の内容を見直す。) <input type="checkbox"/> その他 () |
| 周知・公表方法 | | <input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット・リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他() |

【大学の組織】 検証担当部局:学長室

| | | |
|-----------------------|----------------|--|
| 適切性の検証体制を明確にしているか | 責任主体・組織(承認・決裁) | 学長室 |
| | 検証手続き | 学長室会 |
| | 決定・判断時期 | 毎年12月 |
| | 検証エビデンス | 学長室会議事録 |
| 前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。 | | <input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2017年2月) <input checked="" type="checkbox"/>2. 検証を行っていない。→(予定:) |
| 検証プロセス | 検証方法 | 学長室会において適切性を議論し検証する。 |
| | 検証結果 | <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。 |
| | 判断根拠 | <input type="checkbox"/> 既に見直した(→A票の内容を書き換えた。) <input checked="" type="checkbox"/> 今後見直す予定である。(見直し計画:「中期総合経営計画」が現在策定中のため、その策定に合わせて方針の内容を見直す。) <input type="checkbox"/> その他 () |
| 周知・公表方法 | | <input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット・リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他() |

2016年度 自己点検・評価【関西学院大学全体】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等> 設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2017年2月23日

| | | | |
|------|-----|------|-----|
| 主管部局 | 学長室 | 担当部局 | 人事部 |
| | | | 学長室 |

【事務組織】 検証担当部局: 人事部、学長室

| | | | |
|---------------------------|----------------|--|--|
| 適切性の検証 体制を明確にし ているか | 責任主体・組織(承認・決裁) | 人事部、学長室 | |
| | 検証手続き | 人事党内会議、学長室会 | |
| | 決定・判断時期 | 毎年10月(人事党内会議)、毎年12月(学長室会) | |
| | 検証エビデンス | 人事党内会議、学長室会議事録 | |
| 前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。 | | <input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(人事党内会議:2016年10月、学長室会:2017年2月) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。(予定:) | |
| 検証プロセス | 検証方法 | 学長室と人事部で連絡・調整を行い、人事党内会議、学長室会において適切性を議論し検証する。 | |
| | 検証結果 | <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。 <div style="display: flex; align-items: center; margin-left: 20px;"> <div style="margin-right: 10px;">→</div> <input type="checkbox"/> 既に見直した(→A票の内容を書き換えた。) <div style="margin-right: 10px;">→</div> <input checked="" type="checkbox"/> 今後見直す予定である。 (見直し計画:「中期総合経営計画」が現在策定中のため、その策定に合わせて方針の内容を見直すこととする。) <div style="margin-right: 10px;">→</div> <input checked="" type="checkbox"/> その他 () </div> | |
| | 判断根拠 | 「KG VISION 150(仮称)及び「中期総合経営計画の策定について」(2016年7月21日)、大学基準協会の大学基準等 | |
| 周知・公表方法 | | <input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット・リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他() | |

2016年度 自己点検・評価【関西学院大学全体】

A票

＜理念、目的、教育研究目標、方針等＞設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2017年2月23日

| | | | |
|------|-----|------|-----|
| 主管部局 | 財務部 | 担当部局 | 財務部 |
|------|-----|------|-----|

| | | |
|------|---|--|
| A-12 | 財務方針 新基本構想・中期計画などを実現するための「財源の確保」、さらには、学院が持続的に発展するための「強固な財務基盤の確立」を目標とする。そのため、引き続き次の財務指標の目標値を設定する。 ①翌年度繰越消費支出超過額および借入金残高合計が帰属収入に占める割合 50%未満 ②帰属収支差額 8%以上 ③教育研究経費比率 33%以上 ※これら目標値は、新基本構想終了後、理工学部新3学科が完成年次を迎える2019年度末までの目標値 | 変更の有無 <input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し ※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。 |
|------|---|--|

| A-12. 財務に関する、適切性および検証体制・検証プロセスの確認 | | チェック欄 |
|-----------------------------------|--|---|
| 【確認1】 | 予算配分と執行プロセスの明確性・透明性や、監査の方法・プロセス等の適切性について、明確な責任体制のもと、恒常的かつ適切に検証を行っているか。 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| 【確認2】 | 財務方針は、教職員に周知・公表されているか。 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| 適切性の検証体制を明確にしているか | 責任主体・組織(承認・決裁) | 理事会 |
| | 検証手続き | 予算は予算会議の審議を経て、毎年3月の理事会、決算は毎年5月の理事会において決裁・承認している。 |
| | 決定・判断時期 | 毎年3月(予算),5月(決算) |
| | 検証エビデンス | 理事会資料 |
| 前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。 | <input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2016年3月(予算)、5月(決算)) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。→(予定: 年 月) | |
| 検証プロセス | 検証方法 | 理事会における決裁、承認。 |
| | 検証結果 | <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。 <div style="margin-left: 20px;"> <input type="checkbox"/>既に見直した(→A票の内容を書き換えた。) <input type="checkbox"/>今後見直す予定である。(見直し計画:) <input type="checkbox"/>その他() </div> |
| | 判断根拠 | 理事会資料 |
| 周知・公表方法 | <input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット・リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他() | |

2016年度 自己点検・評価【関西学院大学全体】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2017年2月23日

| | | | |
|------|-----|------|-------|
| 主管部局 | 学長室 | 担当部局 | 総合企画部 |
| | | | 学長室 |

A-13

| 内部質保証に関する方針 | 変更の有無 |
|--|--|
| <p>【関西学院自己点検・評価規程】</p> <p>(1)「教育研究水準の向上を図り、学院の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動及び管理運営等の状況について自ら点検及び評価を行う。」(第1条)</p> <p>(2)「法人・大学等及びその各部局は、自己点検・評価結果に基づき、その教育研究活動等について改善が必要と認められた場合は、その改善に努めなければならない。理事長等は、総括結果を法人等の年度計画及び中長期計画に反映させるように努めなければならない」(第9条)</p> <p>【自己点検・評価を推進するうえでの視点】</p> <p>(1) 高次でより自律的な教育研究の質向上、実質的に効果を上げる取組み 自らの教育研究活動及び管理運営等の取組みについて、教職員が自律的且つ積極的に、本学の個性や専門分野の特性、国際通用性の観点等からの点検・評価を行い改善点を明確にすることで、学院全体の諸活動の質向上を図り、学院の目的及び社会的使命達成に寄与する活動とする。</p> <p>(2) 本学の理念・目的、教育研究目標、各方針から自己点検・評価の行動計画までを構造化し、関係性を明確にした取組み 各部局の自律性に配慮しつつ、本学の理念・目的、目標と整合性が取れた自己点検・評価の取組みを推進することで、学院全体として理念・目的の実現に向けた一体感のある、高い水準の取組みとする。</p> <p>(3) 客観的・合理的データに基づいた取組みの推進 信頼性の高い質保証を行うため、客観的で合理的なデータによって本学の教育・研究の質を示す点検・評価活動を行う。そのためには、データを開発・収集・蓄積し常に進捗状況を数値等によって確認できる仕組みを構築することで、自らの証明能力を高めていく。</p> <p>(4) 学院全体での教育研究活動・管理運営の改善に繋がる取組みの共有、展開 自己点検・評価の取組みを通じて明らかになった教育研究活動や管理運営上の課題や好事例は、関西学院評価推進委員会を通じて全学で共有し、必要な場合には助言・勧告を行い学院内諸施策に展開することで学院全体の改善に繋げる。</p> <p>(5) 環境変化に応じた目標、行動計画等の見直し 本学の教育研究目標や各種方針、自己点検・評価の行動計画等は、適宜見直しを行うことが可能な取組みとすることで、学院を取り巻く社会環境等の変化に即応した点検・評価活動とする。</p> <p>(6) 適切性を担保するための第三者評価の実施 本学の教育研究活動及び管理運営の取組みに関する自己点検・評価の適切性が確認されるよう、学内教職員と学外有識者による第三者評価を実施する。</p> <p>(7) 積極的な情報公開による社会への説明責任 本学の社会的責任を果たすため、自己点検・評価結果を公表する。</p> <p>(8) 認証評価機関による認証評価への対応 社会に対して本学の教育の質を保証するため、第三者評価機関による認証を得る。</p> <p>(9) 「質」の文化の醸成 内部質保証の取組みが日常的な活動として学院に根付き、自律的かつ恒常的な改善の取組みが継続されるよう、自己点検・評価および関連する諸施策を積極的に展開する。</p> | <p><input type="checkbox"/>有り</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>無し</p> <p>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</p> |

2016年度 自己点検・評価【関西学院大学全体】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2017年2月23日

| | | | |
|------|-----|------|-------|
| 主管部局 | 学長室 | 担当部局 | 総合企画部 |
| | | | 学長室 |

| A-13. 内部質保証に関する方針について、適切性および検証体制・検証プロセスの確認 | | チェック欄 |
|--|--|--|
| 【確認1】 | 学外者の意見を聴取する等、内部質保証の取組みの客観性・妥当性を高めるための工夫をしているか。 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| 【確認2】 | 文部科学省及び認証評価機関からの指摘事項に対して、適切に対処しているか。 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| 【確認3】 | 内部質保証に関する方針は、教職員に周知・公表されているか。 | <input checked="" type="checkbox"/> いいえ(2016年度内に公表) |
| 適切性の検証体制を明確にしているか | 責任主体・組織(承認・決裁) | 学長室 |
| | 検証手続き | 評価情報分析室、学長室会 |
| | 決定・判断時期 | 毎年10月(評価情報分析室長会)、毎年12月(学長室会) |
| | 検証エビデンス | 評価情報分析室会議事録、学長室会議事録 |
| 前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。 | | <input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(評価情報分析室長会:2016年10月、学長室会:2017年2月) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。(予定:) |
| 検証プロセス | 検証方法 | 学長室と評価情報分析室で連絡・調整を行い、学長室会、評価情報分析室長会において適切性を議論し検証する。 |
| | 検証結果 | <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。 <input type="checkbox"/> 既に見直した(→A票の内容を書き換えた。) <input checked="" type="checkbox"/> 今後見直す予定である。 (見直し計画:第三期認証評価においては内部質保証を重視する評価が行われる。内部質保証の考え方を明確にするため、内部質保証の方針・手続を設定し、それをもとに体制を構築して、大学全体として一体的な質保証を実施することが求められる。それに応じてより効率的な内部質保証とするため、規程の変更を行う。 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (現在、全学的な教学に関する方針の適切性の検証体制について見直しているところである。) |
| | 判断根拠 | 「KG VISION 150(仮称)及び「中期総合経営計画」の策定について」(2016年7月21日)、第3期認証評価における大学評価の実施ガイド(大学基準協会)等 |
| 周知・公表方法 | <input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット・リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他() | |

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2017年2月23日

| | | | |
|------|-----|------|---------|
| 主管部局 | 学長室 | 担当部局 | 学長室 |
| | | | 人権教育研究室 |

A-15

| 人権教育・人権問題に関する方針 | 変更の有無 |
|---|--|
| <p>「関西学院大学人権教育の基本方針」(2014年3月)を周知させていくことを通して、関西学院大学のすべての構成員が人権への理解を深め、人権を活用する能力を身につけていくことができるように努める。</p> <p>※【関西学院大学人権教育の基本方針】 <はじめに> 1948年に国連で採択された世界人権宣言では、「人は生まれながらにして自由であり、かつ尊厳と権利において平等」(1条)な存在であるという確信の下に、すべての人の権利として25条にわたりさまざまな権利を確認している。戦後の日本では、憲法に基づき国家が人権を保障する義務をもつという近代的立憲主義を採用し、さらに国際人権諸条約の批准や国内法を通じて、人権を守ることを約束してきた。しかしながら、現実には日本や世界には差別などの人権侵害により尊厳を奪われる状況はなくなり、グローバル化、情報化社会などの進展と共に新たな課題も生まれている。 人権が保障される社会を作るために貢献することは、すべての人、組織の任務であろう。とりわけ、キリスト教主義にもとづく「隣人愛」を基礎におき、“Mastery for Service”を体現する世界市民を育むことを目的とする本学にとっては、その目的(ミッション)と深く関わる中核的な課題である。 関西学院大学では、1970年代に起きた部落差別事件をきっかけに、同和問題への取り組みの遅れを初めとする人権への取り組みについて反省を迫られることとなった。この教訓の上に、1975年に大学評議会において「同和教育の基本方針」を採択し、「全学的課題としての同和問題に対して、それぞれの場において、より積極的に取り組む」ことを確認、全学的な教育・研究の取り組みを開始した。その後、日本における人権課題への意識も深まり、それにとまない本学における人権教育の課題も拡大し、在日コリアン、障がい者、ジェンダー、在日外国人、セクシャル・マイノリティ、子どもなどに関わる人権上の課題にも取り組むようになっていく。 本基本方針では、こうした過去の経緯を踏まえ、さらに発展させていくため、今後の本学の人権教育に関わる基本的な考え方を確認するものである。</p> <p>1. 建学の精神、ミッションと人権教育 本学はその建学以来キリスト教主義(Principles of Christianity)に基づき、その歴史の中で生み出されたスクールモットー“Mastery for Service”の実践を教育・研究の重要な目的として今日に至っている。その実践の根底にあるものはキリスト教的「隣人愛」に他ならない。ここで意味される「隣人愛」とは、自らが関わる相手を自分と関わりなく存在するものとしてとらえるものではなく、常に相手との積極的な関わりの中で自らのあり方を根本的かつ批判的に問いながら実践するものでなければならない。すなわち、その実践においては、個々人の「いのち」と尊厳が常に遵守される社会を創造するための感性と行動を不断に問いつつ、一人一人が自らを「絶対化」しようとする誘惑と常に対峙する必要がある。 さらに今日、本学は創立者 W.R.ランバスの生涯にならい、世界市民(World Citizen)をはぐくむことを大きな目的の一つとしている。建学の理念を鑑みるとき、本学が目指す世界市民とは、他者と対話し共感する能力を身につけ、よりよい世界の創造に向けて責任を担う人々であると考えられる。 そして、他者と共感する力を持つためには、固定観念や偏見を廃しながら、人の多様性を受け入れることが前提となる。また、自己と他者の権力関係を正しく理解し、不当な抑圧を生み出さず、差別などの人権侵害を見抜く眼が不可欠である。 他者と対話しながら、よりよい世界の創造に貢献していくためには、「人は生まれながらにして自由であり、かつ尊厳と権利において平等」な存在であるという共通の確信に導かれつつ対話を行う力が必要となる。また、人の尊厳が守られる社会を生み出す過程に参加する力と意思も必要となる。 人権の前提である確信、すなわち「人は生まれながらにして自由であり、かつ尊厳と権利において平等」な存在であることを理解し、人権を活かしながらよりよい社会を生み出す力を身につけることは世界市民の前提条件と考えられる。 このように、人権教育は、本学のミッションの中核に関わる。このため、本学における人権教育はそれを専門とする一部の教員だけでなく、多くの教職員と学生の参加を得ながら共に作り上げてきており、今後も全学的な取り組みを深めていく。</p> <p>2. 人権教育でなにをめざすか 本学では、学生の大学での体験総体を通じて、人権を支える価値観・姿勢、人権への理解、人権の活用能力をはぐくむことをめざす。具体的には、次のような教育目標をもって人権教育を行いたい。 1)人権を支える価値観・姿勢を獲得する 人は生まれながらにして自由であり、かつ尊厳と権利において平等な存在であるという確信を持つことができるようになる。 このためには、日本や世界に存在する差別の実態を、歴史的、社会的、政治的、文化的、経済的な背景などを含めて理解する必要がある。さらに、自らにある「固定観念」や「偏見」を直視し、それらによって人の多様なあり方を受け入れることができなくなったり、マイノリティの状況が理解できなくなったりすることがないようにはなくてはならない。 2)人権への理解を獲得する 人々の尊厳を損なう権力関係が社会に存在していることを認識することができるようになる。 その上で、権力関係のありかたを問いつつ、人の尊厳を守ることを可能とする人権のさまざまな役割を理解し、加えて、「人間の自由、尊厳と権利の平等」を実現するためには、変化する社会の中で新たにどのような人権が必要なのかを構想できるようになる。 3)人権を活用する能力を獲得する 自己と他者の人権擁護のために、具体的な状況において人権を適用し、それらを理性的に活用しながら問題解決を行う方法を見つけることができ、その実現のために行動することができるようになる。</p> <p>3. 人権教育の前提としての大学における人権保障 人権を理解し、その役割を確認するためには、自らや他者の人権が守られる環境で学ぶことが不可欠である。大学の中で人権が守られる環境を作ることは、学生の権利保障のためのみならず、人権教育の実現のためにも欠かせない。これは、「多様性を力とする垣根なきコミュニティ」を生み出すことにもつながる。 とりわけ、以下を実現する責務を大学は持つ。 1)多様性の尊重、偏見・差別の排除をもとに大学の構成員一人一人がハラスメントなく学び、働ける環境を保障する。被差別部落出身などの社会的出自、ジェンダー、障がい、国籍、人種・民族、宗教、性的指向などに基づく差別は許されない。 2)国際人権諸条約や関連国内法に基づき、障がい者が等しく教育を受けるための権利、または同等に働く権利を、合理的な配慮に基づく支援の提供も含めて、保障する。 3)これらを含めた人権の保障は、すべての大学の構成員の責務である。大学はこの責務を果たすため教職員向けの研修等を実施する。また、学生支援、ハラスメント防止、人権教育などに関わる部門は、それぞれの機能に応じて連携する。これらの大学による人権保障の実現は、見直しを行いながら継続して改善する。</p> <p>4. 研究・地域連携を通じ人権の守られる社会づくりへの貢献 「世界市民」をはぐくむためには、大学自体が「よりよい世界の創造」のためのプロセスに参加することで、範を示さなくてはならない。また、社会的出自、ジェンダー、障がい、国籍、人種・民族、宗教、性的指向などの側面で多様な属性を持つ学生や教職員が、共感に基づく対話を実現できる「垣根なきコミュニティ」を生み出すためには、大学内部はもとより社会全体が変わっていく必要がある。 このために、研究と地域連携を通じ、とりわけ次のような側面で社会発信を行う。 1)新たな人権の課題について議論する場や素材の提供 社会の変化にとまない生じる新たな課題を人権の視点から考え、議論を行う場を講演会、公開研究会などの手法で提供すると共に、出版物を通じてその成果を発信する。</p> | <p><input type="checkbox"/>有り <input checked="" type="checkbox"/>無し ※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</p> |

2016年度 自己点検・評価【関西学院大学全体】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等> 設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2017年2月23日

| | | | |
|------|-----|------|---------|
| 主管部局 | 学長室 | 担当部局 | 学長室 |
| | | | 人権教育研究室 |

2)学生が卒業後も人権を守れるような社会へと変革するための発信
人権を単なる建前で終わらせないためには、一人一人の人権が守られる社会が必要である。大学の中での人権教育が説得力を持つためにも、大学自身が研究や地域連携を通じ人権が守られる社会づくりのための発信を行う。

| A-15. 人権教育・人権問題に関する方針について、適切性および検証体制・検証プロセスの確認 | | チェック欄 |
|--|---|--|
| 【確認1】 | 「人権教育・人権問題に関する方針」は、A-2「目的」、「めざす学生像」の実現に向けて、相応しい内容であるか、適切な表現であるか。 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| 【確認2】 | 「人権教育・人権問題に関する方針」は、周知・公表されているか。 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| 適切性の検証体制を明確にしているか | 責任主体・組織(承認・決裁) | 人権教育研究室室長室会(議長:人権教育研究室長) |
| | 検証手続き | 毎月開催の人権教育研究室長会での審議を経て、決裁・承認している。 |
| | 決定・判断時期 | 毎年3月 |
| | 検証エビデンス | 人権教育研究室室長室会議事録 |
| 前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。 | <input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2016年1月) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。(予定: 年 月) | |
| 検証プロセス | 検証方法 | 人権教育プログラムの実施状況を把握のうえ、毎月の人権教育研究室長会において課題を整理している。 |
| | 検証結果 | <input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。 <div style="margin-left: 20px;"> <input type="checkbox"/>既に見直した(→A票の内容を書き換えた。) <input type="checkbox"/>今後見直す予定である。(見直し計画:) <input type="checkbox"/>その他() </div> |
| | 判断根拠 | 人権教育プログラムの実施状況 |
| 周知・公表方法 | <input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input checked="" type="checkbox"/> パンフレット・リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他() | |

2016年度 自己点検・評価【関西学院大学全体】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等> 設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2017年2月23日

| | | | |
|------|-----|------|----------------|
| 主管部局 | 学長室 | 担当部局 | ボランティア活動支援センター |
|------|-----|------|----------------|

| | | |
|------|--|--|
| A-16 | ボランティア活動・教育に関する方針 | 変更の有無 |
| | 関西学院内のさまざまなボランティア活動に関する情報の収集・発信を行うと共に、ボランティア活動を活性化させ、同時に関西学院と地域の開かれた関係を築くことによって、関西学院のスクールモットー「Mastery for Service」を体現する世界市民の育成を図る。 | <input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し <small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small> |

| A-16. ボランティア活動・教育に関する方針について、適切性および検証体制・検証プロセスの確認 | | チェック欄 |
|--|--|--|
| 【確認1】 | 「ボランティア活動・教育に関する方針」は、A-2「目的」、「めざす学生像」の実現に向けて、相応しい内容であるか、適切な表現であるか。 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| 【確認2】 | 「ボランティア活動・教育に関する方針」は、周知・公表されているか。 | <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ(2016年度内に公表) |
| 適切性の検証体制を明確にしているか | 責任主体・組織(承認・決裁) | ボランティア活動支援センター会議(議長:副学長) |
| | 検証手続き | ボランティア活動支援センター会議において決裁・承認する。 |
| | 決定・判断時期 | 毎年3月 |
| | 検証エビデンス | ボランティア活動支援センター会議議事録 |
| 前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。 | <input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2017年2月) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。→(予定: 年 月) | |
| 検証プロセス | 検証方法 | ボランティア活動支援センター会議において決裁・承認を得る。 |
| | 検証結果 | <input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。 <div style="margin-left: 20px;"> <input type="checkbox"/>既に見直した(→A票の内容を書き換えた。) <input type="checkbox"/>今後見直す予定である。(見直し計画:) <input type="checkbox"/>その他() </div> |
| | 判断根拠 | |
| 周知・公表方法 | <input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット・リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他() | |

<A票変更点記述 シート>

提出日:2017年2月23日

【A票変更点記入欄】

| | |
|-----------|---|
| 項目名 | A-3 教育研究目標 |
| 変更内容とその理由 | <変更内容> 目標6追加 (タイトル)大学院のあり方 (狙い・内容)世界的な研究拠点のため、大学院の充実を図り、若手研究者の育成に努める。 |
| | <変更理由> 2015年度に設定した大学全体および機構・センターの目標について、全学的な視点から整理し直した結果、大学院の一層の充実化も検討する必要があることから、新たに教育研究目標に「大学院の在り方」に関する項目を追加することとした。 |
| 項目名 | A-3 教育研究目標 |
| 変更内容とその理由 | <変更内容> アシスト目標(位置づけ)追加 教育研究目標の達成のため、機構・センターがそれぞれの役割に基づいて策定した目標。 |
| | <変更理由> 2015年度に設定した大学全体および機構・センターの目標について、今年度、全学的な視点から目標の一元化を図った結果、大学全体の教育研究目標に組み込まれなかった目標を、改めて「アシスト目標」という位置付けに整理して今後の進捗評価を行うこととしたため。 |
| 項目名 | A-5 学生の受け入れ方針(アドミッション・ポリシー;AP) |
| 変更内容とその理由 | <変更内容> 別紙参照 |
| | <変更理由> ・2015年度に設定した際に記載漏れのあった入試形態に関する記述をアドミッション・ポリシーに追記したため ・文体の統一のため |
| 項目名 | A-7 学生支援に関する方針 |
| 変更内容とその理由 | <変更内容> 変更前 【関西学院大学大学院(修士課程)】 次年度以降検討 【関西学院大学大学院(博士課程)】 次年度以降検討 【関西学院大学大学院(専門職学位課程)】 次年度以降検討 変更後 【関西学院大学大学院(修士課程)】 各研究科においてそれぞれ任意に定めることとする。 【関西学院大学大学院(博士課程)】 各研究科においてそれぞれ任意に定めることとする。 【関西学院大学大学院(専門職学位課程)】 各研究科においてそれぞれ任意に定めることとする。 |
| | <変更理由> 2015年度時点で「次年度以降検討」としていたため、今年度の取り組みのにおいて内容を検討し、新たに設定。 |

| | |
|-----------|---|
| 項目名 | A-7 学生支援に関する方針(修学支援) |
| 変更内容とその理由 | <p><変更内容></p> <p>修学支援 【留年者および休・退学者への支援】 変更前 ① 休・退学の申請は、各学部事務室で受け付け、原則として各学部の学生主任(学部生)もしくは教務学生委員(大学院)が面談をして許可している。その際に休・退学者の理由確認、今後の進路の相談を行う。</p> <p>変更後 ① 休・退学の申請は、各学部事務室で受け付け、原則として各学部の学生担当副学部長(学部生)もしくは大学院担当副学部長(大学院)が面談をして許可している。その際に休・退学者の理由確認、今後の進路の相談を行う。</p> |
| | <p><変更理由></p> <p>各学部における担当教員の役職名称を変更したため</p> |
| 項目名 | A-7 学生支援に関する方針(修学支援) |
| 変更内容とその理由 | <p><変更内容></p> <p>修学支援 【ピアエデュケーション・ピアサポート】 変更前 学生の自主的な学修の場(コモンズ)等を整備することで、学生の相互啓発や主体的な学びを促進する。</p> <p>変更後 学生の自主的な学修の場(コモンズ)等の整備、ラーニングアシスタント制度の推進により、学生の相互啓発や主体的な学びを促進する。</p> |
| | <p><変更理由></p> <p>「ラーニングアシスタント制度」に関する記載を追記したため</p> |
| 項目名 | A-7 学生支援に関する方針(生活支援) |
| 変更内容とその理由 | <p><変更内容></p> <p>生活支援 【ハラスメント防止】 変更前 本学の学生等に関わるセクシュアル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント、パワー・ハラスメント、及びその他の差別的な言動や取り扱いについて、「関西学院大学ハラスメント防止規程」を定め、「関西学院大学は、学生と教職員によって、教育と研究を目的として構成されている協同社会であり、キリスト教主義を基礎とした教育によりすべての構成員の尊厳と人権を尊重しあう姿勢を大切にしている。関西学院大学は、すべての構成員の生活上の安全を脅かすいかなる人権侵害をも容認するものでなく、ハラスメントに対しても同様である。よって本学では学生と教職員が協力しつつ、ハラスメントのない大学を目指すものである。(「関西学院大学ハラスメント防止規程」第1条)」の基本方針に基づき、学長の下に大学ハラスメント防止委員会や関西学院大学ハラスメント相談センターを通して、組織的にハラスメント等の防止に取り組む。 (これまでの「キャンパス・ハラスメント相談規程」を廃止し、上記規程を2016年4月1日より施行予定)</p> <p>変更後 【ハラスメント防止】 本学の学生等に関わるセクシュアル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント、パワー・ハラスメント、及びその他の差別的な言動や取り扱いについて、「関西学院大学ハラスメント防止規程」を定め、「関西学院大学は、学生と教職員によって、教育と研究を目的として構成されている協同社会であり、キリスト教主義を基礎とした教育によりすべての構成員の尊厳と人権を尊重しあう姿勢を大切にしている。関西学院大学は、すべての構成員の生活上の安全を脅かすいかなる人権侵害をも容認するものでなく、ハラスメントに対しても同様である。よって本学では学生と教職員が協力しつつ、ハラスメントのない大学を目指すものである。(「関西学院大学ハラスメント防止規程」第1条)」の基本方針に基づき、学長の下に大学ハラスメント防止委員会や関西学院大学ハラスメント相談センターを通して、組織的にハラスメント等の防止に取り組む。</p> |
| | <p><変更理由></p> <p>2016年度に「関西学院大学ハラスメント防止規程」を定めたため、文末の()内の文章を削除。</p> |

| | |
|-----------|--|
| 項目名 | A-7 学生支援に関する方針(進路支援) |
| 変更内容とその理由 | <p><変更内容> 進路支援 変更前 関西学院大学のキャリア支援は、「人生観、職業観をもち、自分の人生における働く意味を明確にした上で」、「長所(短所)を知り、強みを活かす」ことを大学生の間に行えるよう各プログラムを組んでいる。これにより自分の生き方や職業に対する考え方を長期的視点で捉える考え方を身に付けさせ、自分自身の強みを認識させている。学生の進路選択に際しては、個人面談を中心にキャリアガイダンス、セミナー等を通じて、キャリア教育と就職支援を行う。</p> <p>変更後 本学は、学生課程および博士課程前期課程の学生を対象に、教職員を置いたキャリアセンターを設置し、「キャリア教育の充実発展及び就職支援諸施策を推進」し、「キャリア教育の確立に有用な施策の企画・立案・遂行」、「キャリアガイダンスをはじめとする就職支援に関する諸施策の企画・立案・遂行」などを行う。</p> |
| | <p><変更理由> 大学基準協会の「基本用語の解説」や大学基準の点検・評価項目の留意すべき事項として書かれているポイントに照らし合わせて、記載内容を見直したため</p> |
| 項目名 | A-10 教育研究等環境の整備に関する方針 |
| 変更内容とその理由 | <p><変更内容> 変更前 関西学院大学の教育研究活動を振興・活性化する教育研究環境整備を行い、もって教育研究の一層の充実と社会の発展の寄与に努めることを基本に、学修環境、キャンパス環境、研究環境等について、「中長期建設計画」に織り込み、全体の構想整備充実を行う。</p> <p>変更後 関西学院大学の教育研究活動を振興・活性化する教育研究環境整備を行い、もって教育研究の一層の充実と社会の発展の寄与に努めることを基本に、学修環境、キャンパス環境、研究環境、情報環境等について、「中期総合経営計画(基盤計画)」に織り込み、全体の構想整備充実を行う。</p> |
| | <p><変更理由> 記載内容を見直し、下線部の文言の追加、修正を行ったため</p> |

<評価専門委員会・第三者評価結果記入欄>

| | |
|------------------|------------------|
| 変更前 | 変更後 |
| 経済学部アドミッション・ポリシー | 経済学部アドミッション・ポリシー |

| | |
|------------------|---|
| 変更前 | 変更後 |
| 経済学部アドミッション・ポリシー | 経済学部アドミッション・ポリシー わが国を含め世界の政治・経済情勢は大きな変化の時代を迎えています。その一つに、貧困や環境の問題などが挙げられますが、その根本には経済問題があるのはいうまでもありません。今の時代に大学で経済学を学ぶ意義はきわめて大きいといえます。同時に、社会や世界の多様な文化や考え方の違いを認識することが大切だと言えます。まさに、激動の世界において活躍できる「世界市民」に求められる資質は、経済学の専門知識だけでなく幅の広い多様な知識としっかりとした価値観を持つことです。 |

本学経済学部では、このような考えから、外国語の能力、社会や世界に対する知識、論理的な思考能力や判断能力が、これからのビジネスの世界や公的機関で働くために必要不可欠な基礎学力であると考えます。世界的な視点から社会のさまざまな出来事に関心を持ち、自分で考える人材を育てていきたいと考えております。その意味で、経済・社会の問題に関心があり、主体的に考えていく能力を身につけたいと思っている学生を求めます。

以上の項目を募集方針の要素として、教科・科目を設定して筆記試験を中心とする一般選抜入学試験と、面接等を探り入れた各種入学試験を実施しています。高等学校における基礎学力の「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を、それぞれの入学試験において重み付けを行い評価しています。

| | |
|---|---|
| 商学部アドミッション・ポリシー ～真に創造的な能力を有するビジネスパーソンを育成する(Fostering Creative Minds for Business)～ | 商学部アドミッション・ポリシー ～真に創造的な能力を有するビジネスパーソンを育成する(Fostering Creative Minds for Business)～ |
|---|---|

本学部の教育理念・目的は、“Mastery for Service(奉仕のための練達)”というスクールモットーに基づいて、「真に創造的な能力を有するビジネスパーソン」を育成することにあります。すなわち、幅広い関心と鋭い問題意識を有し、さまざまな領域でその能力を十分に発揮できる人材を、社会に送り出すことにあります。本学部は、この教育理念・目的に基づき、人間性を向上させる意欲に満ちあふれた、多様な適性と能力を有する学生を受け入れたいと考えています。

以上の項目を募集方針の要素として、教科・科目を設定して筆記試験を中心とする一般選抜入学試験と、面接等を取り入れた各種入学試験を実施しています。高等学校における基礎学力の「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」をそれぞれの入学試験において重み付けを行い評価しています。

| | |
|--|--|
| 人間福祉学部アドミッション・ポリシー | 人間福祉学部アドミッション・ポリシー |
| 人間福祉学部では、人間とその生活環境としての社会、そして両者の交互作用を全体的に捉えながら、「質の高い生活と社会」の実現に向けて貢献できる人材の育成を目指します。そのための基本理念として「3つのC」、すなわち「人への思いやり(Compassion)」、「幅広い視野(Comprehensiveness)」、「高度な問題解決能力(Competence)」をすべての学科に共通するキー・コンセプトとして位置づけています。 | 人間福祉学部では、人間とその生活環境としての社会、そして両者の交互作用を全体的に捉えながら、「質の高い生活と社会」の実現に向けて貢献できる人材の育成を目指します。そのための基本理念として「3つのC」、すなわち「人への思いやり(Compassion)」、「幅広い視野(Comprehensiveness)」、「高度な問題解決能力(Competence)」をすべての学科に共通するキー・コンセプトとして位置づけています。 |

一般選抜入試ではこの理念や教育プログラムにふさわしい生徒を確保するために、「高校において基本とするような科目全体について一定の学力を持っているか、特に言語的能力があり理解力や論述力に優れているか、あるいは特に数理的な能力に優れているか」との観点から試験を実施します。

なお、本学部の入学にあたって、社会福祉学科は、「社会福祉にかかわる分野での職業選択を希望しているかその分野に理解がある」ことが、社会起業学科は、「社会起業に関心があり、国内外での社会貢献活動をめざしているかそのような分野に理解がある」ことが、人間科学科は、「死生学・生命倫理学・悲嘆学などのこころ(スピリチュアリティ)に関する学問に関心があるか、身体(スポーツ・健康)に関連する分野に関心があり、それぞれの分野での職業選択を希望しているかそれらの分野に理解がある」ことが求められます。

以上の項目を募集方針の要素として、教科・科目を設定して筆記試験を中心とする一般選抜入学試験と、面接等を探り入れた各種入学試験を実施しています。高等学校における基礎学力の「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を、それぞれの入学試験において重み付けを行い評価しています。

| | |
|---|---|
| 国際学部アドミッション・ポリシー | 国際学部アドミッション・ポリシー |
| 国際学部では、「国際性の涵養」という教育・研究上の理念を達成するために、「国際事情に関する課題の理解と分析」を教育・研究上の目的とする。その目的の達成を通じて、「国際性」(世界理解、国際理解のための能力)と「人間性」を備えた世界市民として、国際的なビジネス・市民社会で活躍できる人材を養成する。その教育・研究上の目的は、学生が高い外国語能力を習得し、世界の各地域を様々な角度(特に人文・社会科学の観点)から理解し、分析できるようになることである。 | 国際学部では、「国際性の涵養」という教育・研究上の理念を達成するために、「国際事情に関する課題の理解と分析」を教育・研究上の目的として います 。その目的の達成を通じて、「国際性」(世界理解、国際理解のための能力)と「人間性」を備えた世界市民として、国際的なビジネス・市民社会で活躍できる人材を養成 します 。その教育・研究上の目的は、学生が高い外国語能力を習得し、世界の各地域を様々な角度(特に人文・社会科学の観点)から理解し、分析できるようになること です 。 |

このような教育・研究上の理念・目的を持った本学部では、以下のようなアドミッション・ポリシーを示して学生を迎え入れる**。**

- 人文・社会科学の多岐にわたる領域について幅広い関心と、一定の学力と論理的思考力を持ち、総合的な観点からそれらの課題に取り組もうとする意欲を持つ者
- 主体的な関心に応じて、みずからの問題を発見し、その問題解決に実践的に取り組もうとする意欲を持つ者
- グローバル化する社会の中で他者の想いや異文化に関する感性や、自己のありかたに相対的・反省的視点を持つことが期待される者
- 関西学院に対して強い帰属意識を持ち、スクール・モットーである「Mastery for Service(奉仕のための練達)」という精神を体現しようとする意欲を持つ者
- 海外生活経験を持つ生徒、留学生等、多様なバックグラウンドを有する者
- 優れた外国語能力や、特定の分野において優れた学力・能力を持ち、入学後にそれを活かした教育成果が期待できる者

以上の項目を募集方針の要素として、教科・科目を設定して筆記試験を中心とする一般選抜入学試験と、面接等を探り入れた各種入学試験を実施しています。高等学校における基礎学力の「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を、それぞれの入学試験において重み付けを行い評価しています。

| | |
|--|--|
| 教育学部アドミッション・ポリシー | 教育学部アドミッション・ポリシー |
| 教育学部は、「子ども理解」を基本的な教育理念として、学校教育及び保育の現場で活躍する「教育者」、広く社会で子どもを育てる活動にかかわり、またそうした活動を支援できる「教育者」を養成することを目的としています。そのため、「実践力」、「教育力」、「人間力」など「教育者」に求められる資質をさらに伸ばそうとする意志を持つ者を受け入れることを基本方針としています。 | 教育学部は、「子ども理解」を基本的な教育理念として、学校教育及び保育の現場で活躍する「教育者」、広く社会で子どもを育てる活動にかかわり、またそうした活動を支援できる「教育者」を養成することを目的としています。そのため、「実践力」、「教育力」、「人間力」など「教育者」に求められる資質をさらに伸ばそうとする意志を持つ者を受け入れることを基本方針としています。 |

より具体的には、教育学部は、教育という営みに幅広い関心を持ち、かつ学校、幼稚園、保育所など教育・保育現場や広く社会における教育の諸活動にかかわり、問題解決ができる実践家を目指す者を受け入れたいと考えています。

教育は人間の心に深く関係する営みであるとともに、教員・保育者は子どもとのかかわりや保護者とのかかわりも密です。それら他者とのかかわりを維持し、発展させるために必要な能力の基礎となる読解力と論理的思考を含んだ基礎的な学力を有する者を受け入れます。また、「教育者」となる資質として、基本となる教科を幅広く学習している者、特定の分野における優れた学力や能力を持ち、さらに入学後に学力の伸長が期待できる者を受け入れます。

以上を募集方針の要素として、教科・科目を設定して筆記試験を中心とする一般選抜入学試験と、面接等を探り入れた各種入学試験を実施しています。高等学校段階までに身につけた「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」をそれぞれの入学試験において評価しています。

| | |
|---|---|
| 総合政策学部アドミッション・ポリシー | 総合政策学部アドミッション・ポリシー |
| 本学部が教育研究の目的としている、現代社会の諸問題に的確に対応できる人材を養成するため、必要となる基礎的学力を有することを前提としつつ、資質の異なる多様な学生を受け入れることにより、相互に刺激しあい学びあう教育研究環境の場を整えます。入学に必要な基礎的学力としては、文理の幅広い学びとともに、入学後の教育に対応できる一定の外国語運用能力を有していることが望まれます。また学生の資質としては、特に社会への幅広い関心と考える力、主体性をもって多様な人々と協働し学ぶことができることが求められます。学生は入学後、入学前の基礎的知識のうえに本学部の理念である共生への理解を深め、各自が関心をもつ専門領域において必要となる能力を身に着けるとともに、異なる専門領域についても幅広い学びを探求することが期待されます。 | 本学部が教育研究の目的としている、現代社会の諸問題に的確に対応できる人材を養成するため、必要となる基礎的学力を有することを前提としつつ、資質の異なる多様な学生を受け入れることにより、相互に刺激しあい学びあう教育研究環境の場を整えます。入学に必要な基礎的学力としては、文理の幅広い学びとともに、入学後の教育に対応できる一定の外国語運用能力を有していることが望まれます。また学生の資質としては、特に社会への幅広い関心と考える力、主体性をもって多様な人々と協働し学ぶことができることが求められます。学生は入学後、入学前の基礎的知識のうえに本学部の理念である共生への理解を深め、各自が関心をもつ専門領域において必要となる能力を身に着けるとともに、異なる専門領域についても幅広い学びを探求することが期待されます。 |

以上の項目を募集方針の要素として、教科・科目を設定して筆記試験を中心とする一般選抜入学試験と、面接等を探り入れた各種入学試験を実施しています。高等学校における基礎学力の「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を、それぞれの入学試験において重み付けを行い評価しています。

| | |
|------------------|------------------|
| 変更前 | 変更後 |
| 経済学部アドミッション・ポリシー | 経済学部アドミッション・ポリシー |

| | |
|------------------|---|
| 変更前 | 変更後 |
| 経済学部アドミッション・ポリシー | 経済学部アドミッション・ポリシー わが国を含め世界の政治・経済情勢は大きな変化の時代を迎えています。その一つに、貧困や環境の問題などが挙げられますが、その根本には経済問題があるのはいうまでもありません。今の時代に大学で経済学を学ぶ意義はきわめて大きいといえます。同時に、社会や世界の多様な文化や考え方の違いを認識することが大切だと言えます。まさに、激動の世界において活躍できる「世界市民」に求められる資質は、経済学の専門知識だけでなく幅の広い多様な知識としっかりとした価値観を持つことです。 |

本学経済学部では、このような考えから、外国語の能力、社会や世界に対する知識、論理的な思考能力や判断能力が、これからのビジネスの世界や公的機関で働くために必要不可欠な基礎学力であると考えます。世界的な視点から社会のさまざまな出来事に関心を持ち、自分で考える人材を育てていきたいと考えております。その意味で、経済・社会の問題に関心があり、主体的に考えていく能力を身につけたいと思っている学生を求めます。

以上の項目を募集方針の要素として、教科・科目を設定して筆記試験を中心とする一般選抜入学試験と、面接等を探り入れた各種入学試験を実施しています。高等学校における基礎学力の「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を、それぞれの入学試験において重み付けを行い評価しています。

| | |
|---|---|
| 商学部アドミッション・ポリシー ～真に創造的な能力を有するビジネスパーソンを育成する(Fostering Creative Minds for Business)～ | 商学部アドミッション・ポリシー ～真に創造的な能力を有するビジネスパーソンを育成する(Fostering Creative Minds for Business)～ |
|---|---|

本学部の教育理念・目的は、“Mastery for Service(奉仕のための練達)”というスクールモットーに基づいて、「真に創造的な能力を有するビジネスパーソン」を育成することにあります。すなわち、幅広い関心と鋭い問題意識を有し、さまざまな領域でその能力を十分に発揮できる人材を、社会に送り出すことにあります。本学部は、この教育理念・目的に基づき、人間性を向上させる意欲に満ちあふれた、多様な適性と能力を有する学生を受け入れたいと考えています。

以上の項目を募集方針の要素として、教科・科目を設定して筆記試験を中心とする一般選抜入学試験と、面接等を取り入れた各種入学試験を実施しています。高等学校における基礎学力の「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」をそれぞれの入学試験において重み付けを行い評価しています。

| | |
|--|--|
| 人間福祉学部アドミッション・ポリシー | 人間福祉学部アドミッション・ポリシー |
| 人間福祉学部では、人間とその生活環境としての社会、そして両者の交互作用を全体的に捉えながら、「質の高い生活と社会」の実現に向けて貢献できる人材の育成を目指します。そのための基本理念として「3つのC」、すなわち「人への思いやり(Compassion)」、「幅広い視野(Comprehensiveness)」、「高度な問題解決能力(Competence)」をすべての学科に共通するキー・コンセプトとして位置づけています。 | 人間福祉学部では、人間とその生活環境としての社会、そして両者の交互作用を全体的に捉えながら、「質の高い生活と社会」の実現に向けて貢献できる人材の育成を目指します。そのための基本理念として「3つのC」、すなわち「人への思いやり(Compassion)」、「幅広い視野(Comprehensiveness)」、「高度な問題解決能力(Competence)」をすべての学科に共通するキー・コンセプトとして位置づけています。 |

一般選抜入試ではこの理念や教育プログラムにふさわしい生徒を確保するために、「高校において基本とするような科目全体について一定の学力を持っているか、特に言語的能力があり理解力や論述力に優れているか、あるいは特に数理的な能力に優れているか」との観点から試験を実施します。

なお、本学部の入学にあたって、社会福祉学科は、「社会福祉にかかわる分野での職業選択を希望しているかその分野に理解がある」ことが、社会起業学科は、「社会起業に関心があり、国内外での社会貢献活動をめざしているかそのような分野に理解がある」ことが、人間科学科は、「死生学・生命倫理学・悲嘆学などのこころ(スピリチュアリティ)に関する学問に関心があるか、身体(スポーツ・健康)に関連する分野に関心があり、それぞれの分野での職業選択を希望しているかそれらの分野に理解がある」ことが求められます。

以上の項目を募集方針の要素として、教科・科目を設定して筆記試験を中心とする一般選抜入学試験と、面接等を探り入れた各種入学試験を実施しています。高等学校における基礎学力の「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を、それぞれの入学試験において重み付けを行い評価しています。

| | |
|---|---|
| 国際学部アドミッション・ポリシー | 国際学部アドミッション・ポリシー |
| 国際学部では、「国際性の涵養」という教育・研究上の理念を達成するために、「国際事情に関する課題の理解と分析」を教育・研究上の目的として います 。その目的の達成を通じて、「国際性」(世界理解、国際理解のための能力)と「人間性」を備えた世界市民として、国際的なビジネス・市民社会で活躍できる人材を養成 します 。その教育・研究上の目的は、学生が高い外国語能力を習得し、世界の各地域を様々な角度(特に人文・社会科学の観点)から理解し、分析できるようになること です 。 | 国際学部では、「国際性の涵養」という教育・研究上の理念を達成するために、「国際事情に関する課題の理解と分析」を教育・研究上の目的として います 。その目的の達成を通じて、「国際性」(世界理解、国際理解のための能力)と「人間性」を備えた世界市民として、国際的なビジネス・市民社会で活躍できる人材を養成 します 。その教育・研究上の目的は、学生が高い外国語能力を習得し、世界の各地域を様々な角度(特に人文・社会科学の観点)から理解し、分析できるようになること です 。 |

このような教育・研究上の理念・目的を持った本学部では、以下のようなアドミッション・ポリシーを示して学生を迎え入れる**ます**。

- 人文・社会科学の多岐にわたる領域について幅広い関心と、一定の学力と論理的思考力を持ち、総合的な観点からそれらの課題に取り組もうとする意欲を持つ者
- 主体的な関心に応じて、みずからの問題を発見し、その問題解決に実践的に取り組もうとする意欲を持つ者
- グローバル化する社会の中で他者の想いや異文化に関する感性や、自己のありかたに相対的・反省的視点を持つことが期待される者
- 関西学院に対して強い帰属意識を持ち、スクール・モットーである「Mastery for Service(奉仕のための練達)」という精神を体現しようとする意欲を持つ者
- 海外生活経験を持つ生徒、留学生等、多様なバックグラウンドを有する者
- 優れた外国語能力や、特定の分野において優れた学力・能力を持ち、入学後にそれを活かした教育成果が期待できる者

以上の項目を募集方針の要素として、教科・科目を設定して筆記試験を中心とする一般選抜入学試験と、面接等を探り入れた各種入学試験を実施しています。高等学校における基礎学力の「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を、それぞれの入学試験において重み付けを行い評価しています。

| | |
|--|--|
| 教育学部アドミッション・ポリシー | 教育学部アドミッション・ポリシー |
| 教育学部は、「子ども理解」を基本的な教育理念として、学校教育及び保育の現場で活躍する「教育者」、広く社会で子どもを育てる活動にかかわり、またそうした活動を支援できる「教育者」を養成することを目的としています。そのため、「実践力」、「教育力」、「人間力」など「教育者」に求められる資質をさらに伸ばそうとする意志を持つ者を受け入れることを基本方針としています。 | 教育学部は、「子ども理解」を基本的な教育理念として、学校教育及び保育の現場で活躍する「教育者」、広く社会で子どもを育てる活動にかかわり、またそうした活動を支援できる「教育者」を養成することを目的としています。そのため、「実践力」、「教育力」、「人間力」など「教育者」に求められる資質をさらに伸ばそうとする意志を持つ者を受け入れることを基本方針としています。 |

より具体的には、教育学部は、教育という営みに幅広い関心を持ち、かつ学校、幼稚園、保育所など教育・保育現場や広く社会における教育の諸活動にかかわり、問題解決ができる実践家を目指す者を受け入れたいと考えています。

教育は人間の心に深く関係する営みであるとともに、教員・保育者は子どもとのかかわりや保護者とのかかわりも密です。それら他者とのかかわりを維持し、発展させるために必要な能力の基礎となる読解力と論理的思考を含んだ基礎的な学力を有する者を受け入れます。また、「教育者」となる資質として、基本となる教科を幅広く学習している者、特定の分野における優れた学力や能力を持ち、さらに入学後に学力の伸長が期待できる者を受け入れます。

以上を募集方針の要素として、教科・科目を設定して筆記試験を中心とする一般選抜入学試験と、面接等を探り入れた各種入学試験を実施しています。高等学校段階までに身につけた「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」をそれぞれの入学試験において評価しています。

| | |
|---|---|
| 総合政策学部アドミッション・ポリシー | 総合政策学部アドミッション・ポリシー |
| 本学部が教育研究の目的としている、現代社会の諸問題に的確に対応できる人材を養成するため、必要となる基礎的学力を有することを前提としつつ、資質の異なる多様な学生を受け入れることにより、相互に刺激しあい学びあう教育研究環境の場を整えます。入学に必要な基礎的学力としては、文理の幅広い学びとともに、入学後の教育に対応できる一定の外国語運用能力を有していることが望まれます。また学生の資質としては、特に社会への幅広い関心と考える力、主体性をもって多様な人々と協働し学ぶことができることが求められます。学生は入学後、入学前の基礎的知識のうえに本学部の理念である共生への理解を深め、各自が関心をもつ専門領域において必要となる能力を身に着けるとともに、異なる専門領域についても幅広い学びを探求することが期待されます。 | 本学部が教育研究の目的としている、現代社会の諸問題に的確に対応できる人材を養成するため、必要となる基礎的学力を有することを前提としつつ、資質の異なる多様な学生を受け入れることにより、相互に刺激しあい学びあう教育研究環境の場を整えます。入学に必要な基礎的学力としては、文理の幅広い学びとともに、入学後の教育に対応できる一定の外国語運用能力を有していることが望まれます。また学生の資質としては、特に社会への幅広い関心と考える力、主体性をもって多様な人々と協働し学ぶことができることが求められます。学生は入学後、入学前の基礎的知識のうえに本学部の理念である共生への理解を深め、各自が関心をもつ専門領域において必要となる能力を身に着けるとともに、異なる専門領域についても幅広い学びを探求することが期待されます。 |

以上の項目を募集方針の要素として、教科・科目を設定して筆記試験を中心とする一般選抜入学試験と、面接等を探り入れた各種入学試験を実施しています。高等学校における基礎学力の「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を、それぞれの入学試験において重み付けを行い評価しています。

| | |
|--------------------|--------------------|
| 変更前 | 変更後 |
| 総合政策学部アドミッション・ポリシー | 総合政策学部アドミッション・ポリシー |

| | |
|--------------------|--------------------|
| 変更前 | 変更後 |
| 総合政策学部アドミッション・ポリシー | 総合政策学部アドミッション・ポリシー |

| | |
|--------------------|--------------------|
| 変更前 | 変更後 |
| 総合政策学部アドミッション・ポリシー | 総合政策学部アドミッション・ポリシー |

| | |
|--------------------|--------------------|
| 変更前 | 変更後 |
| 総合政策学部アドミッション・ポリシー | 総合政策学部アドミッション・ポリシー |

| | |
|--------------------|--------------------|
| 変更前 | 変更後 |
| 総合政策学部アドミッション・ポリシー | 総合政策学部アドミッション・ポリシー |

＜評価専門委員会・第三者評価結果＞ 2017年2月6日公示

- ・ 理念・目的・教育研究目標、方針等の検証状況の確認と、6つの教育研究目標とアシスト目標及び内部質保証の各事項について、第三者の目からその妥当性を評価することを求められました。理念・目的に沿った教育研究目標等の設定、特に、2021年度を目指した年次ごとの数値目標が示されていることは、目標達成に向けた進捗状況を知る上で重要であると思います。また、目標達成の責任主体となる部局等の明示、目標達成のための方法と手順を記載した構造化された自己点検・評価の確認シートが整えられ、その限りにおいては、第三者として、特に異論を差し挟む余地はありません。概ね、的確に検証作業が行われていると思います。
- ・ ただし、目標設定の妥当性の検証については、必ずしも十分ではないという印象を持ちます。総じて高い目標が掲げられているのは、質向上に向けての貴学の意欲の表れとして評価できますが、目標の達成には、貴学が保有している諸資源、大学を取り巻く高等教育環境の変化などと、絶えず照合しながら目標を設定することが重要です。現段階では達成度評価がCもしくはDとなっている事項が多いようですが、年次を重ねるに伴い評価が上がるようになっていきます。しかし、どのような努力と条件整備がなされれば達成度が上がるのか、その点は必ずしも明確ではありません。改革の方向性を示す目的とは異なり、目標の設定には、最大限の努力を行えば実現の可能性あるという確かな見通しが必要です。
- ・ 本年は、教育研究目標の下位目標(6)として、「大学院の充実」が挙げられている点は、貴学の将来の教育研究体制の再構築にとって重要な点であると思います。昨年度(2015)、「大学院問題は全て研究科任せといった大学の姿勢では、大学院の充実を述べた中教審答申を尊重し、独自の教育課程である大学院の充実に責任を持っている大学の姿勢としては問題がある。(中略)貴学が今後、わが国における私学の雄として存在感を高めるためには、大学院の充実に向けた全学レベルでの議論が求められる」と評価シートに記載しました。今回、A票の変更点として、大学院のあり方について追記がなされた点は、大学全体として大学院の充実に責任を持つ確固たる意思の表れとして大いに評価できます。願わくば、学士課程教育においても、全て各学部任せではなく、貴学の目指す学士課程教育の共通目標を定め、その上で各学部の独自性を発揮するという教育システムの基本的な枠組みの構築を望みたいと思います。
- ・ 学士課程教育という表現が用いられるようになった背景には、大学の大衆化・多様化が進む一方で、学術の高度化・複合化の進展が見られる状況の中で、学士課程においては基礎的・一般的な教育を中心に置き、専門教育は主に大学院に主座を移すという相対的な役割分化を求める流れがあります。従って、大学院の充実は、その基盤となる学士課程教育の見直しと絶えず連動させて考えることが必要です。貴学は、世界市民の育成のための7つのスクール・モットー掲げていますが、これこそ、貴学が目指す普遍的な教育目標であり、この基盤の上に各学問分野における優れた人材養成を目指すことが、貴学らしい教育のあり方であると考えます。
- ・ 昨年度、大学全体と機構・センター間の関係性に関する評価で、「部局自治の意識が強い大学において、全学的な目標・方針を構成員に浸透させ、全学的な教学事項を司る部局を超えた組織の活動に期待するところは大きい。とりわけ、「Mastery for Services」を体現する世界市民の育成を目指す貴学にとっては、部局における専門分野ごとの教育の質の向上への努力と並んで、あるいは、それ以上に、機構・センターに期待されるところは大きい」と述べましたが、本年も同じ点を指摘したいと思います。教育目標や業務目標が明確な各センターは、とかく自己の業務の円滑な遂行のみに注力しがちですが、「教育課程基本方針策定委員会」が定めた全学の教育目標・方針に照らしてチェックし、人的・物的・資金的な資源投入などを統括し、適切な教学マネジメント機能を発揮することは、教務機構の重要な役割であると思います。副学長が機構長を務め、機構の下に教務委員会を置くという執行体制は、教職協働型の教学運営体制を目指すものであり、他大学にとっても大いに参考になると思います。
- ・ 今回、「アシスト目標」という名称で、これまで個別に考えられていた機構及びセンターの役割を全学的な枠組みの中に位置づける変更がなされたのは、全学的な枠組みの中で学内の諸教育組織間の有機的な連携を高めようという意図の表れとして評価できますが、教務機構の統括範囲が、学部・研究科に及ばない点は少し気になる点です。教務機構規程第2条で「機構は、本学における正課教育を中心に教育活動全般の発展に寄与する」とされています。これを素直に読めば、学部・研究科の教育活動についても、統括する役割を担っていると規定上は考えられるように思います。教務機構は、5つのセンターの統括機構に留まらず、学部・研究科の教育活動に対しても、全学的視点から評価を行い、必要に応じた調整機能や提言を積極的に行う教学に関する統括機構として明確に位置づけることが必要であると思います。
- ・ センター等の特化した活動を大学全体の教育研究目標をアシストする機能を担うものと位置づけ、全学が目指す教育研究目標の枠組みの中に位置づけようという意図は理解できます。しかし、大学という機関の中で設置されているセンター等は、完全に独立して機能しているわけではなく、活動の実態はともかく、それを支える「ヒト・モノ・カネ」といった諸資源は大学の保有資源であり、あえて、「アシスト目標」という名称が必要かどうか、些か違和感を覚えることも事実です。各センター等の活動が関係者以外には分かりにくく、大学構成員全体のセンター活動への関心と理解が十分でないといえれば、それは各センターの学内に対する情報発信に問題があるからだと思います。学部・研究科も含め、大学を構成する各組織は、それぞれの活動について、大学構成員に対して説明責任を果たす義務があることは言うまでもありません。少なくとも各センター等を所管する各機構は、絶えず、そのことに気を配り、各センターの活性化と学内資源投資に見合う成果が上がっているかどうかを、定期的にモニターし、その結果を学内に公表し、改善方を積極的に提案する必要であると考えます。
- ・ A票で最も気になる点は、A票⑦の教員組織の編成方針についての記載内容です。「教員組織の編成方針については、学部・研究科それぞれに定めることとし、大学全体での方針は定めない」という方針が変更されませんでした。このことは、大学基準協会の大学基準「教員・教員組織」に抵触する可能性があります。大学基準で求めているのは、「大学は、大学として求める教員像と教員組織の編成方針明確に定めること」であり、学部・研究科で定めるとする貴学の方針は、厳密に言えば大学基準協会の大学基準に合致していません。
- ・ 求める教員像については(教育者として)(研究者として)(組織の構成員として)(人として)、それぞれ求める教員像は示されていますが、いずれも、抽象的・一般的記述に留まっており、求める教員像と合致しているかどうかを判断する基準については、何も触れていません。例えば、カリフォルニア大学では、教員の任用基準として、(1)授業科目と専攻内容の整合性、(2)専攻分野における研究実績、(3)授業管理能力、(4)他分野への関心と学識の広がり、(5)教育活動への情熱、(6)学生のレベルに応じた指導力、(7)学問へのオリエンテーション能力、この7つを教員の任用の基準として定め、任用後も学生評価をも含めて、各基準についての教員の教育力の評価を行っています。貴学のスクール・モットーは、教育の実施主体である教員としても当然準拠すべきものであり、それとの関連で、より踏み込んだ教員像を示してほしいと思います。
- ・ 教員の募集・採用・昇任等に関する基準や手続き、教員の年齢構成、教員の分野構成、教員の男女比、外国人教員の割合など、すべて学部・研究科任せというのでは、機関としての大学の人事管理上に問題があるといわなければなりません。学生や社会のニーズの多様化、学問の高度化と複合化は、大学が保有している人的資源を全学的な視点からの見直しを求めており、また、肥大する人件費の増大を合理的に抑制することは経営上の重要な課題となっています。このような課題は、学部・研究科単位で対処することは自ずと限界があります。学部・研究科といった組織を単位とした教育活動から、教育プログラムによる教育活動への転換が叫ばれている今日、場合によっては、学部・研究科に全面的に委ねている教育課程の編成権の見直しが必要になる可能性もあります。教育責任の明確化という意味では、学部・研究科制度のメリットは無視できませんが、弾力的な教育システムの構築のためには、超部局的な視点から検討を加えることも必要であると思います。
- ・ いずれにしても、全学的な視点に立った教育改革が意図されているのに、それを支える教員組織に関しては、依然として学部・研究科に全てを委ねるというのは、どう考えても矛盾です。国立大学法人では、大学としての教員編成方針を定め、その方針に沿って、各学部・研究科は最適な人事を行うという方向に移行しています。国立と私立では事情が異なるとはいえ、大学としての教員組織の編成方針を定めていないのは、やはり瑕疵があると言わざるを得ません。学部・研究科を中心に展開されている教育研究活動の自主性・自律性を大きく損なわない範囲で、大学としての教員組織の編成方針を策定することは、さほど難しいことではないと思います。現在、全学的な教学に関する方針の適切性の検証体制について見直しを行っているといわれていますが、是非、この点を含め広い視野から検討されることを期待しています。(A)

- ・ 昨年度、A-1の[目指す人間像]にある「社会変革への気概」が、「学部、研究科の区別なく共通して身につけておくべき知識・能力と学生像」に反映されていないというコメントを致しました。今回再度読み返し、「より良い人間関係や社会を築くために、困難を乗り越えて持続的に貢献し続ける力」の「よりよい社会を築くために」にかなり一タウダウンした片鱗が見られることを発見しました。[目指す人間像]を何時制定されたのかは承知しておりませんが、「社会変革の気概」は、1970年代を知る人間には馴染のある言葉ではあるものの、表現としてやや大時代的なのかも知れません。
- ・ A-3の目標 2「研究支援の充実と成果の社会還元及び社会連携の強化」の「研究支援の充実」は、大学全体の目標というより、大学の本部ないし担当の機構としての目標ではないでしょうか。大学本部ないし機構は大学の一部であり、その意味ではアシスト目標です。また、目標 6「大学院のあり方」のみ、タイトルが方向性を示していないのは奇異に感じます。検討が望まれます。
- ・ A-4のカリキュラムポリシー(CP)については、全学のものしか示されていないのは疑問を覚えます。各学部のAPIは、育成目標を掲げている点においてCPの領域にまで踏み込んでおり、極めて詳細であるのに対し、CPは大学全体のものとしても簡潔に過ぎるようです。「学部の区別なく共通して卒業時に身につけておくべき知識・技能」をどうやって身につけるかについてもCPは沈黙しており、各学科におけるカリキュラム編成の基本方針として機能するとは考えにくいものになっています。入学後の教育課程の編成方針であるCPより、入学者の選定方針であるAPを重視するということは、入学後の教育より、入学者の選抜を重視するかの印象を与えかねません。検討いただく必要があると考えます。
- ・ A-5のAPIについては、どんな資質・能力を求めているかを高校生に示す文書だと認識しておりますが、入試別のAPIは、どんな入試を行うかを説明する「入試要項」であるかのように見えます。当該入試において求める資質・能力に言及しているのは、指定校推薦の教育学部、公募推薦の人間システム工学科など、少数に限られます。求める資質・能力に言及しやすはずのAO入試でも、求める資質・能力を記述していない学部が存在します。多元的な入試は行われていますが、主力である一般入試には、「多元的な評価」は存在しないようです。高大接続の改善の一環として、入試についても検討いただいているようですが、まずはAPIについて、再検討いただく必要がありそうです。
- ・ A表別紙1の機構・センター中、言語教育研究センター、高等教育推進センター、ハラスメント指導センター、ボランティア活動支援センターには別紙2がありませんが、これは何故なのでしょう。
- ・ 同・別紙2において、研究推進社会連携機構の「方針」として示されているのは、「機構の方針」ではなく、「機構が学内研究者に周知すべき研究に関する方針」ではないでしょうか。(B)
- ・ APIについての詳細な記述、機構系部局のミッションの明確化が進むなど、理念、目的、教育研究目標、方針等については具体化が進み、内容がより整理されてきたとの印象を受けます。詳細な内容についての公表は今年度中に予定されているものも多く、今後の学内外への浸透とそれに対するフィードバックの内容確認、反映などを進めることが求められます。
- ・ 学生に対する施策の中では、ラーニングアシスタント制度のような個々の学生にきめ細かく対応する施策の導入が図られるなどの点が評価されます。従来にも増して、個々の学生の経済・生活環境、心の問題なども多様化してきているため、学生がいわば、こぼれ落ちないようにする観点により重要になっています。その点では、学生への相談体制の拡充(C票の個別の施策とも関連しますが)を早期に図ることが求められます。
- ・ SGUを契機としたグローバル化に対応した施策が積極的に展開されており、提携大学・機関数の拡大など、着実に成果として表れてきていたり、新たな研究プロジェクトが立ち上がるなどの動きが生じている点は評価されます。今後は量的拡大にとどまらず、質的な成果についてもモニタリングして次の活動に生かしていくことが重要になると考えられます。
- ・ 学習成果測定の指標の開発・分析が未着手の課題として指摘されています。一方でポートフォリオの導入(2017年度仮運用、2019年度完成予定)、ハンズオン・ラーニングセンターの設置(2017年度)、シラバスシステムの改修(2018年夏)など新たな教育のツールや新しいタイプの教育方法の導入が進められている点は評価されます。それらの施策の効果を明らかにするためにも、学修行動調査の導入など、成果を測定するためのアプローチも併せて検討すべきと考えられます。IRについては他大学でも注目されて対応が進められているところであり、それらの関学に関するデータを統合的に扱うIR担当部署の設置(2018年度を予定)に向けた準備を進めることが強く期待されます。
- ・ 産学連携の強化、大型化については、今年度、政府でも重要な課題として問題提起されており、検討が進められている課題です。産学連携の充実とそれに付随して大学院での教育、研究の活性化を進める取り組みが重要となります。教育研究目標に追加された「大学院のあり方(目標6)」について、本格的な検討を進めていくことが期待されます。(C)
- ・ 今年度よりアシスト目標として、位置づけを整理されているが、より深掘りする取り組みで評価できるものであるが、全体の教育目標とアシスト目標のつながりが若干見えにくくなっている印象がある。できれば教育研究目標とアシスト目標の関係性を見える化できるとなおよいと思う。(D)
- ・ A票全体について、昨年度に引き続き改善が加えられ、充実してきていると思われれます。あとは、各部局で実際に具体化できるかどうか問われます。「2016年度中に公表」「2016年度中に検証予定」「現在見直しているところ」が見られましたが、各部局が前に進もうとしている姿勢が伺われます。予定される公表、検証、見直しが進むことが期待されます。
- ・ A-3教育研究目標で、「目標6大学院のあり方」が追加されましたが、大学院は大きな課題であり、今後の検討が期待されます。
- ・ アドミッションポリシーについては、全面的に見直され改善されています。学部によっては、高校生にとってわかりやすい具体的な内容になっていることは評価できます。
- ・ 大学院については、学則を引用していますが、今後、より充実した内容になることが望まれます。
- ・ 学生支援については、「現在見直しているところ」の箇所が多くみられますが、今後の進展が望まれます。
- ・ 2018年度から始動する中期総合経営計画が策定中とのことですが、将来をみた大胆な改革が期待されます。
- ・ 別紙2の各機構の「方針」では、周知・公表されていないとするチェックがみられましたが、できるだけ周知・公表することが望まれます。(E)

- ・ A-1
しっかりした理念の設定がされており評価できますが、各項目間で、一部、表現の不統一が見られるので表現の統一による各項目相互の整合性の確保が期待されます。例えば、「ミッションステートメント」の項において〈学びと探求の共同体〉の表現が、「めざす大学像」の項においては、〈垣根なき学びと探求の共同体〉となっていたり、同様の各項目で、「創造的かつ有能な世界市民を育む」と「有能にして心温かい世界市民を社会に送り出す」等です。表現の違いに理由があるのであれば、それが分かるような説明が必要です。
- ・ A-2
めざす学生像が具体的に示されており評価できます。ただし、各学部・研究科がめざす学生像との整合性をチェックするうえで、資料として各学部・研究科の「めざす学生像」を添付することが期待されます。
- ・ A-7
「生活支援」の項では、何らかの災害補償制度が設けられていれば、この点について言及することが期待されます。
- ・ A-8
(教育者として)、(研究者として)、(組織の構成員として)、(人として)の各「像」の説明が一般的で、関西学院のミッションステートメントとのつながりがより明らかになるように、関西学院らしい「像」の表現が期待されます。
- ・ A-11
2013年度の大改革後、2016年度までの経過についても付言することが期待されます。
- ・ A-12
財政上の目標値だけでなく、「財源の確保」や「強固な財務基盤の確立」に関わる具体的な財務方針として今後、検討を進める予定の事項の追記が期待されます。
- ・ A-16
ボランティア活動・教育の組織的・体系的な活性化につき重要な機能を担う組織の一つである「ボランティア活動支援センター」を、「ボランティア活動・教育に関する方針」の説明の中に入れる必要がないかの検討が期待されます。(F)
- ・ アシスト目標を加えたことは、各機構センターの個別目標を明確化するために有意義と思われます。DP、CPIは全学的立場から要約して書かれていますが、APIは学部ごとに、その特徴が紹介に書かれています。APIについて、大学全体の所には、もう少し簡略化して要点のみ書き、詳細は学部のところに書くのがよいように思われます。(G)
- ・ 学生や教職員に関する方針等のうち、未公表のものがいくつかありますが、計画どおり策定・公表されるよう努めてください。
特に、以下の方針等は、学生に直結するものですので、公表・周知にとどまらず、学生が十分に理解し、実効的に活かされることを期待します。
 - ①「目的」、「学部・研究科の区別なく共通して身につけておくべき知識・能力と学生像」、「学位授与方針」
 - ②「教育研究目標」
 - ③「教育課程の編成・実施方針」
 - ④「学生の受け入れ方針」
 - ⑤「正課外教育の支援方針」
 - ⑥「学生支援に関する方針(修学支援、生活支援、進路支援)」
 - ⑬「ボランティア活動・教育に関する方針」(H)
- ・ 適切に検証状況が確認されており、評価します。(I)
- ・ 定められた方針が周知され一体感を持って運用されることが期待されます。(J)